

中医協 総 - 5 - 4  
2 3 . 9 . 7

中医協 検 - 2 - 3  
2 3 . 9 . 7

平成 22 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（平成 22 年度調査）

歯科技工加算創設の影響調査

報告書



# ◆◆ 目 次 ◆◆

1. 調査目的.....	1
2. 調査対象.....	1
3. 調査方法.....	1
4. 調査項目.....	2
5. 結果概要.....	3
(1) 回収の状況.....	3
(2) 施設調査の概要.....	4
①施設の概要.....	4
②歯科技工の体制整備状況.....	12
③有床義歯修理の状況.....	21
④施設内歯科技工士の活用による効果.....	42
⑤歯科技工加算に関する意見等について（自由記述形式）.....	44
(4) 患者調査の結果概要.....	46
①回答者の属性.....	46
②歯科診療の状況.....	54
④歯科技工加算について.....	71
⑤入れ歯治療に対する今後の意識等.....	96
⑥入れ歯の修理についての意見（自由記述形式）.....	102
6. まとめ.....	104
(1) 施設調査.....	104
(2) 患者調査.....	107



## 1. 調査目的

患者の「生活の質に配慮した歯科医療を充実する観点から、歯科技工体制を整え、歯科医療機関に配置されている歯科技工士の技能を活用している歯科医療機関の取組を評価する」観点から平成22年4月の診療報酬改定において、有床義歯修理に係る「歯科技工加算」が新設された。

本調査では、歯科保険医療機関における歯科技工の体制整備の状況の把握、改定前後における有床義歯修理の変化等の把握、歯科技工士の活用の効果等の把握、有床義歯の修理に関する患者の意識等を把握することによって、診療報酬改定の効果を検証することを目的として実施した。

## 2. 調査対象

本調査では、「施設調査」「患者調査」の2つの調査を実施した。各調査の対象は、次のとおりである。

○施設調査：平成22年8月に「歯科技工加算」の施設基準を届け出ている保険医療機関(7,306施設)の中から無作為抽出した2,000施設を対象とした。

(発送先内訳：診療所 1,913施設、病院 70施設、大学病院・歯学部附属病院 17施設)

○患者調査：上記「施設調査」の対象施設に調査日に来院し、「歯科技工加算」を算定した患者を対象とした。1施設あたり2名の患者を本調査の対象とした。

※平成22年8月現在の歯科診療所の施設数：68,368施設

## 3. 調査方法

本調査は、対象施設・患者が記入する自記式調査票の郵送配布・回収により行った。

「施設調査」については、施設の概要、歯科技工の体制整備の状況、有床義歯修理の状況、施設内歯科技工士の活用による効果を尋ねる調査票（「施設票」）を配布した。

「患者調査」については、基本属性、受診した歯科診療の内容、歯科技工加算に関する考え、入れ歯治療に対する意識等を尋ねる調査票（「患者票」）を配布した。患者票の配布に際しては、上記の「施設調査」の対象施設を通じて行ったが、回収は、各患者から調査事務局宛の返信用専用封筒にて直接回収した。

調査実施時期は平成22年10月18日～平成23年1月5日とした。

#### 4. 調査項目

区分	主な調査項目
施設調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>○施設の概要               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 種別、開設主体、施設開設時期、標榜診療科</li> <li>・ ユニット台数、職員数</li> </ul> </li> <li>○歯科技工士の体制整備の状況               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歯科技工加算の施設基準届出受理時期</li> <li>・ 常勤歯科技工士の配置時期</li> <li>・ 常勤歯科技工士の増員の有無、増員形態、増員数</li> <li>・ 非常勤歯科技工士の増員の有無、増員数</li> <li>・ 歯科技工室及び機器の整備時期</li> <li>・ 患者への周知方法、院内掲示の内容、周知方法としての院内掲示による効果</li> </ul> </li> <li>○有床義歯修理の状況               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歯科外来患者数、歯科技工加算算定患者数</li> <li>・ 有床義歯の修理延べ床数の変化</li> <li>・ 歯科技工加算を算定できない場合、その理由</li> <li>・ 有床義歯の修理の際における施設外の歯科技工所活用の有無、活用するケース</li> <li>・ 有床義歯の修理状況</li> </ul> </li> <li>○施設内歯科技工士の活用による効果               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施設内の歯科技工士の活用による効果</li> </ul> </li> <li>○歯科技工加算の問題点・課題等               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歯科技工加算についての問題点・課題</li> </ul> </li> </ul>
患者調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基本属性               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 性別、年齢</li> </ul> </li> <li>○受診した歯科診療の内容等               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 受診した施設の種類、かかりつけの有無、治療内容</li> <li>・ 修理した入れ歯の種類、個数、部分入れ歯の歯の本数</li> <li>・ 入れ歯の預け入れ期間</li> <li>・ 預けていた期間における支障の有無、食事の状況等</li> </ul> </li> <li>○歯科技工加算に関する考え               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歯科技工加算の説明の有無、説明に対する満足度</li> <li>・ 修理された入れ歯に対する満足度</li> <li>・ 歯科技工加算の認知度</li> <li>・ 当該施設が歯科技工加算の施設基準を満たしていることの認知度、知った方法</li> </ul> </li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歯科技工加算のポスターの認知度、理解度、評価</li> <li>・ 院内歯科技工室があることの安心感</li> <li>・ 院内に常勤歯科技工士がいることの安心感</li> </ul> <p>○入れ歯治療に対する意識等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 入れ歯の修理がすぐできる体制が整えられた歯科医療機関の利用希望</li> <li>・ 理想とする入れ歯の修理期間、日常生活に強い支障が出ないと思われる修理期間 / 等</li> </ul>
--	--

## 5. 結果概要

### (1) 回収の状況

本調査においては、期待回収率を55%程度<sup>1</sup>と設定した。

施設調査の回収数は1,259施設、回収率は63.0%であった。また、患者調査の有効回答人数は、1,284人であった。

この結果、期待回収率を上回る有効回収率となり、分析に十分耐えられる有効回答数を確保した。

図表 1 回収の状況

調査区分	有効回収数	有効回収率
施設調査	1,259	63.0%
患者調査	1,284	—

<sup>1</sup> 平成20年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（平成21年度調査）「歯科外来診療環境体制加算の実施状況」において歯科保険医療機関を対象にアンケート調査を実施したが、この調査での有効回収率が56.2%であった。この実績と同程度の期待回収率とした。

## (2) 施設調査の概要

### 【調査対象等】

調査対象：「歯科技工加算」の施設基準を届け出ている保険医療機関

回答数：1,259 施設

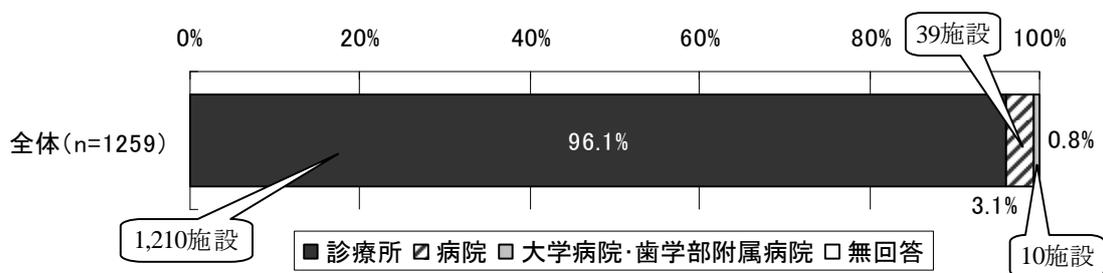
回答者：施設の管理者

### ①施設の概要

#### 1) 種別

施設種別についてみると、「診療所」が96.1%（1,210施設）、「病院」が3.1%（39施設）、「大学病院・歯学部附属病院」が0.8%（10施設）であった。

図表 2 種別<sup>2</sup>



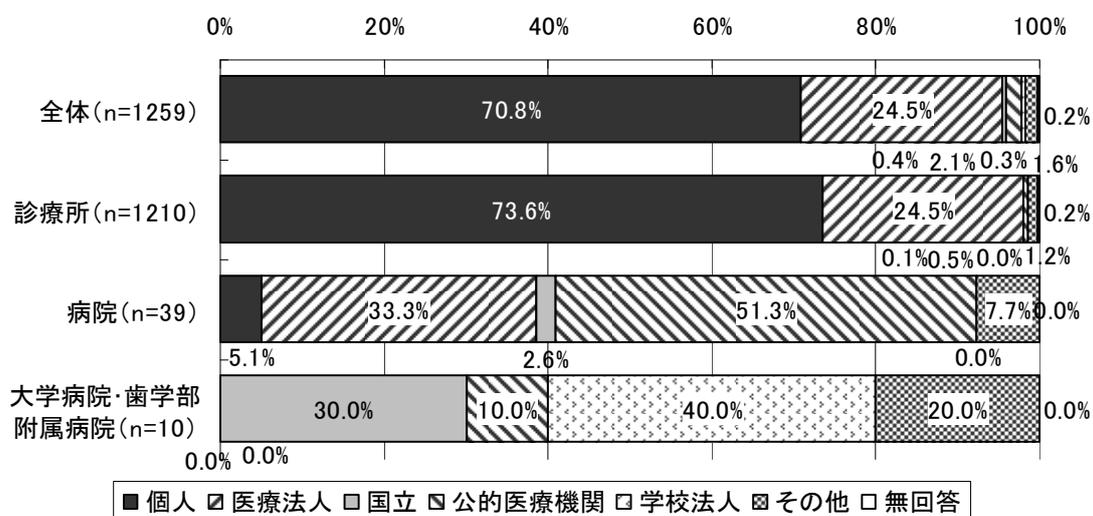
<sup>2</sup> 回答があった大学病院・歯学部附属病院には、医学部附属病院が4施設（口腔外科：3施設、矯正歯科・口腔外科：1施設）が含まれている。

## 2) 開設主体

開設主体についてみると、全体では「個人」(70.8%)が最も多く、次いで「医療法人」(24.5%)、「公的医療機関」(2.1%)であった。

診療所では、「個人」(73.6%)が最も多く、次いで「医療法人」(24.5%)であった。病院では、「公的医療機関」(51.3%)が最も多く、次いで「医療法人」(33.3%)、「その他」(7.7%)であった。大学病院・歯学部附属病院では、「学校法人」(40.0%)が最も多く、次いで「国立」(30.0%)であった。

図表 3 開設主体

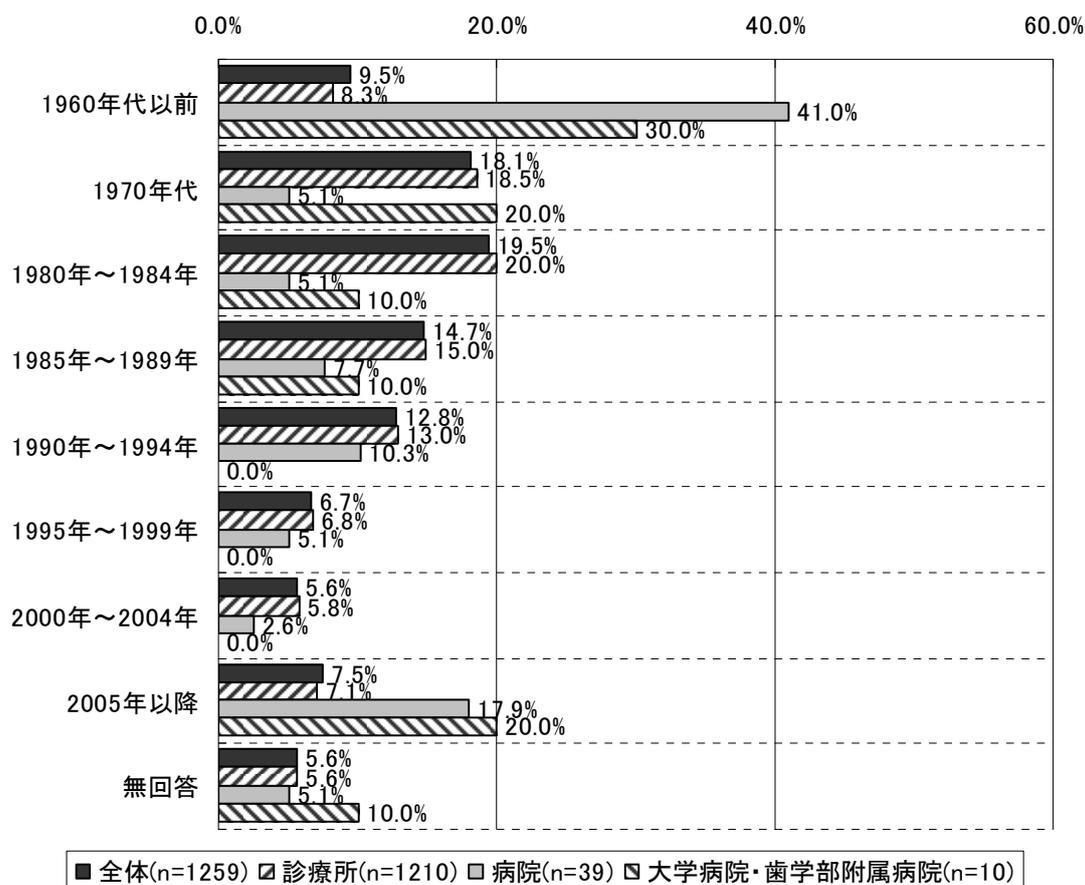


### 3) 施設開設時期

開設時期についてみると、全体では「1980年～1984年」(19.5%)が最も多く、次いで「1970年代」(18.1%)、「1985年～1989年」(14.7%)であった。

診療所では、「1980年～1984年」(20.0%)が最も多く、次いで「1970年代」(18.5%)、「1985年～1989年」(15.0%)であった。病院では、「1960年代以前」(41.0%)が最も多く、次いで「2005年以降」(17.9%)であった。大学病院・歯学部附属病院では「1960年代以前」(30.0%)が最も多く、次いで「1970年代」「2005年以降」(それぞれ20.0%)であった。

図表 4 施設開設時期

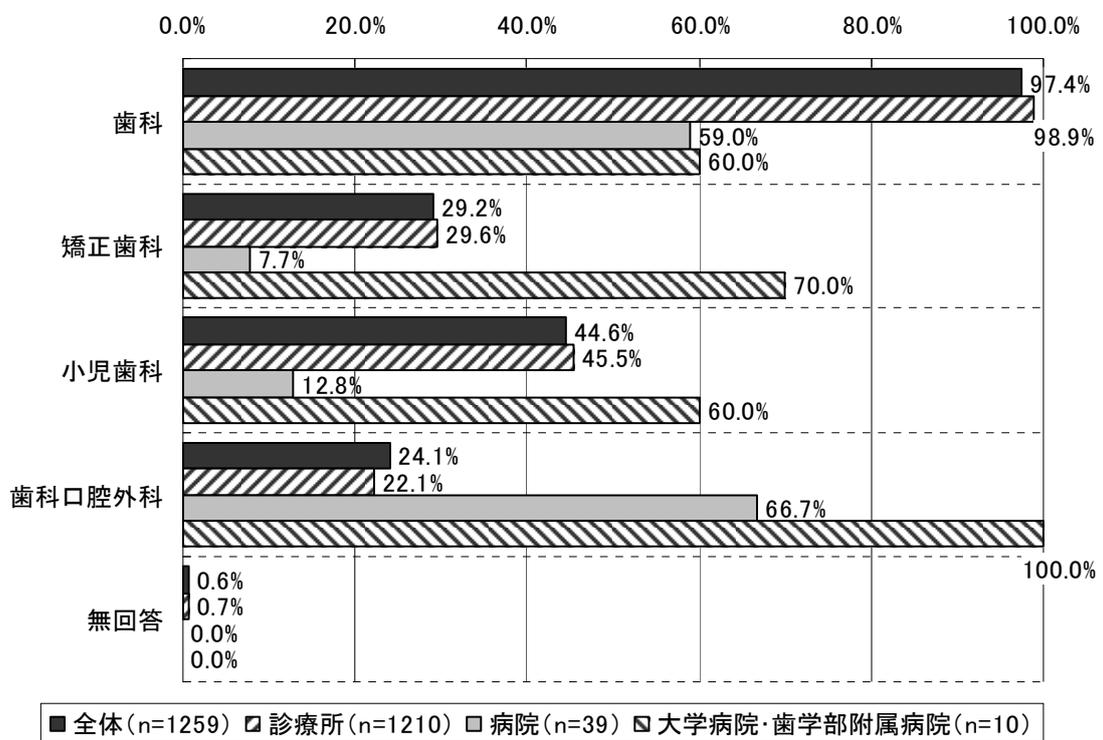


#### 4) 標榜診療科

標榜診療科についてみると、全体では「歯科」が97.4%、「矯正歯科」が29.2%、「小児歯科」が44.6%、「歯科口腔外科」が24.1%であった。

診療所では、「歯科」が98.9%、「矯正歯科」が29.6%、「小児歯科」が45.5%、「歯科口腔外科」が22.1%であった。病院では、「歯科」が59.0%、「矯正歯科」が7.7%、「小児歯科」が12.8%、「歯科口腔外科」が66.7%であった。大学病院・歯学部附属病院では「歯科」が60.0%、「矯正歯科」が70.0%、「小児歯科」が60.0%、「歯科口腔外科」が100.0%であった。

図表 5 標榜診療科（複数回答）



## 5) 歯科ユニット台数

施設別に歯科ユニット台数についてみると、1施設あたりの平均ユニット台数は、診療所が4.3台（標準偏差2.3、中央値4）、病院が5.1台（標準偏差1.9、中央値5）、大学病院・歯学部附属病院が97.8台（標準偏差90.5、中央値90.5）となった。

図表 6 歯科ユニット台数（施設別）

	平均値	標準偏差	最大値	最小値	中央値
全体(n=1,238)	5.1	11.6	231	2	4
診療所(n=1,189)	4.3	2.3	41	2	4
病院(n=39)	5.1	1.9	13	2	5
大学病院・歯学部附属病院(n=10)	97.8	90.5	231	5	90.5

※ユニット台数について無回答の診療所21施設を除いて集計をした。

施設別にユニット台数の分布についてみると、診療所では、「4台」（31.7%）が最も多く、次いで「3台」（30.3%）、「5台」（14.9%）となった。病院では、「4台」「5台」「6台」（それぞれ23.1%）が最も多く、次いで「3台」（15.4%）となった。大学病院・歯学部附属病院では、「11台以上」が70.0%であった。

図表 7 歯科ユニット台数分布（施設別）

	全体		診療所		病院		大学病院・歯学部附属病院	
	施設数 (件)	構成 割合	施設数 (件)	構成 割合	施設数 (件)	構成 割合	施設数 (件)	構成 割合
1台	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
2台	73	5.8%	72	6.0%	1	2.6%	0	0.0%
3台	373	29.6%	367	30.3%	6	15.4%	0	0.0%
4台	392	31.1%	383	31.7%	9	23.1%	0	0.0%
5台	190	15.1%	180	14.9%	9	23.1%	1	10.0%
6台	90	7.1%	81	6.7%	9	23.1%	0	0.0%
7台	37	2.9%	33	2.7%	3	7.7%	1	10.0%
8台	28	2.2%	28	2.3%	0	0.0%	0	0.0%
9台	14	1.1%	12	1.0%	1	2.6%	1	10.0%
10台	11	0.9%	11	0.9%	0	0.0%	0	0.0%
11台以上	30	2.4%	22	1.8%	1	2.6%	7	70.0%
無回答	21	1.7%	21	1.7%	0	0.0%	0	0.0%
合計	1,259	100.0%	1,210	100.0%	39	100.0%	10	100.0%

※大学病院・歯学部附属病院の11台以上の内訳：12台、44台、137台、164台、180台、189台、231台が各1施設

## 6) 職員数

平成 22 年 10 月における 1 施設あたりの常勤職員数（実人数）についてみると、診療所の「歯科医師」は平均 1.5 人（標準偏差 1.0、中央値 1）、「歯科技工士」は平均 1.2 人（標準偏差 0.7、中央値 1）、「歯科衛生士」は平均 1.9 人（標準偏差 2.1 人、中央値 2）、「その他」は平均 2.0 人（標準偏差 1.8、中央値 2）であった。

病院の「歯科医師」は平均 2.6 人（標準偏差 1.5、中央値 2）、「歯科技工士」は平均 1.3 人（標準偏差 0.6、中央値 1）、「歯科衛生士」は平均 2.9 人（標準偏差 2.2 人、中央値 2）、「その他」は平均 1.8 人（標準偏差 3.9、中央値 1）であった。

大学病院・歯学部附属病院の「歯科医師」は平均 107.5 人（標準偏差 104.4、中央値 73）、「歯科技工士」は平均 6.2 人（標準偏差 6.5、中央値 4）、「歯科衛生士」は平均 16.1 人（標準偏差 17.1 人、中央値 11）、「その他」は平均 26.9 人（標準偏差 29.3、中央値 17.5）であった。

図表 8 常勤職員数

(単位：人)

	歯科医師	歯科技工士	歯科衛生士	その他	合計
全体 (n=1,247)					
平均値	2.4	1.3	2.1	2.2	8.0
標準偏差	13.0	1.0	2.8	3.8	18.6
最大値	284	19	46	74	392
最小値	1	1	0	0	2
中央値	1	1	2	2	6
診療所 (n=1,199)					
平均値	1.5	1.2	1.9	2.0	6.7
標準偏差	1.0	0.7	2.1	1.8	4.2
最大値	11	11	35	16	68
最小値	1	1	0	0	2
中央値	1	1	2	2	6
病院 (n=38)					
平均値	2.6	1.3	2.9	1.8	8.6
標準偏差	1.5	0.6	2.2	3.9	5.8
最大値	7	3	10	24	36
最小値	1	1	0	0	3
中央値	2	1	2	1	7
大学病院・歯学部附属病院 (n=10)					
平均値	107.5	6.2	16.1	26.9	156.7
標準偏差	104.4	6.5	17.1	29.3	144.5
最大値	284	19	46	74	392
最小値	5	1	0	0	6
中央値	73	4	11	17.5	118

(注) 全ての項目について回答があった施設を対象に集計した

平成 22 年 10 月における 1 施設あたりの非常勤職員数（実人数）についてみると、診療所の「歯科医師」は平均 0.5 人（標準偏差 0.9、中央値 0）、「歯科技工士」は平均 0.1 人（標準偏差 0.5、中央値 0）、「歯科衛生士」は平均 0.8 人（標準偏差 1.1 人、中央値 0.5）、「その他」は平均 0.9 人（標準偏差 1.6、中央値 0）であった。

病院の「歯科医師」は平均 0.9 人（標準偏差 1.4、中央値 0.5）、「歯科技工士」は平均 0.0 人（標準偏差 0.1、中央値 0）、「歯科衛生士」は平均 0.7 人（標準偏差 1.0 人、中央値 0）、「その他」は平均 0.4 人（標準偏差 0.7、中央値 0）であった。

大学病院・歯学部附属病院の「歯科医師」は平均 38.4 人（標準偏差 39.3、中央値 27.9）、

「歯科技工士」は平均 0.3 人（標準偏差 0.7、中央値 0.0）、「歯科衛生士」は平均 2.2 人（標準偏差 3.7 人、中央値 0.7）、「その他」は平均 4.5 人（標準偏差 9.8、中央値 0.8）であった。

図表 9 非常勤職員数

(単位：人)

	歯科医師	歯科技工士	歯科衛生士	その他	合計
全体 (n=789)					
平均値	1.0	0.1	0.8	0.9	2.8
標準偏差	6.0	0.5	1.2	1.9	7.3
最大値	102	12	12	32	107
最小値	0	0	0	0	0
中央値	0	0	0.5	0	1.9
診療所 (n=750)					
平均値	0.5	0.1	0.8	0.9	2.3
標準偏差	0.9	0.5	1.1	1.6	2.6
最大値	7	12	8	20	29
最小値	0	0	0	0	0
中央値	0	0	0.5	0	1.8
病院 (n=29)					
平均値	0.9	0.0	0.7	0.4	2.1
標準偏差	1.4	0.1	1.0	0.7	2.0
最大値	6	0.8	3	2.7	8
最小値	0	0	0	0	0
中央値	0.5	0	0	0	1.6
大学病院・歯学部附属病院 (n=10)					
平均値	38.4	0.3	2.2	4.5	45.3
標準偏差	39.3	0.7	3.7	9.8	44.9
最大値	102	2	12	32	107
最小値	0	0	0	0	1.3
中央値	27.9	0.0	0.7	0.8	33.4

(注) 全ての項目について回答があった施設を対象に集計した

## ②歯科技工の体制整備状況

### 1) 歯科技工加算の施設基準届出受理時期

「歯科技工加算」の施設基準届出受理時期についてみると、診療所では「4月」(87.4%)と最も多く、次いで「5月」(4.9%)となった。病院では「4月」(94.9%)が最も多く、次いで「5月」(5.1%)となった。大学病院・歯学部附属病院では、「4月」(10施設、100.0%)であった。

図表 10 歯科技工加算の施設基準届出受理時期

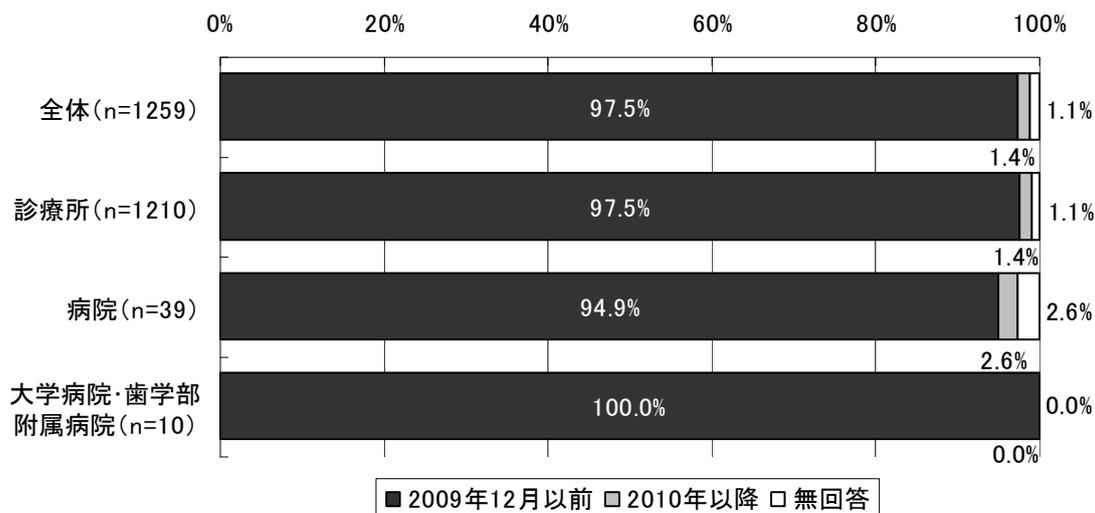
	全体		診療所		病院		大学病院・ 歯学部附属病院	
	施設数 (件)	構成 割合	施設数 (件)	構成 割合	施設数 (件)	構成 割合	施設数 (件)	構成 割合
1月	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
2月	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
3月	9	0.7%	9	0.7%	0	0.0%	0	0.0%
4月	1,104	87.7%	1,057	87.4%	37	94.9%	10	100.0%
5月	62	4.9%	62	5.1%	0	0.0%	0	0.0%
6月	26	2.1%	26	2.1%	0	0.0%	0	0.0%
7月	22	1.7%	22	1.8%	0	0.0%	0	0.0%
8月	1	0.1%	1	0.1%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	35	2.8%	33	2.7%	2	5.1%	0	0.0%
合計	1,259	100.0%	1,210	100.0%	39	100.0%	10	100.0%

## 2) 常勤歯科技工士の配置時期

常勤歯科技工士の配置時期についてみると、全体では「2009年12月以前」が97.5%、「2010年以降」が1.4%であった。

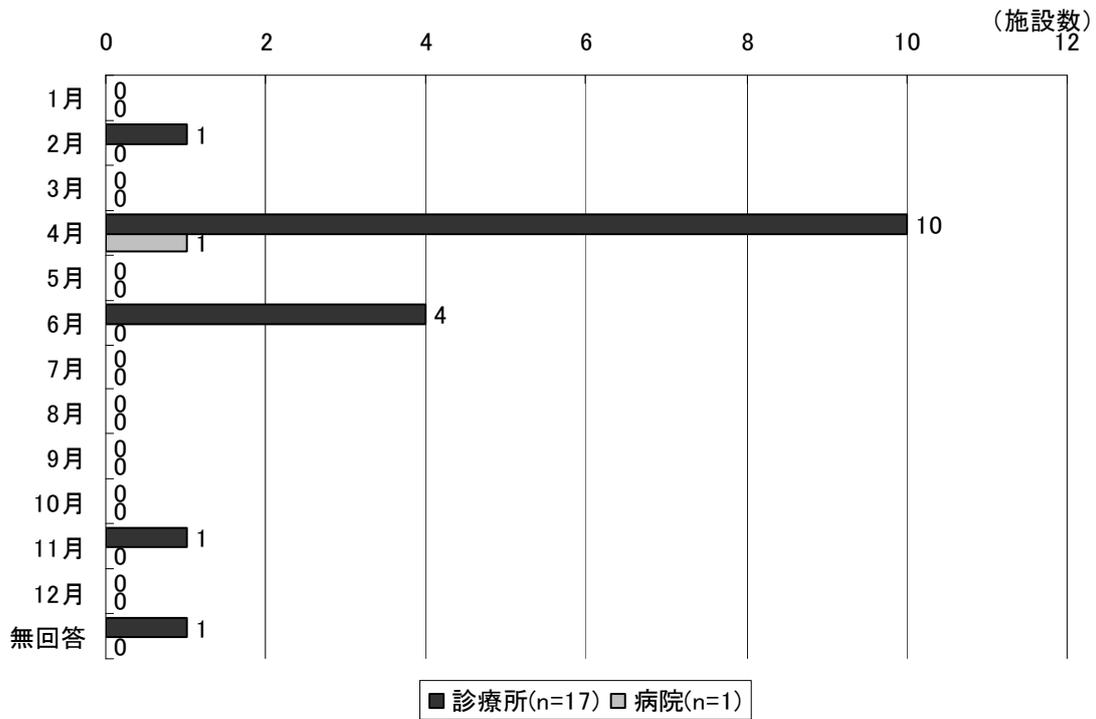
診療所では、「2009年12月以前」が97.5%、「2010年以降」が1.4%であった。病院では、「2009年12月以前」が94.9%、「2010年以降」が2.6%であった。大学病院・歯学部附属病院では、回答があったすべての施設が「2009年12月以前」が100.0%であった。

図表 11 常勤歯科技工士の配置時期



2010年以降の常勤歯科技工士配置月をみると、診療所では、「2月」が1施設、「4月」が10施設、「6月」が4施設、11月が1施設であった。病院では、回答のあった1施設は「4月」であった。

図表 12 2010年以降の常勤歯科技工士配置月



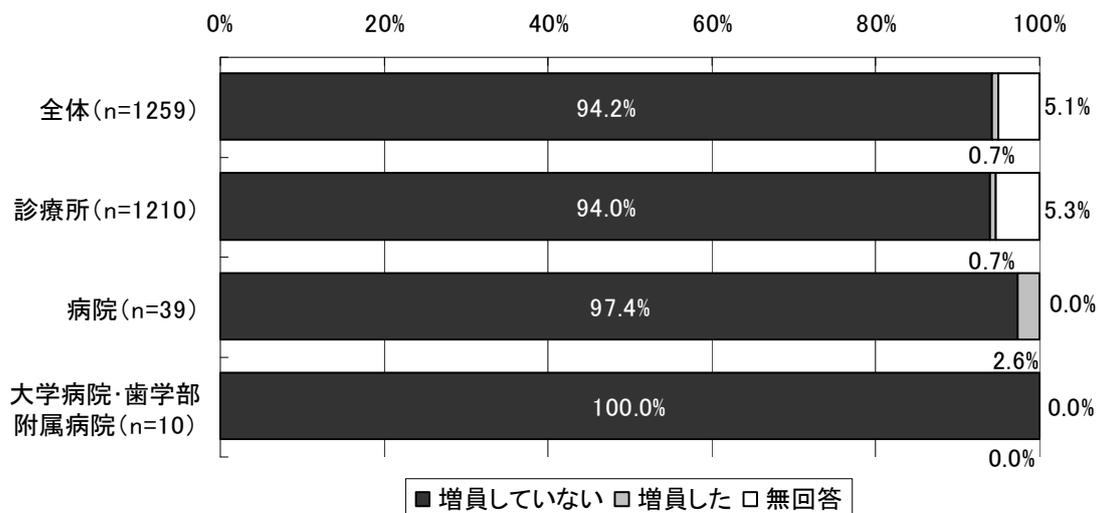
※大学病院・歯学部附属病院では、2010年以降の常勤歯科技工士配置した施設はなかった。

### 3) 常勤歯科技工士の増員の有無

常勤歯科技工士の増員の有無についてみると、全体では、「増員していない」が 94.2%、「増員した」が 0.7%であった。

診療所では、「増員していない」が 94.0%、「増員した」が 0.7%であった。病院では「増員していない」が 97.4%、「増員した」が 2.6%であった。大学病院・歯学部附属病院では全て「増員していない」(10 施設、100.0%)であった。

図表 13 常勤歯科技工士の増員の有無



常勤歯科技工士の増員の形態及び人数をみると、診療所では、新規に採用した人数が「1人」が 6 施設、「2人」が 2 施設であった。病院では、1人を非常勤から常勤にした施設が 1 施設であった。

図表 14 常勤歯科技工士の増員の形態及び人数

	新規採用した		非常勤から常勤にした	
	診療所	病院	診療所	病院
1人	6施設	0施設	0施設	1施設
2人	2施設	0施設	0施設	0施設
合計	8施設	0施設	0施設	1施設

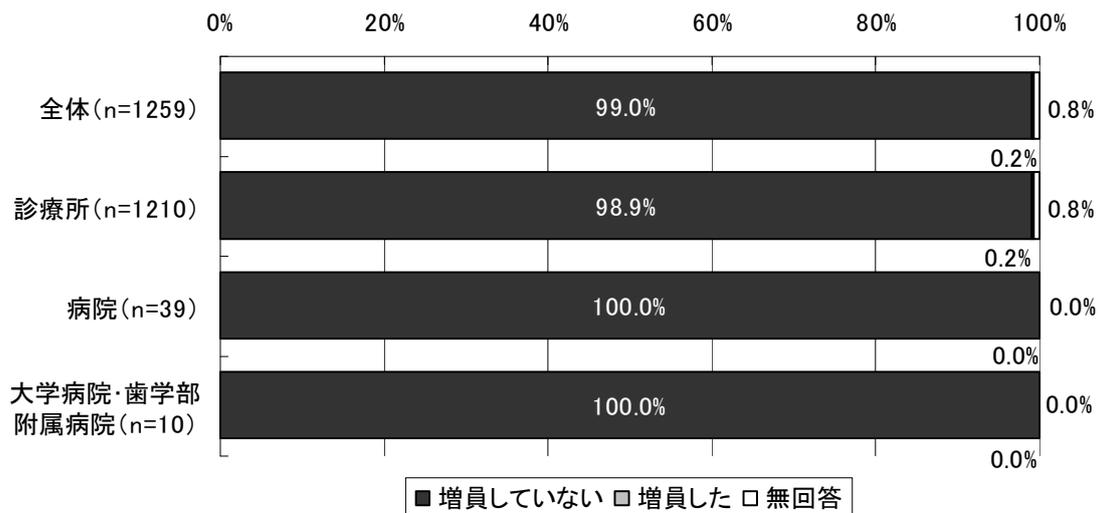
※大学病院・歯学部附属病院では、常勤歯科技工士を増員した施設はなかった。

#### 4) 非常勤歯科技工士の増員の有無

非常勤歯科技工士の増員の有無についてみると、全体では、「増員していない」が99.0%、「増員した」が0.2%であった。

診療所では、「増員していない」が98.9%、「増員した」が0.2%であった。病院、大学病院・歯学部附属病院では、全て「増員していない」(10施設、100.0%)であった。

図表 15 非常勤歯科技工士の増員の有無



診療所で1人の非常勤歯科技工士を増員した施設は2施設であった。

図表 16 非常勤歯科技工士の増員した人数 (複数回答)

	診療所
1人	2施設
無回答	1施設
合計	3施設

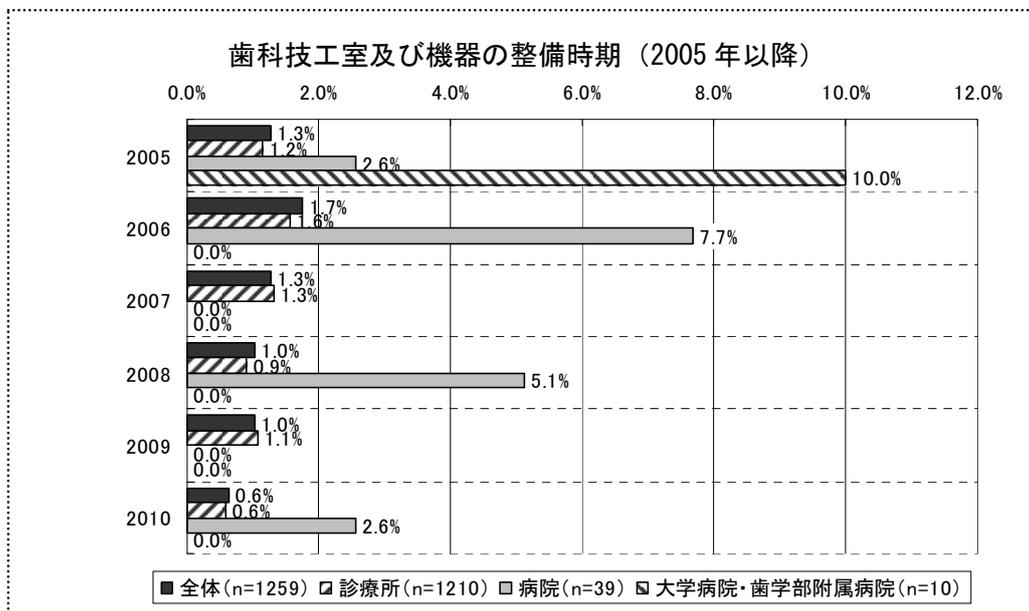
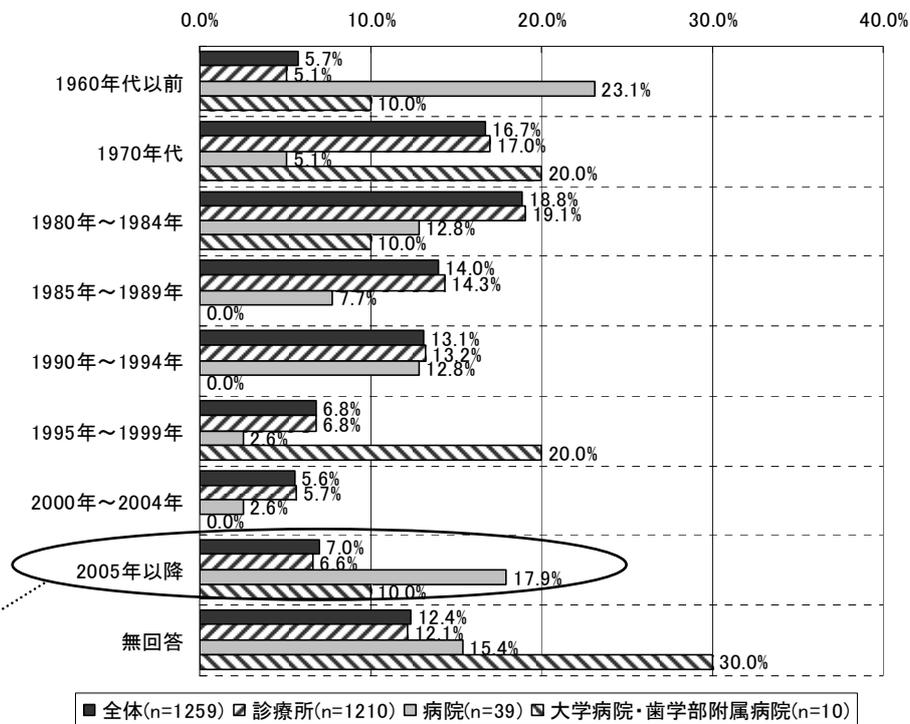
※病院、大学病院・歯学部附属病院では、非常勤歯科技工士を増員した施設はなかった。

### 5) 歯科技工室及び機器の整備時期

歯科技工室及び機器の整備時期についてみると、全体では、「1980年～1984年」(18.8%)が最も多く、次いで「1970年代」(16.7%)、「1985年～1989年」(14.0%)であった。

診療所では、「1980年～1984年」(19.1%)が最も多く、次いで「1970年代」(17.0%)、「1985年～1989年」(14.3%)であった。病院では、「1960年代以前」(23.1%)が最も多く、次いで「2005年以降」(17.9%)、「1980年～1984年」「1990年～1994年」(それぞれ12.8%)であった。大学病院・歯学部附属病院では「1970年代」「1995年～1999年」(それぞれ20.0%)が最も多くなっている。

図表 17 歯科技工室及び機器の整備時期

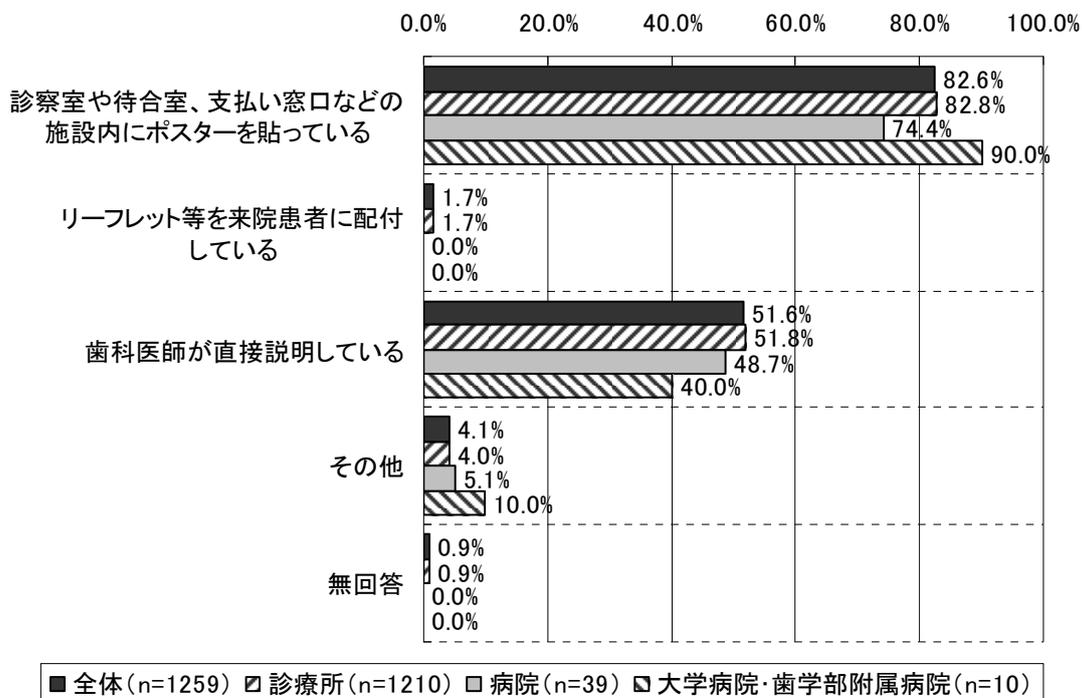


6) 患者への周知方法

患者への周知方法についてみると、全体では「診察室や待合室、支払い窓口などの施設内にポスターを貼っている」が82.6%、「リーフレット等を来院患者に配布している」が1.7%、「歯科医師が直接説明している」が51.6%であった。

診療所では、「診察室や待合室、支払い窓口などの施設内にポスターを貼っている」が82.8%、「リーフレット等を来院患者に配布している」が1.7%、「歯科医師が直接説明している」が51.8%であった。病院では、「診察室や待合室、支払い窓口などの施設内にポスターを貼っている」が74.4%、「歯科医師が直接説明している」が48.7%であった。大学病院・歯学部附属病院では、「診察室や待合室、支払い窓口などの施設内にポスターを貼っている」が90.0%、「歯科医師が直接説明している」が40.0%であった。

図表 18 患者への周知方法（複数回答）

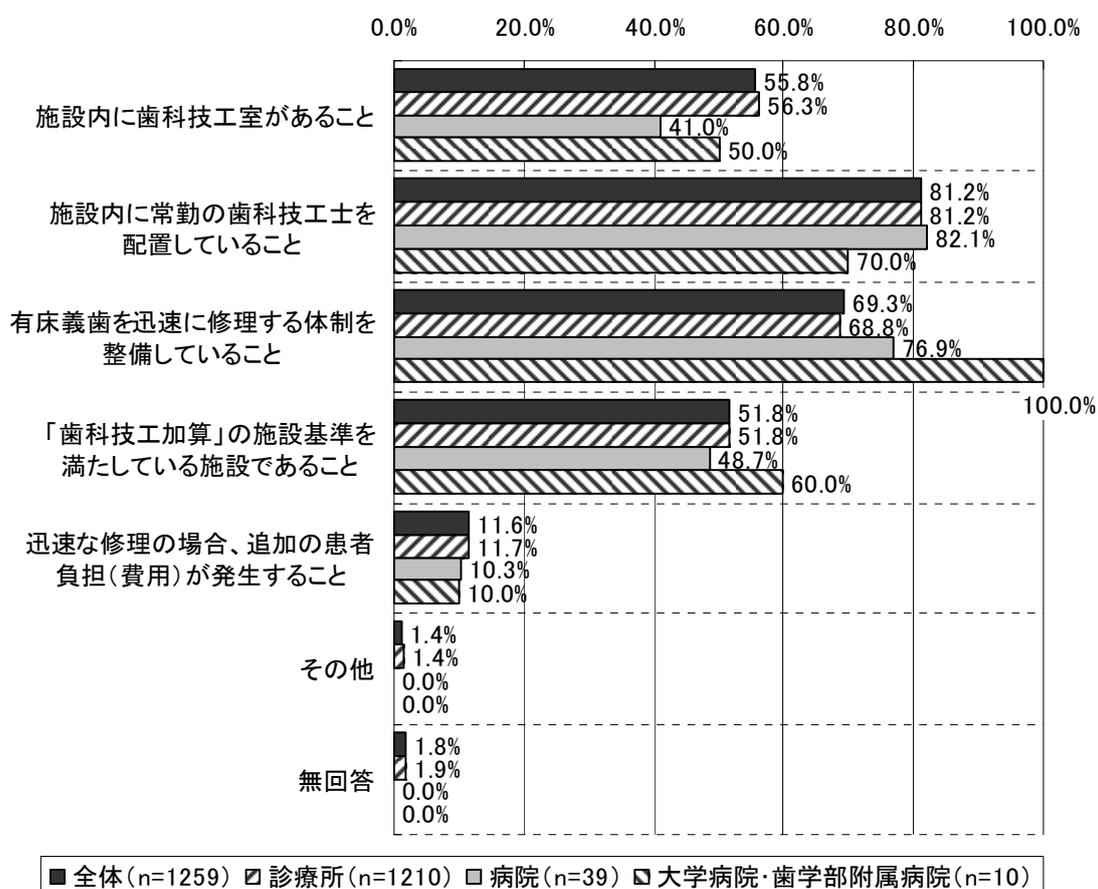


## 7) 院内掲示の内容

院内掲示の内容についてみると、全体では「施設内に常勤の歯科技工士を配置していること」が81.2%と最も多く、次いで、「有床義歯を迅速に修理する体制を整備していること」(69.3%)、「施設内に歯科技工室があること」(55.8%)、「『歯科技工加算』の施設基準を満たしている施設であること」(51.8%)の順となった。

診療所では、「施設内に常勤の歯科技工士を配置していること」が81.2%で最も多く、次いで「有床義歯を迅速に修理する体制を整備していること」(68.8%)、「施設内に歯科技工室があること」(56.3%)、「『歯科技工加算』の施設基準を満たしている施設であること」(50.0%)の順となった。病院では「施設内に常勤の歯科技工士を配置していること」(82.1%)が最も多く、次いで「有床義歯を迅速に修理する体制を整備していること」(76.9%)、「施設内に歯科技工室があること」(41.0%)の順となった。大学病院・歯学部附属病院は、「有床義歯を迅速に修理する体制を整備していること」が100.0%と最も多く、次いで「施設内に常勤の歯科技工士を配置していること」(70.0%)、「『歯科技工加算』の施設基準を満たしている施設であること」(60.0%)、「施設内に歯科技工室があること」(50.0%)の順であった。

図表 19 院内掲示の内容（複数回答）

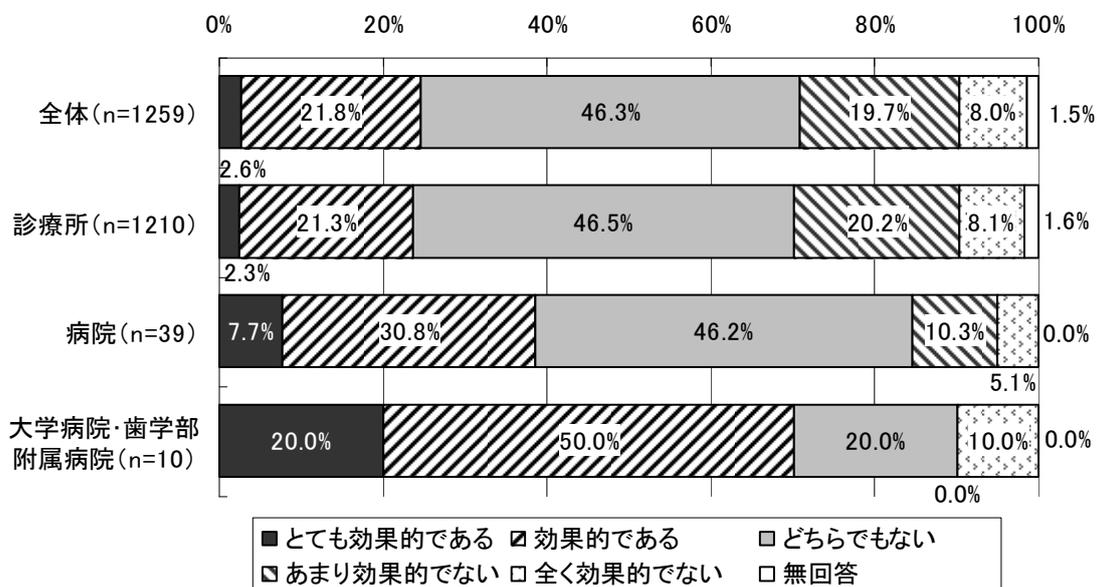


### 8) 患者への周知方法としての院内掲示の効果

患者への周知方法としての院内掲示の効果を見ると、「効果的である」（「とても効果的である」と「効果的である」の合計。以下同様）が 24.4%、「効果的でない」（「あまり効果的でない」と「全く効果的でない」の合計。以下同様）が 27.7%となった。

診療所では「効果的である」が 23.6%、「効果的でない」が 28.3%であった。病院では、「効果的である」が 38.5%、「効果的でない」が 15.4%であった。大学病院・歯学部附属病院では、「効果的である」が 70.0%、「効果的でない」が 10.0%となった。

図表 20 患者への周知方法としての院内掲示の効果



### ③有床義歯修理の状況

#### 1) 歯科外来患者総数、歯科技工加算算定患者総数、算定率

2010年（平成22年）4月から9月の歯科外来患者総数、歯科技工加算算定患者総数、算定率についてみる。

診療所では、歯科外来患者総数の平均値は「6月」が492.3人（標準偏差457.1、中央値393）と最も多く、次いで「7月」が481.5人（標準偏差455.9、中央値382）、「4月」が478.5人（標準偏差441.6、中央値380）であった。加算算定患者総数の平均値は「6月」が14.6人（標準偏差18.9、中央値11）と最も多く、次いで「9月」が14.2人（標準偏差18.8、中央値11）、「4月」が14.2人（標準偏差19.4、中央値10）であった。算定率をみると、「9月」が3.2%と最も高く、次いで「5月」が3.1%、「4月」「6月」（それぞれ3.0%）であった。

病院では、歯科外来患者総数の平均値は「6月」が1,114.0人（標準偏差1,662.8、中央値911）と最も多く、次いで「4月」が1,082.6人（標準偏差1,628.7、中央値826）、「8月」が1,072.6人（標準偏差1,505.8、中央値893）であった。加算算定患者総数の平均値は「7月」が15.8人（標準偏差16.3、中央値10）と最も多く、次いで「8月」が15.6人（標準偏差14.2、中央値13）、「6月」が15.4人（標準偏差15.4、中央値9）であった。算定率をみると、「5月」が1.6%と最も高く、次いで「7月」「8月」（それぞれ1.5%）であった。

大学病院・歯学部附属病院では、歯科外来患者総数の平均値は「7月」が9,352.6人（標準偏差7,635.6、中央値9,045）と最も多く、次いで「6月」が9,098.8人（標準偏差7,377.8、中央値8,572）、「8月」が9,012.4人（標準偏差7,253.7、中央値9,293）であった。加算算定患者総数の平均値は「8月」が23.0人（標準偏差57.4、中央値1）と最も多く、次いで「4月」が22.8人（標準偏差53.1、中央値5）であった。算定率をみると、「4月」「8月」がそれぞれ0.3%と最も高くなっている。

図表 21 歯科外来患者総数、歯科技工加算算定患者総数、算定率

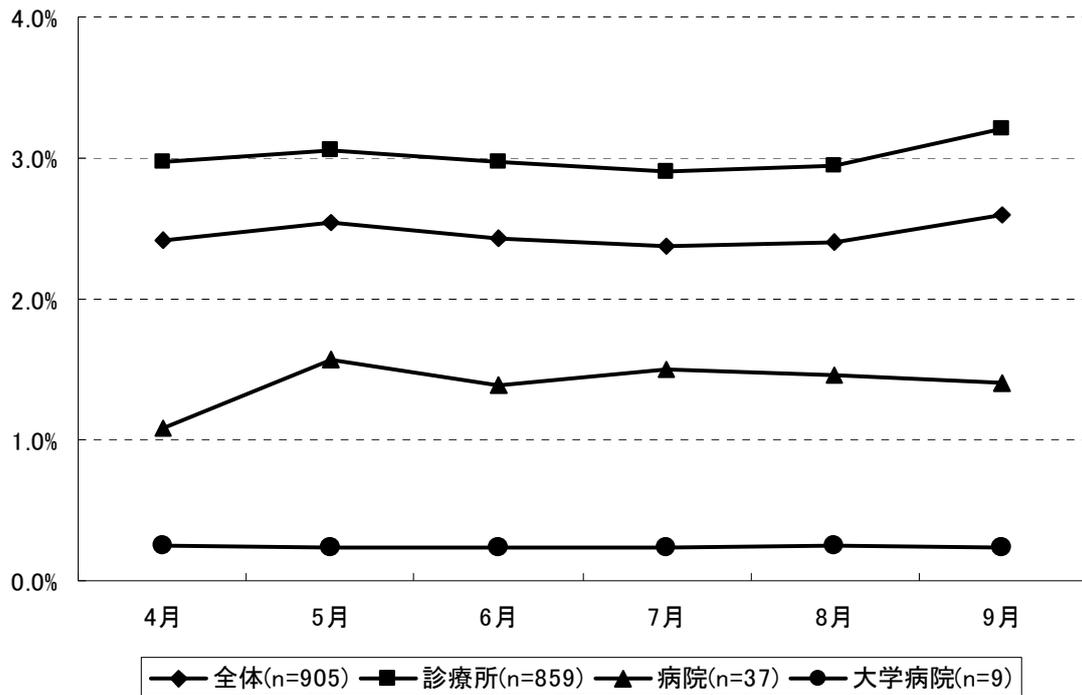
	外来患者総数			加算算定患者総数			算定率
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値	
全体 (n=905)							
4月	586.9	1,206.3	395	14.2	19.7	10	2.4%
5月	546.3	1,084.8	372	13.9	18.4	10	2.5%
6月	603.4	1,237.3	402	14.7	19.3	11	2.4%
7月	593.1	1,254.8	392	14.1	18.8	10	2.4%
8月	563.1	1,208.0	372	13.5	18.5	10	2.4%
9月	549.4	1,181.9	360	14.3	19.2	11	2.6%
診療所 (n=859)							
4月	478.5	441.6	380	14.2	19.4	10	3.0%
5月	451.1	408.7	364	13.8	18.2	10	3.1%
6月	492.3	457.1	393	14.6	18.9	11	3.0%
7月	481.5	455.9	382	14.0	18.3	10	2.9%
8月	452.7	423.8	362	13.3	17.8	10	2.9%
9月	443.3	420.0	352	14.2	18.8	11	3.2%
病院 (n=37)							
4月	1,082.6	1,628.7	826	11.7	10.6	9	1.1%
5月	960.4	1,382.9	762	15.1	14.0	11	1.6%
6月	1,114.0	1,662.8	911	15.4	15.4	9	1.4%
7月	1,055.0	1,388.3	867	15.8	16.3	10	1.5%
8月	1,072.6	1,505.8	893	15.6	14.2	13	1.5%
9月	1,046.9	1,687.6	810	14.7	13.8	11	1.4%
大学病院・歯学部附属病院 (n=9)							
4月	8,895.6	7,178.5	8,395	22.8	53.1	5	0.3%
5月	7,934.4	6,579.0	6,983	18.2	43.3	3	0.2%
6月	9,098.8	7,377.8	8,572	21.6	51.6	2	0.2%
7月	9,352.6	7,635.6	9,045	21.6	54.4	1	0.2%
8月	9,012.4	7,253.7	9,293	23.0	57.4	1	0.3%
9月	8,638.2	7,081.3	8,423	20.7	54.4	1	0.2%

(注1) 全ての項目について回答があった施設を対象に集計

(注2) 算定率=加算算定患者総数(平均値)÷外来患者総数(平均値)×100

4月から9月の歯科技工加算算定率の推移をみると、2.4%から2.6%と0.2ポイントの増加であった。施設別にみると、診療所では、0.2ポイント（3.0%から3.2%）の増加、病院では、0.3ポイント（1.1%から1.4%）の増加、大学病院・歯学部附属病院では0.1%（0.3%から0.2%）の減少であった。

図表 22 歯科技工加算算定率



(注) 算定率=加算算定患者総数（平均値）÷外来患者総数（平均値）×100

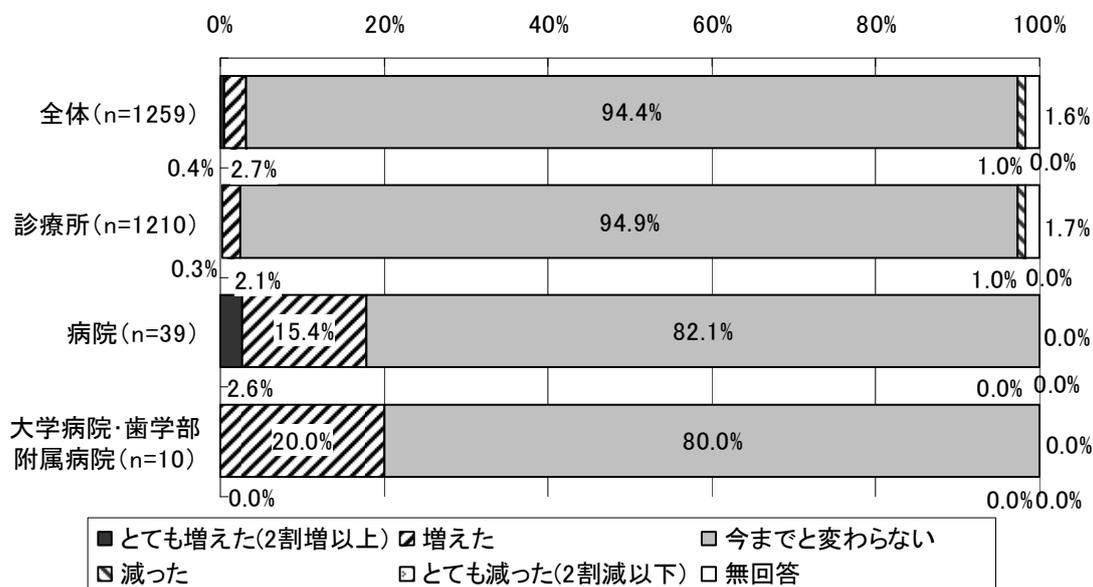
### 3) 有床義歯の修理延べ床数の変化

有床義歯の修理延べ床数の変化をみると、全体では、「今までと変わらない」が 94.4%と回答施設のほとんどを占める結果となった。

施設別にみると、診療所、病院、大学病院・歯学部附属病のいずれも「今までと変わらない」（それぞれ、94.9%、82.1%、80.0%）がほとんどを占める結果となった。

一方で、病院では「とても増えた（2割増以上）」が 2.1%、「増えた」が 15.4%、大学病院・歯学部附属病院では「増えた」が 20.0%であった。

図表 23 有床義歯の修理延べ床数の変化



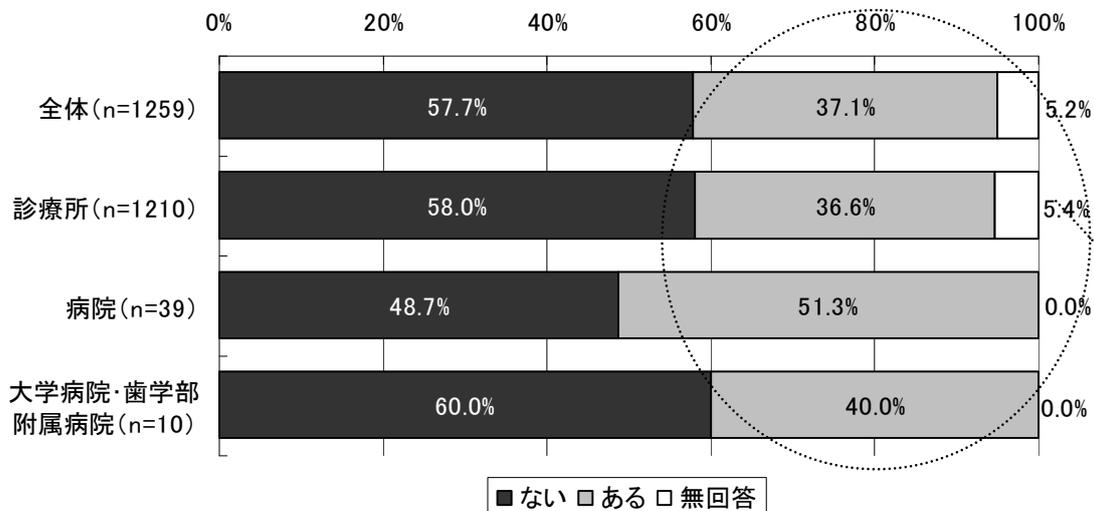
#### 4) 歯科技工加算を算定できない場合の有無

歯科技工加算を算定できない場合の有無をみると、全体では「ない」が 57.7%、「ある」が 37.1%であった。

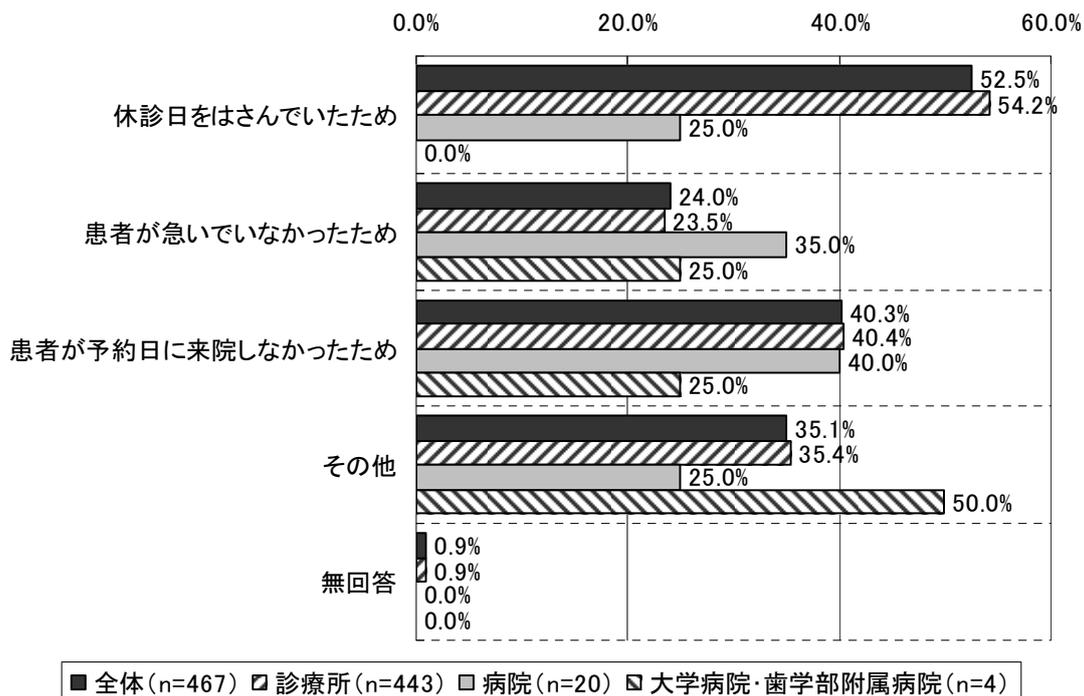
診療所では「ない」が 58.0%、「ある」が 36.6%であった。病院では「ない」が 48.7%、「ある」が 51.3%であった。大学病院・歯学部附属病院では「ない」が 60.0%、「ある」が 40.0%であった。

歯科技工加算を算定できない場合があると回答した施設に歯科技工加算を算定できない理由を尋ねたところ、診療所では、「休診日ははさんでいたため」(54.2%)が最も多く、次いで「患者が予約日に来院しなかったため」(40.4%)、「その他」(35.4%)の順となった。病院では「患者が予約日に来院しなかったため」(40.0%)、「患者が急いでいなかったため」(35.0%)となった。大学病院・歯学部附属病院では「その他」(50.0%)が最も多く、次いで「患者が急いでいなかったため」「患者が予約日に来院しなかったため」(それぞれ、25.0%)であった。

図表 24 歯科技工加算を算定できない場合の有無



図表 25 歯科技工加算を算定できない理由（複数回答）



(注) 「その他」の内容としては、「算定忘れ」「歯科医師が修理した」「铸造クラスプ修理などの場合は日数が必要となるため」等が挙げられた

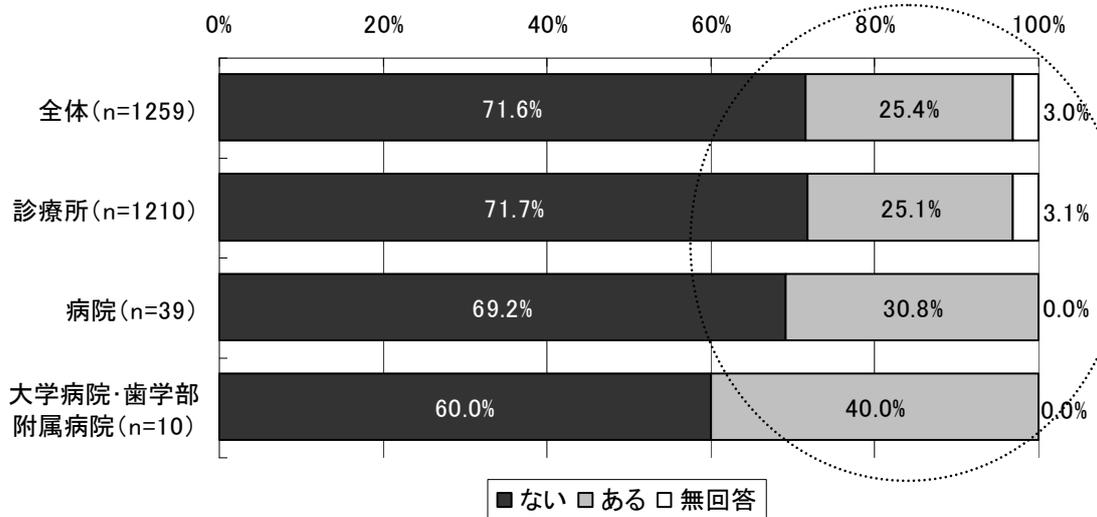
#### 5) 有床義歯の修理の際における施設外歯科技工所活用の有無

有床義歯の修理の際における施設外歯科技工所活用の有無をみると、全体では「ない」が71.6%、「ある」が25.4%となった。

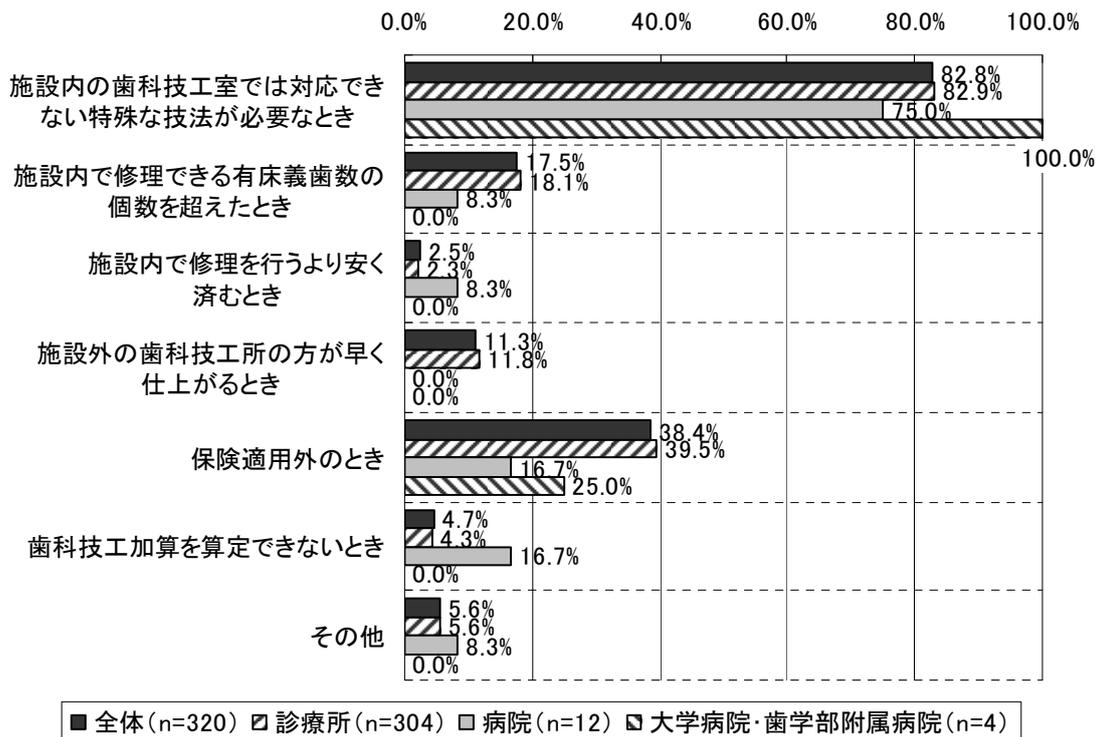
診療所では「ない」が71.7%、「ある」が25.1%であった。病院では「ない」が69.2%、「ある」が30.8%であった。大学病院・歯学部附属病院では「ない」が60.0%、「ある」が40.0%であった。

有床義歯の修理の際における施設外歯科技工所活用があると回答した施設に施設外歯科技工所を活用するケースを尋ねたところ、診療所では、「施設内の歯科技工室では対応できない特殊な技法が必要なとき」(82.9%)が最も多く、次いで「保険適用外のとき」(39.5%)、「施設内で修理できる有床義歯数の個数を超えたとき」(18.1%)の順となった。病院では、「施設内の歯科技工室では対応できない特殊な技法が必要なとき」(75.0%)と最も多く、次いで「保険適用外のとき」「歯科技工加算を算定できないとき」(それぞれ16.7%)となった。大学病院・歯学部附属病院では「施設内の「歯科技工室では対応できない特殊な技法が必要なとき」(100.0%)と最も多く、次いで「保険適用外の時」(25.0%)の順であった。

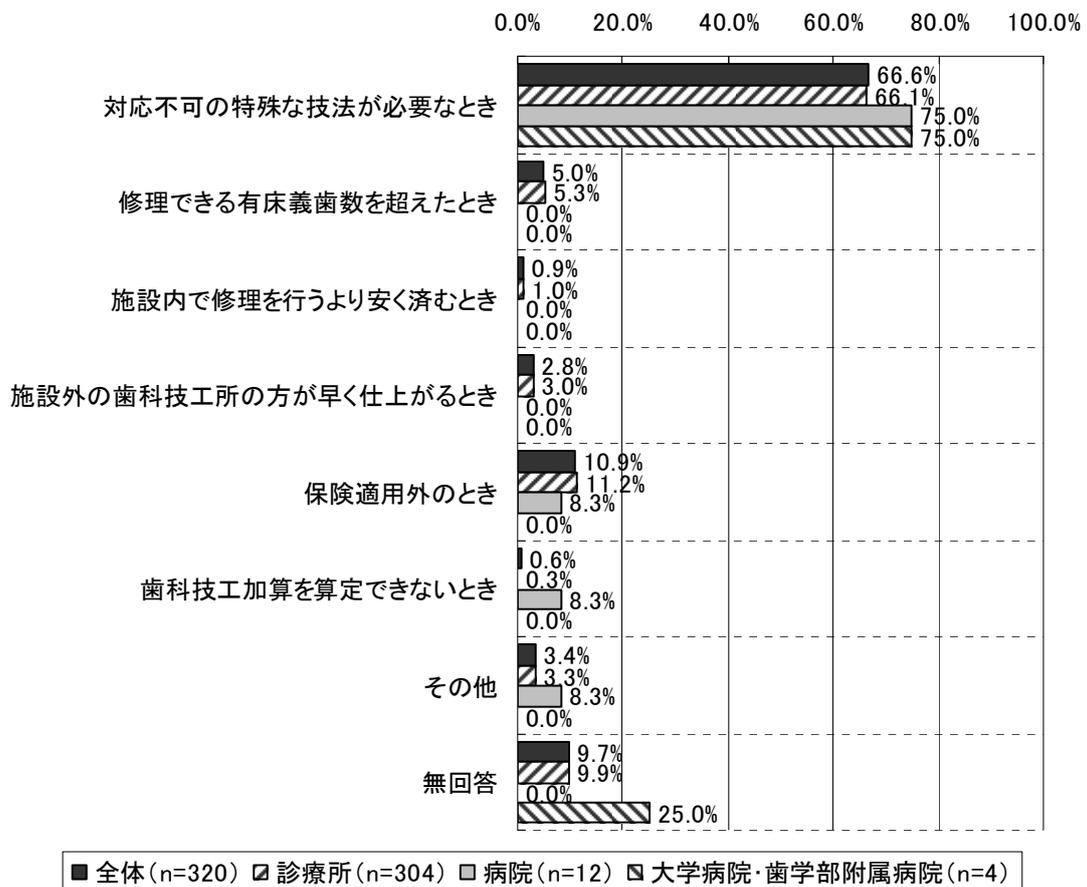
図表 26 有床義歯の修理の際における施設外の歯科技工所活用の有無



図表 27 有床義歯の修理の際における施設外歯科技工所を活用するケース（複数回答）



図表 28 有床義歯の修理の際における施設外歯科技工所を活用するケース  
(最も多いケース)



#### 6) 有床義歯の修理状況（平成 22 年 11 月 1 か月間）

有床義歯の修理状況について、少数歯欠損をみると、施設内では「当日（1日）」（平均修理床数 6.2 床）、施設外では「6 日以上」（0.2 床）が最も多くなっている。多数歯欠損をみると、施設内では「当日（1日）」（5.9 床）、施設外では「6 日以上」（0.1 床）が最も多くなっている。最後に、総義歯をみると、施設内では「当日（1日）」（3.9 床）が最も多くなっている。

次に有床義歯の修理期間別の割合について、少数歯欠損をみると、施設内では「当日（1日）」（88.9%）、施設外では「6 日以上」（67.1%）が最も多くなっている。多数歯欠損をみると、施設内では「当日（1日）」（90.0%）、施設外では「6 日以上」（46.1%）が最も多くなっている。最後に、総義歯をみると、施設内では「当日（1日）」（94.6%）、施設外では「2 日」（40.5%）が最も多くなっている。

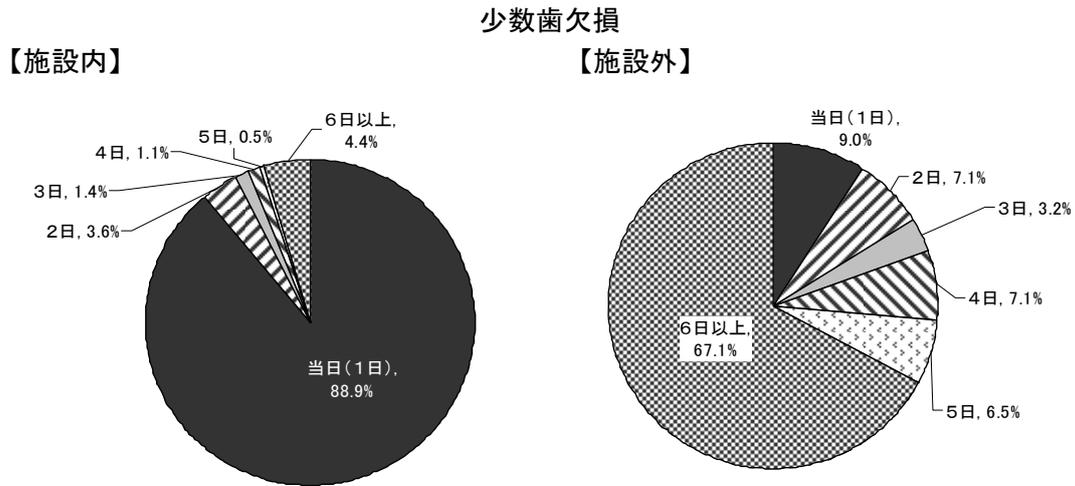
図表 29 有床義歯の修理状況（平成 22 年 11 月 1 か月間）（全体：n=510）

（単位：床）

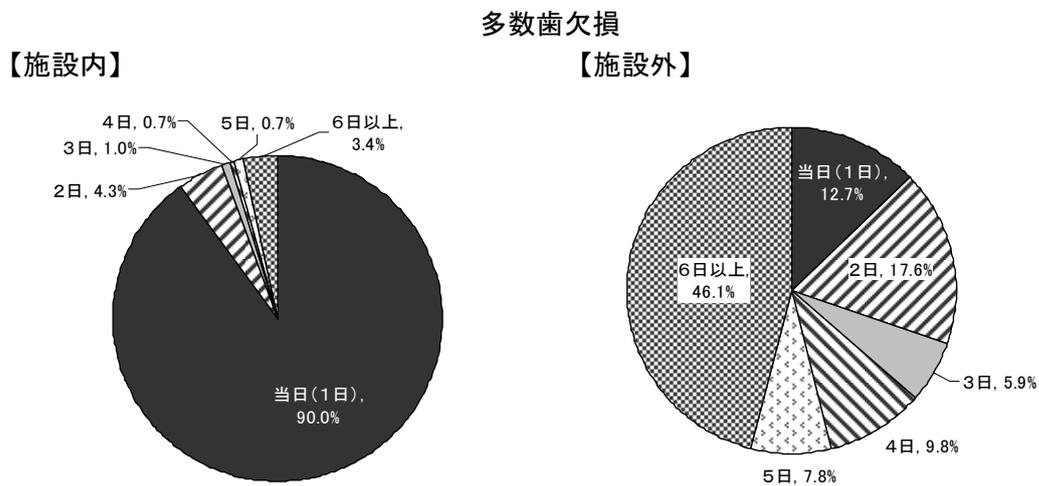
		当日 (1日)	2日	3日	4日	5日	6日 以上	合計
<b>少数歯欠損</b>								
平均値	施設内	6.2	0.3	0.1	0.1	0.0	0.3	7.0
	施設外	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.3
標準 偏差	施設内	7.9	0.8	0.5	0.3	0.2	1.2	8.2
	施設外	0.4	0.3	0.1	0.2	0.2	2.0	2.1
最大値	施設内	75	6	5	4	3	13	79
	施設外	8	6	2	2	2	34	35
最小値	施設内	0	0	0	0	0	0	0
	施設外	0	0	0	0	0	0	0
中央値	施設内	4	0	0	0	0	0	5
	施設外	0	0	0	0	0	0	0
<b>多数歯欠損</b>								
平均値	施設内	5.9	0.3	0.1	0.0	0.0	0.2	6.6
	施設外	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2
標準 偏差	施設内	6.9	1.0	0.4	0.2	0.4	0.9	7.1
	施設外	0.2	0.3	0.1	0.2	0.2	0.6	0.8
最大値	施設内	62	10	6	2	7	11	65
	施設外	3	4	2	2	2	8	8
最小値	施設内	0	0	0	0	0	0	0
	施設外	0	0	0	0	0	0	0
中央値	施設内	4	0	0	0	0	0	4
	施設外	0	0	0	0	0	0	0
<b>総義歯</b>								
平均値	施設内	3.9	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	4.1
	施設外	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
標準 偏差	施設内	5.0	0.5	0.2	0.1	0.1	0.4	5.1
	施設外	0.1	0.4	0.1	0.0	0.0	0.3	0.5
最大値	施設内	56	5	2	1	2	5	56
	施設外	2	9	1	1	1	5	9
最小値	施設内	0	0	0	0	0	0	0
	施設外	0	0	0	0	0	0	0
中央値	施設内	3	0	0	0	0	0	3
	施設外	0	0	0	0	0	0	0

※ 1 か所でも不明と回答した施設及び無回答の施設を除いて集計

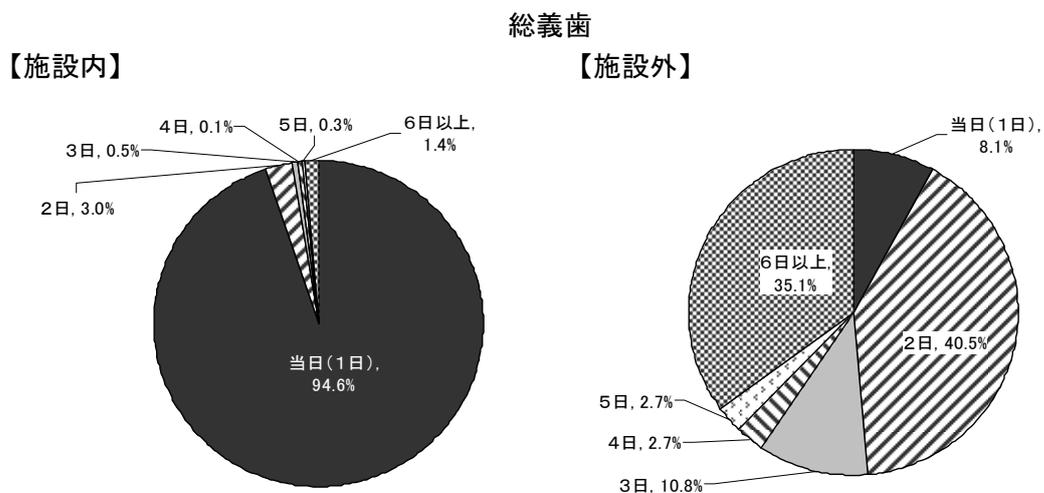
図表 30 有床義歯の修理期間別の割合（平成 22 年 11 月 1 か月間）（全体：n=510）



図表 31 有床義歯の修理期間別の割合（平成 22 年 11 月 1 か月間）（全体：n=510）



図表 32 有床義歯の修理期間別の割合（平成 22 年 11 月 1 か月間）（全体：n=510）



診療所における有床義歯の修理状況について、少数歯欠損をみると、施設内では「当日（1日）」（平均修理床数 5.9 床）、施設外では「6 日以上」（0.1 床）が最も多くなっている。多数歯欠損をみると、施設内では「当日（1日）」（5.8 床）、施設外では「6 日以上」（0.1 床）が最も多くなっている。最後に、総義歯をみると、施設内では「当日（1日）」（3.8 床）が最も多くなっている。

診療所における有床義歯の修理期間別の割合について、少数歯欠損をみると、施設内では「当日（1日）」（89.1%）、施設外では「6 日以上」（47.3%）が最も多くなっている。多数歯欠損をみると、施設内では「当日（1日）」（90.1%）、施設外では「6 日以上」（40.5%）が最も多くなっている。最後に、総義歯をみると、施設内では「当日（1日）」（94.9%）、施設外では「2 日」（40.5%）が最も多くなっている。

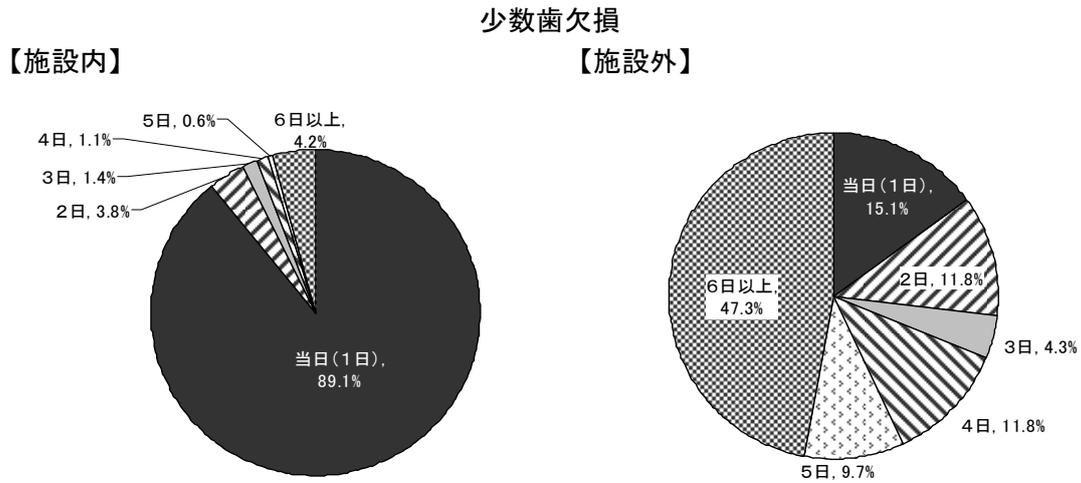
図表 33 有床義歯の修理状況（平成 22 年 11 月 1 か月間）（診療所：n=481）

（単位：床）

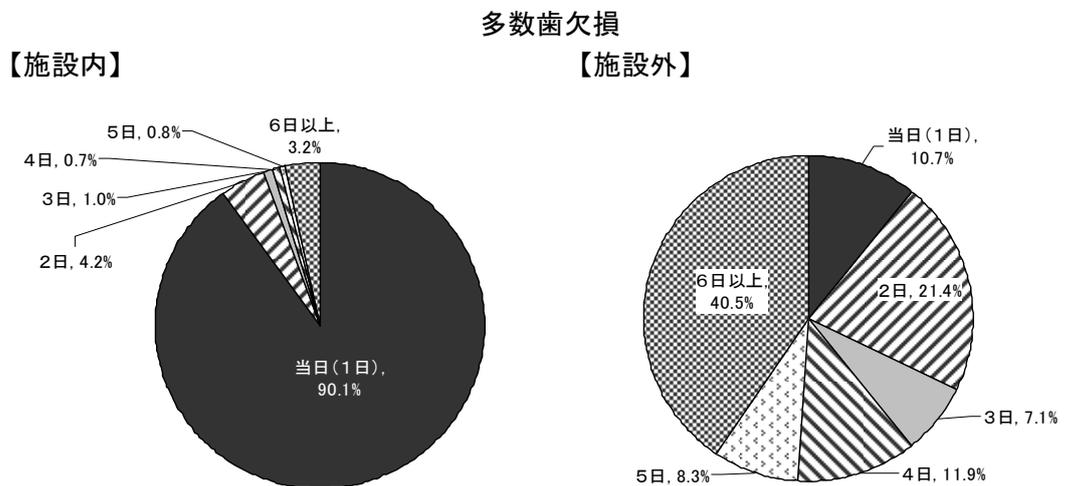
		当日 (1日)	2日	3日	4日	5日	6日 以上	合計
<b>少数歯欠損</b>								
平均値	施設内	5.9	0.2	0.1	0.1	0.0	0.3	6.6
	施設外	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2
標準 偏差	施設内	6.8	0.8	0.4	0.3	0.2	1.2	7.0
	施設外	0.4	0.3	0.1	0.2	0.2	0.6	0.8
最大値	施設内	59	6	5	4	3	13	59
	施設外	8	6	2	2	2	9	9
最小値	施設内	0	0	0	0	0	0	0
	施設外	0	0	0	0	0	0	0
中央値	施設内	4	0	0	0	0	0	5
	施設外	0	0	0	0	0	0	0
<b>多数歯欠損</b>								
平均値	施設内	5.8	0.3	0.1	0.0	0.0	0.2	6.4
	施設外	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2
標準 偏差	施設内	6.4	0.9	0.4	0.2	0.4	0.9	6.7
	施設外	0.2	0.3	0.1	0.2	0.2	0.4	0.7
最大値	施設内	51	10	6	2	7	11	51
	施設外	3	4	2	2	2	5	5
最小値	施設内	0	0	0	0	0	0	0
	施設外	0	0	0	0	0	0	0
中央値	施設内	4	0	0	0	0	0	4
	施設外	0	0	0	0	0	0	0
<b>総義歯</b>								
平均値	施設内	3.8	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0
	施設外	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
標準 偏差	施設内	4.8	0.5	0.1	0.1	0.1	0.3	4.9
	施設外	0.1	0.4	0.1	0.0	0.0	0.3	0.5
最大値	施設内	56	5	1	1	2	5	56
	施設外	2	9	1	1	1	5	9
最小値	施設内	0	0	0	0	0	0	0
	施設外	0	0	0	0	0	0	0
中央値	施設内	3	0	0	0	0	0	3
	施設外	0	0	0	0	0	0	0

※ 1 か所でも不明と回答した施設及び無回答の施設を除いて集計

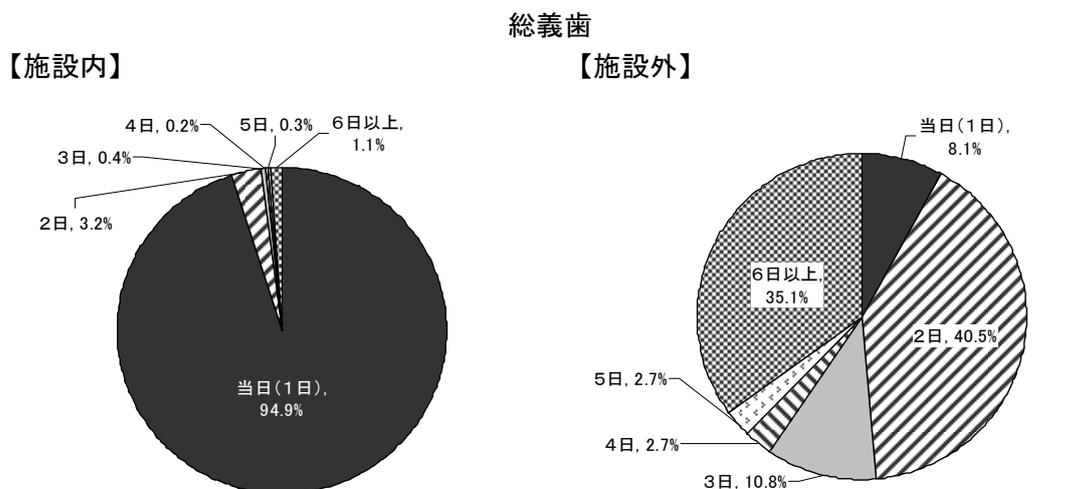
図表 34 有床義歯の修理期間別の割合（平成 22 年 11 月 1 か月間）（診療所：n=481）



図表 35 有床義歯の修理期間別の割合（平成 22 年 11 月 1 か月間）（診療所：n=481）



図表 36 有床義歯の修理期間別の割合（平成 22 年 11 月 1 か月間）（診療所：n=481）



病院における有床義歯の修理状況について、少数歯欠損をみると、施設内では「当日（1日）」（平均修理床数 7.5 床）が最も多くなっている。多数歯欠損をみると、施設内では「当日（1日）」（6.9 床）、施設外では「6日以上」（0.1 床）が最も多くなっている。最後に、総義歯をみると、施設内では「当日（1日）」（3.5 床）が最も多くなっている。

病院における有床義歯の修理期間別の割合について、少数歯欠損をみると、施設内では「当日（1日）」（87.8%）、施設外では「3日」（100.0%）が最も多くなっている。多数歯欠損をみると、施設内では「当日（1日）」（87.3%）、施設外では「当日（1日）」「6日以上」（それぞれ 42.9%）が最も多くなっている。最後に、総義歯をみると、施設内では「当日（1日）」（92.7%）が最も多くなっている。

図表 37 有床義歯の修理状況（平成 22 年 11 月 1 か月間）（病院：n=22）

（単位：床）

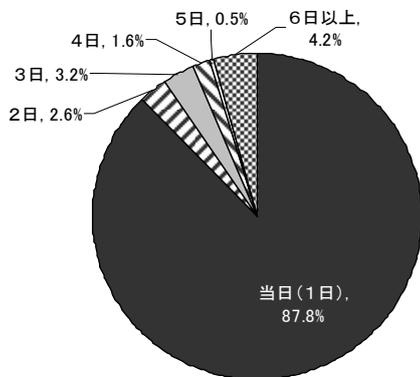
		当日 (1日)	2日	3日	4日	5日	6日 以上	合計
<b>少数歯欠損</b>								
平均値	施設内	7.5	0.2	0.3	0.1	0.0	0.4	8.6
	施設外	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
標準 偏差	施設内	10.7	1.1	0.8	0.4	0.2	0.8	10.4
	施設外	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.2
最大値	施設内	49	5	3	1	1	3	49
	施設外	0	0	1	0	0	0	1
最小値	施設内	0	0	0	0	0	0	0
	施設外	0	0	0	0	0	0	0
中央値	施設内	4.5	0	0	0	0	0	6
	施設外	0	0	0	0	0	0	0
<b>多数歯欠損</b>								
平均値	施設内	6.9	0.6	0.1	0.0	0.0	0.3	7.9
	施設外	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.3
標準 偏差	施設内	6.1	2.1	0.3	0.0	0.0	0.6	6.3
	施設外	0.6	0.0	0.0	0.0	0.2	0.6	1.3
最大値	施設内	22	10	1	0	0	2	23
	施設外	3	0	0	0	1	3	6
最小値	施設内	0	0	0	0	0	0	0
	施設外	0	0	0	0	0	0	0
中央値	施設内	5.5	0	0	0	0	0	6.5
	施設外	0	0	0	0	0	0	0
<b>総義歯</b>								
平均値	施設内	3.5	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	3.7
	施設外	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
標準 偏差	施設内	3.3	0.2	0.4	0	0.2	0.3	3.2
	施設外	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
最大値	施設内	11	1	2	0	1	1	11
	施設外	0	0	0	0	0	0	0
最小値	施設内	0	0	0	0	0	0	0
	施設外	0	0	0	0	0	0	0
中央値	施設内	2.5	0	0	0	0	0	3
	施設外	0	0	0	0	0	0	0

※ 1 か所でも不明と回答した施設及び無回答の施設を除いて集計

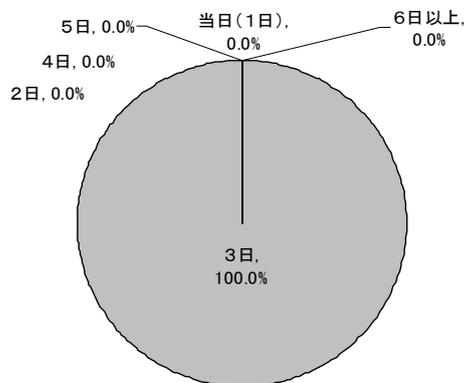
図表 38 有床義歯の修理期間別の割合（平成 22 年 11 月 1 か月間）（病院：n=22）

少数歯欠損

【施設内】



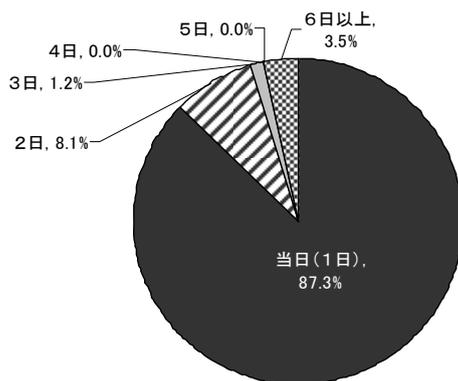
【施設外】



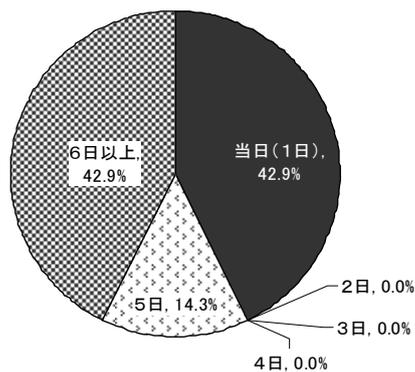
図表 39 有床義歯の修理期間別の割合（平成 22 年 11 月 1 か月間）（病院：n=22）

多数歯欠損

【施設内】



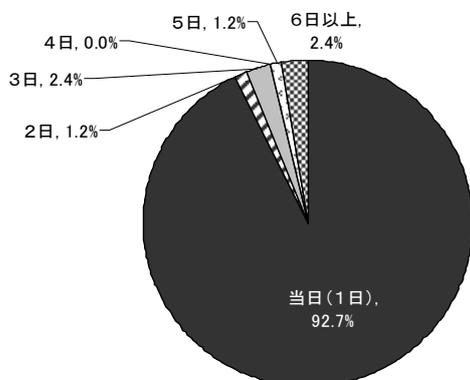
【施設外】



図表 40 有床義歯の修理期間別の割合（平成 22 年 11 月 1 か月間）（病院：n=22）

総義歯

【施設内】



【施設外】

※データなし

大学病院・歯学部附属病院における有床義歯の修理状況について、少数歯欠損をみると、施設内では「当日（1日）」（平均修理床数 20.3 床）が、施設外では「6 日以上」（8.6 床）最も多くなっている。多数歯欠損をみると、施設内では「当日（1日）」（12.9 床）、施設外では「6 日以上」（1.4 床）が最も多くなっている。最後に、総義歯をみると、施設内では「当日（1日）」（9.4 床）が最も多くなっている。

大学病院・歯学部附属病院における有床義歯の修理期間別の割合について、少数歯欠損をみると、施設内では「当日（1日）」（88.2%）、施設外では「6 日以上」（98.4%）が最も多くなっている。多数歯欠損をみると、施設内では「当日（1日）」（90.0%）、施設外では「当日（1日）」「6 日以上」（それぞれ 90.9%）が最も多くなっている。最後に、総義歯をみると、施設内では「当日（1日）」（89.2%）が最も多くなっている。

図表 41 有床義歯の修理状況（平成 22 年 11 月 1 か月間）  
（大学病院・歯学部附属病院：n=7）

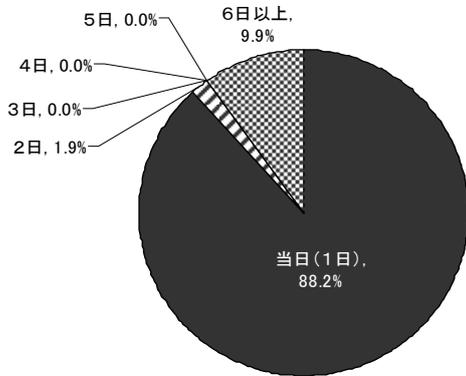
（単位：床）

		当日 (1日)	2日	3日	4日	5日	6日 以上	合計
<b>少数歯欠損</b>								
平均値	施設内	20.3	0.4	0.0	0.0	0.0	2.3	23
	施設外	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	8.6	8.7
標準 偏差	施設内	30.9	0.8	0.0	0.0	0.0	2.4	32.1
	施設外	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	14.8	15.1
最大値	施設内	75	2	0	0	0	7	79
	施設外	0	0	0	0	1	34	35
最小値	施設内	0	0	0	0	0	0	0
	施設外	0	0	0	0	0	0	0
中央値	施設内	3	0	0	0	0	2	7
	施設外	0	0	0	0	0	0	0
<b>多数歯欠損</b>								
平均値	施設内	12.9	0.3	0.0	0.1	0.0	1.0	14.3
	施設外	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	1.4	1.6
標準 偏差	施設内	23.0	0.5	0.0	0.4	0.0	1.3	23.7
	施設外	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	2.9
最大値	施設内	62	1	0	1	0	3	65
	施設外	1	0	0	0	0	8	8
最小値	施設内	0	0	0	0	0	0	0
	施設外	0	0	0	0	0	0	0
中央値	施設内	2	0	0	0	0	0	5
	施設外	0	0	0	0	0	0	0
<b>総義歯</b>								
平均値	施設内	9.4	0.0	0.1	0.0	0.0	1.0	10.6
	施設外	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
標準 偏差	施設内	14.0	0.0	0.4	0.0	0.0	1.5	15.6
	施設外	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
最大値	施設内	36	0	1	0	0	4	41
	施設外	0	0	0	0	0	0	0
最小値	施設内	0	0	0	0	0	0	0
	施設外	0	0	0	0	0	0	0
中央値	施設内	2	0	0	0	0	0	3
	施設外	0	0	0	0	0	0	0

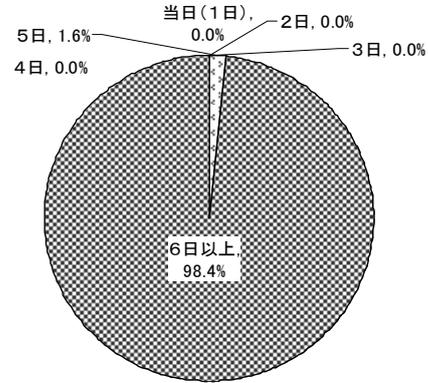
※ 1 か所でも不明と回答した施設及び無回答の施設を除いて集計

図表 42 有床義歯の修理期間別の割合（平成 22 年 11 月 1 か月間）  
（大学病院・歯学部附属病院：n=7）：少数歯欠損

【施設内】

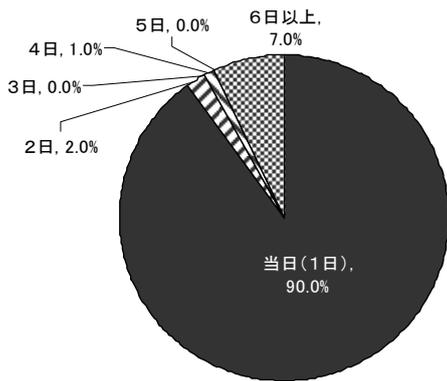


【施設外】

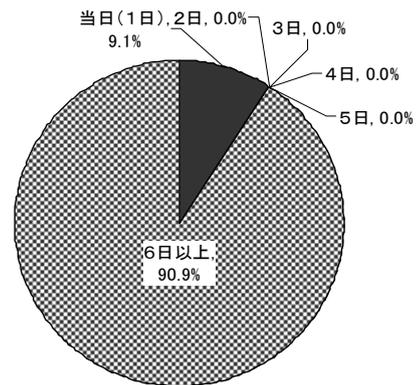


図表 43 有床義歯の修理期間別の割合（平成 22 年 11 月 1 か月間）  
（大学病院・歯学部附属病院：n=7）：多数歯欠損

【施設内】

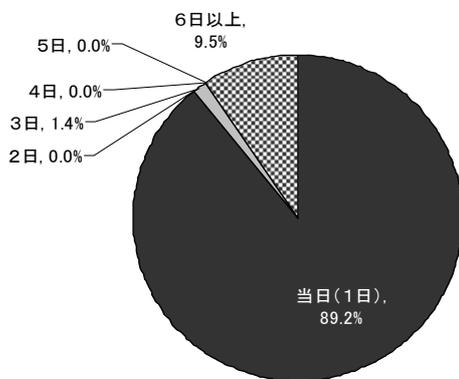


【施設外】



図表 44 有床義歯の修理期間別の割合（平成 22 年 11 月 1 か月間）  
（大学病院・歯学部附属病院：n=7）：総義歯

【施設内】



【施設外】

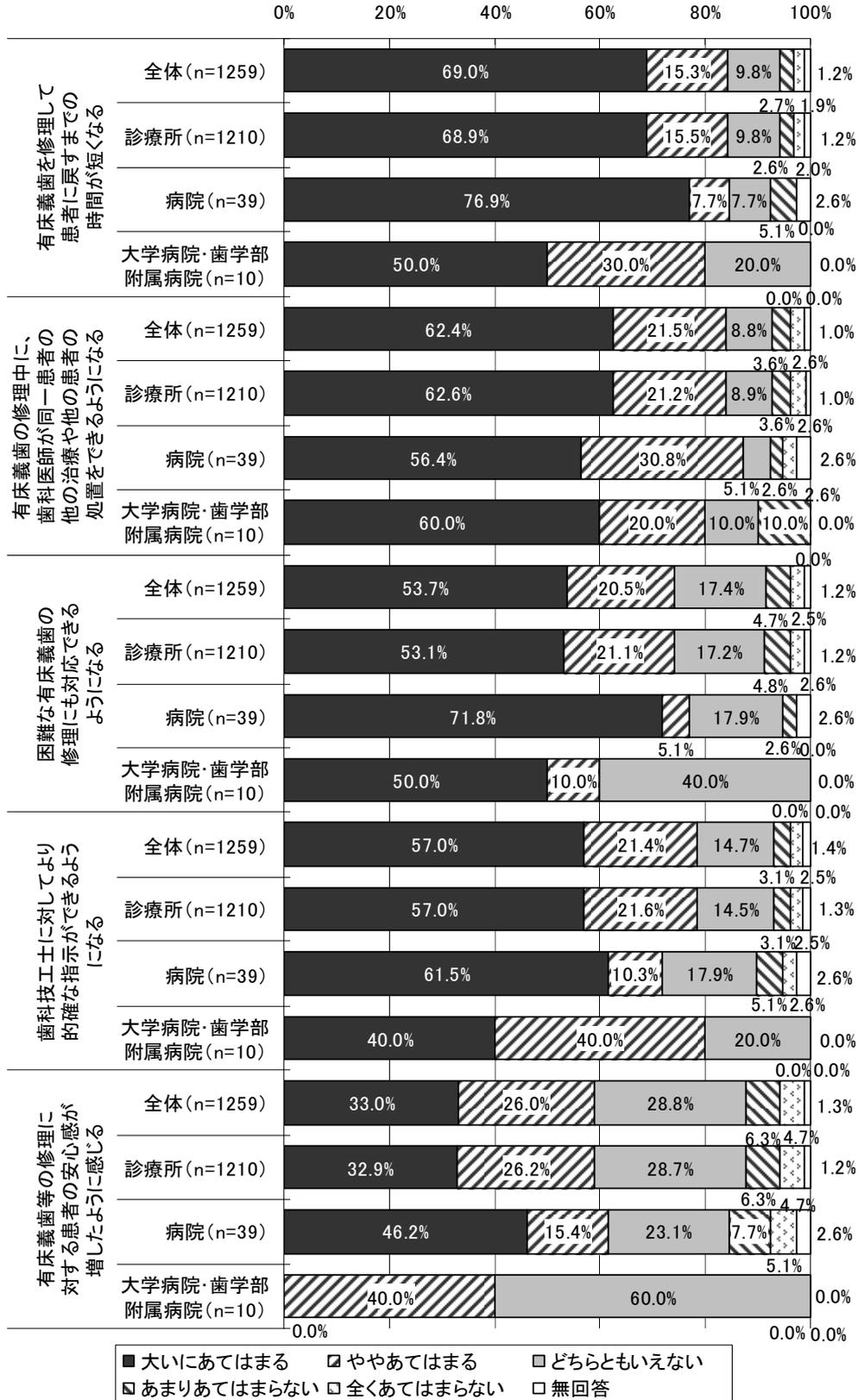
※データなし

#### ④施設内歯科技工士の活用による効果

施設内歯科技工士の活用による効果を見ると、全体では、「有床義歯等の修理に対する患者の安心感が増したように感じる」(59.0%)を除く全ての項目において「あてはまる」(「大いにあてはまる」と「ややあてはまる」の合計、以下同じ)と回答した施設が7割を超す結果となった。

診療所では、「有床義歯等の修理に対する患者の安心感が増したように感じる」が59.1%であった以外、全ての選択肢において「あてはまる」と回答した施設が7割を超す結果となった。病院では、診療所と同様に、「有床義歯等の修理に対する患者の安心感が増したように感じる」が61.6%であった以外全ての項目において「あてはまる」と回答した施設が7割を超す結果となった。大学病院・歯学部附属病院では、「困難な有床義歯の修理にも対応できるようになる」が60.0%、「有床義歯等の修理に対する患者の安心感が増したように感じる」が40.0%であった以外、全ての項目において8割を超す結果となった。

図表 45 歯科技工士の活用による効果



## ⑤歯科技工加算に関する意見等について（自由記述形式）

ここでは、自由記述形式により、歯科技工加算に関する意見や課題等について、施設票に記載していただいた内容のとりまとめを行った。

### 1) 歯科技工加算創設による変化はない

- ・ 開業以来、院内技工士が常駐し、有床義歯の修理は、全て当日に修理してきた。今回、たとえ 20 点でも、それが評価されたことは、感謝する。当院では従来より歯科技工士を活用し義歯の預かり期間をできるだけ短くなるようにやってきた。今まで通りやっていて加算があるのはありがたい。患者にとっては従来と変わらないため 4 月以降の変化はない。
- ・ 以前より、患者が不自由にならないよう、院内技工士に修理を依頼し、短時間でセットできるようにしている。その間仕事が中断し、後々へ仕事がたまってしまうという事があるが、それは（当然の事ではあるが）もう少し点数は高くても良いのではないか。
- ・ 当医院では「歯科技工加算」創設以前、開業より院内技工士により、その日にでき上がる修理はしてきたので、特に変わりはない。

／等

### 2) 歯科技工加算の基準に対する要望・問題点

#### 【期間に対する要望】

- ・ 休日をはさんでの修理や患者の予約日のキャンセルなどの修理も 2～3 日後であれば「歯科技工加算」が算定できるようにしてほしい。
- ・ 歯科技工加算は、休診日をはさんでも請求できるようにしてほしい。
- ・ 通常の破損修理やワイヤークラスプにおける修理では 2 日以内に装着した時に歯科技工加算が算定できるという取り扱いは妥当と考えるが、症例によってはキャストクラスプが必要なケースもあり、鑄造鉤を作製するにはどんなに急いでも 2 日以内にできない場合もあり、このようなケースにおいては装着までに 3～4 日かかっても歯科技工加算が認められるように要望する。

／等

#### 【加算点数について】

- ・ 計画された他の技工操作を中断・変更して、急な修理をしているのに、評価が低すぎるように思う。
- ・ 補綴物等、点数がしめつけられている中、今回の歯科技工加算はそれを打開するにはあまりにも低すぎるのではないか。まして、歯科技工加算のために歯科技工士を採用した医院は皆無ではないか。また、補綴物の点数をもっと高くしなければ、歯科技工士の採用は難しい。患者の希望に応えるような技工物を製作したことに対して、もっと励みになるような点数改正を希望する。

- ・ 歯科技工士の離職を防ぐための加算といわれているが、20点という点数では効果はない。思い切った点数アップが必要である。
- ・ 当歯科は最初から常勤の技工士がいる。歯科医院においては、とても重要な仕事をしているにもかかわらず、評価が低いのが現状である。20点というなんとも言えない数字で、こんな点数で技工士をかかえるのは至難のわざである。歯科医師、技工士、衛生士の3者が一体となって歯科医療サービスを行えるものと思っている。20点でもやっと1つの評価となったことは、1歩前進である。

／等

#### 【修理対象の拡大】

- ・ 修理の難易度に応じて点数の設定をしてほしい。
- ・ 修理の規模により要するコストが変化するので、基礎点数と修理点数などに応じた加算の加配が必要と考える。
- ・ リベースと同時の義歯修理に関しても、歯科技工加算を算定可能にしてほしい。

／等

#### 3) その他

- ・ 歯科技工加算の増点により歯科技工士の雇用につながるので大いに意味がある。
- ・ 歯科技工加算という加算ではなく、「歯科技工」という別枠の加算枠を作ってほしい。
- ・ 院内技工士の活用効果は大きいですが、運営は厳しいものがあり、次世代を育てる体力はない。
- ・ 修理に加算があるのであれば早く作製した時にも加算があるべきではないか。
- ・ 歯科技工士が修理する内容は変わらないのに、日数によって、加算が算定の算定の有無があるのはおかしい。

／等

#### (4) 患者調査の結果概要

##### 【調査対象等】

調査対象：「施設調査」の対象施設に調査日に来院し、「歯科技工加算」を算定した患者を対象とした。

ただし、1施設につき最大2名の患者を対象とした。

回答数：1,284人

回答者：患者本人または家族

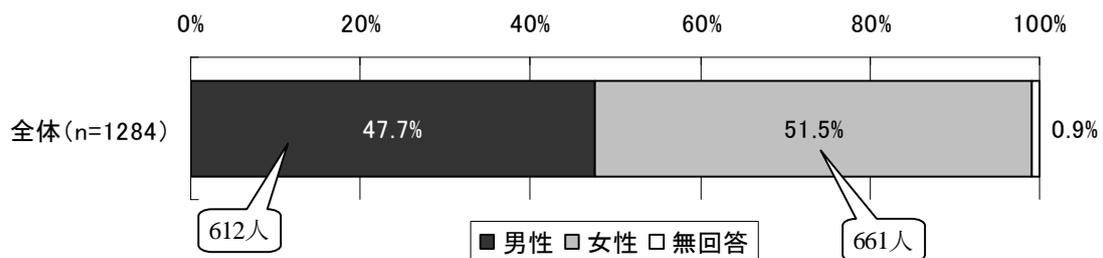
調査方法：調査対象施設を通じて配布。回収は各患者から調査事務局宛の返信用封筒にて直接回収した。

##### ①回答者の属性

###### 1) 性別

回答者の性別は、男性が47.7%（612人）、女性が51.5%（661人）であった。

図表 46 性別

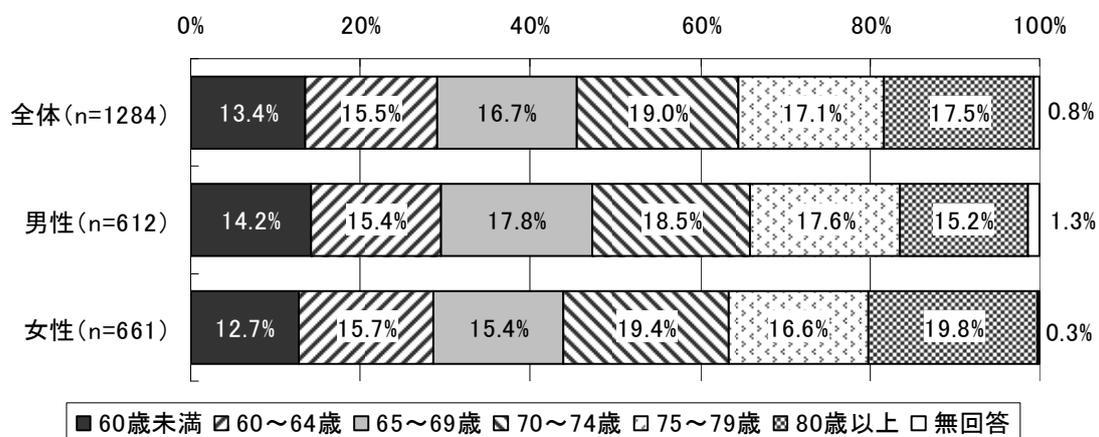


## 2) 年齢

回答者の男女の年齢分布についてみると、男性では、「70～74 歳」（18.5%）が最も多く、次いで「65～69 歳」（17.8%）、「75～79 歳」（17.6%）であった。女性では、「80 歳以上」（19.8%）が最も多く、次いで「70～74 歳」（19.4%）、「75～79 歳」（16.6%）であった。男女とも 65 歳以上が 7 割以上を占める結果となった。

回答者の平均年齢についてみると、男性は、69.5 歳（標準偏差 9.7、中央値 70）、女性は 70.4 歳（標準偏差 10.2、中央値 71）となった。

図表 47 年齢分布（男女別）



(注)「全体」には、「性別」について無回答の 11 人が含まれる。

図表 48 平均年齢（男女別）

(単位：歳)

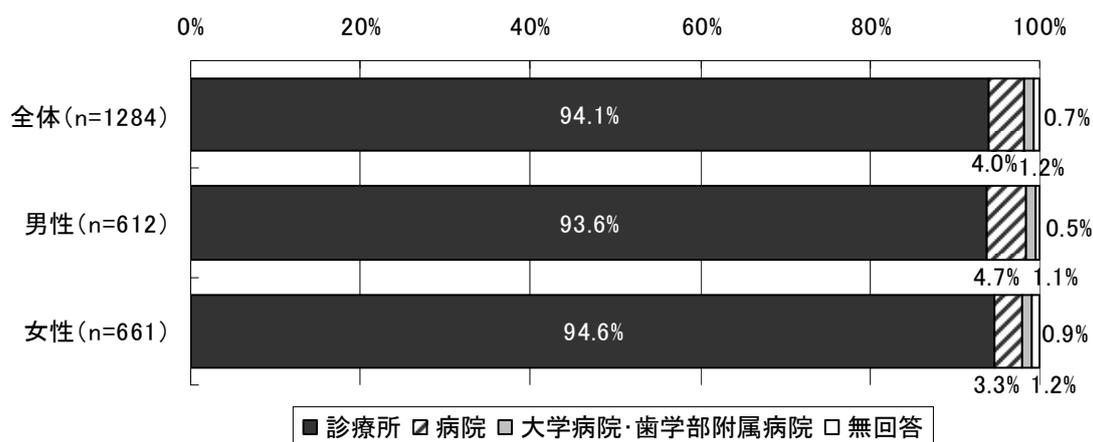
	人数 (人)	平均	標準偏差	最大値	最小値	中央値
全体	1,274	70.0	10.0	99	24	70
男性	604	69.5	9.7	94	39	70
女性	659	70.4	10.2	99	24	71

(注)「全体」には、「性別」について無回答の 11 人が含まれる。

### 3) 受診した歯科医療機関の種類

調査日に回答者が受診した歯科医療機関の種類についてみると、男性では、「診療所」が93.6%、「病院」が4.7%、「大学病院・歯学部附属病院」が1.1%であった。女性では、「診療所」が94.6%、「病院」が3.3%、「大学病院・歯学部附属病院」が1.2%であった。男女による大きな差異はみられなかった。

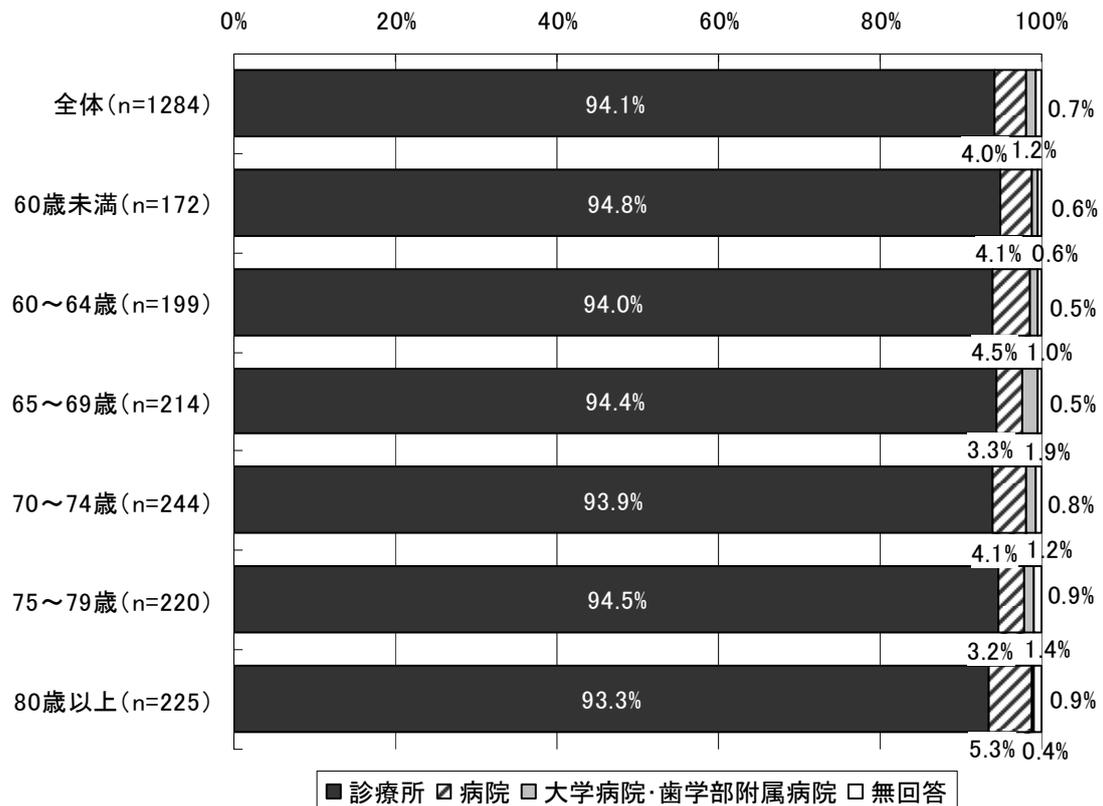
図表 49 受診した歯科医療機関の種類（男女別）



(注) 「全体」には、「性別」について無回答の11人が含まれる。

調査日に受診した施設を年齢階層別にみると、全ての年齢階層で「診療所」が9割以上であった。「病院」を受診した患者の年齢階層は、「80歳以上」の5.3%が最も高く、次いで「60～64歳」の4.5%、「60歳未満」「70～74歳」の4.1%であった。

図表 50 受診した歯科医療機関の種類（年齢階級別）

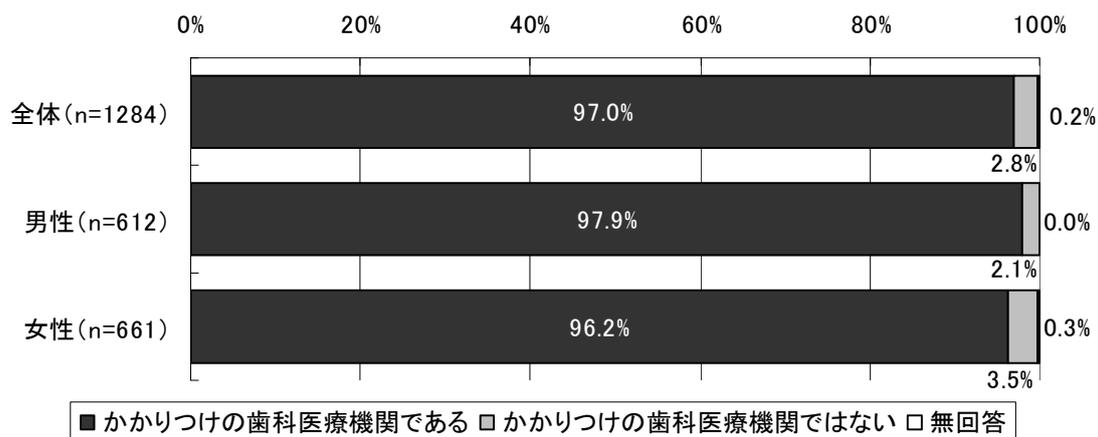


(注)「全体」には、「年齢」について無回答の10人が含まれる。

#### 4) 受診した歯科医療機関との関係

受診した歯科医療機関との関係をみると、男性では、「かかりつけの歯科医療機関である」が 97.9%、「かかりつけの歯科医療機関ではない」が 2.1%であった。女性では、「かかりつけの歯科医療機関である」が 96.2%、「かかりつけの歯科医療機関ではない」が 3.5%であった。男女による大きな差異はみられなかった。

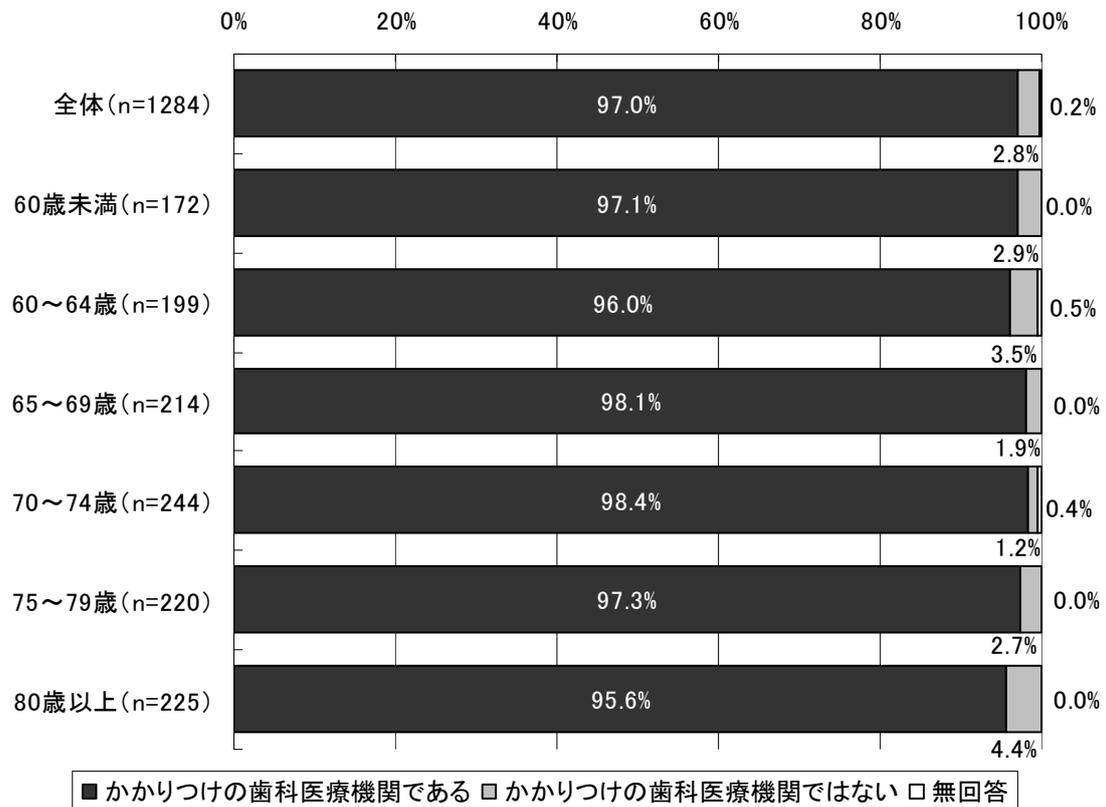
図表 51 受診した歯科医療機関との関係（男女別）



(注)「全体」には、「性別」について無回答の 11 人が含まれる。

受診した歯科医療機関との関係を年齢階級別にみると、全ての年齢階級で「かかりつけの歯科医療機関である」が9割以上であった。

図表 52 受診した歯科医療機関との関係（年齢階級別）

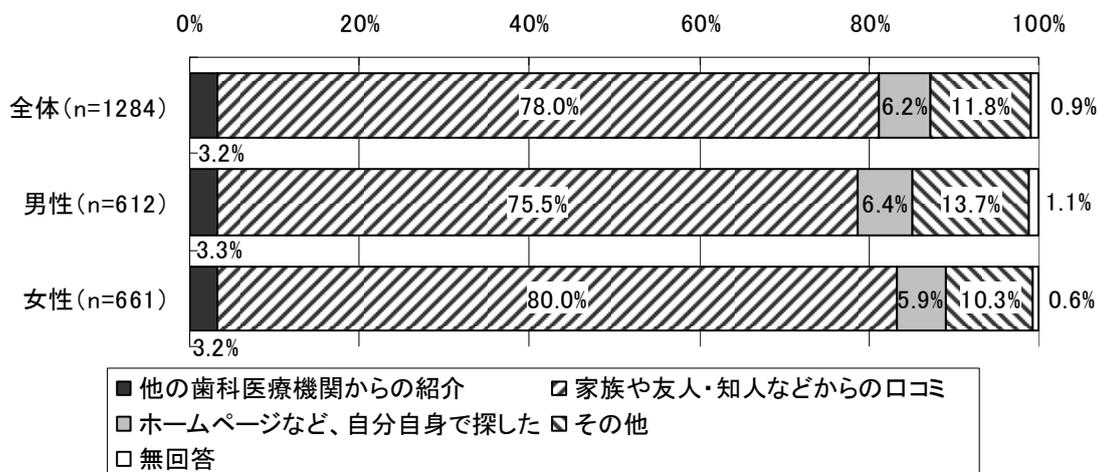


(注) 「全体」には、「年齢」について無回答の10人が含まれる。

### 5) 当該歯科医療機関を知った方法

当該歯科医療機関を知った方法をみると、男性では、「家族や友人・知人などからの口コミ」が75.5%と最も多く、次いで「ホームページなど、自分自身で探した」(6.4%)、「他の歯科医療機関からの紹介」(3.3%)の順であった。女性では、「家族や友人・知人などからの口コミ」が80.0%で最も多く、次いで「ホームページなど、自分自身で探した」(5.9%)、「他の歯科医療機関からの紹介」(3.2%)の順であった。

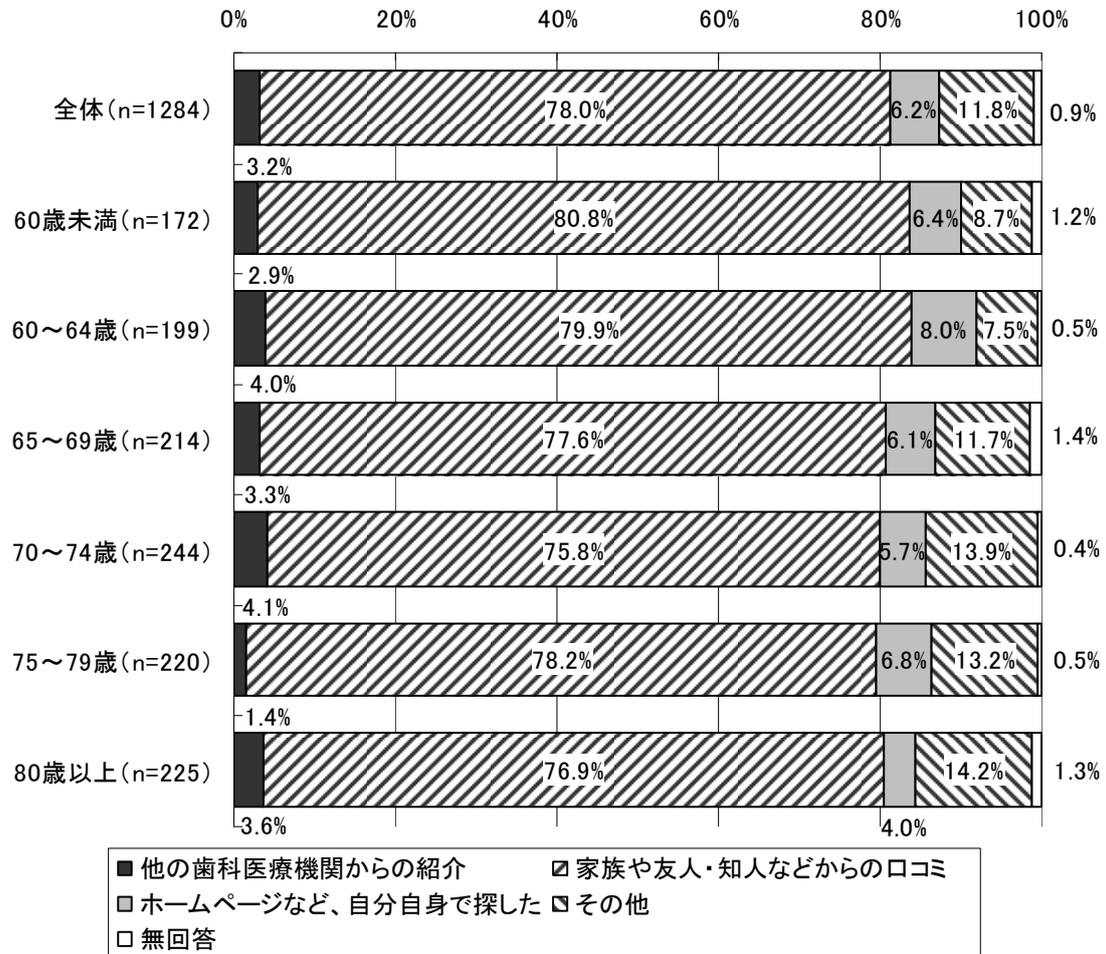
図表 53 当該歯科医療機関を知った方法（男女別）



(注)「全体」には、「性別」について無回答の11人が含まれる。

年齢階級別に当該歯科医療機関を知った方法をみると、いずれの階級別にみても「家族や友人・知人などからの口コミ」が7割台後半から8割を占める結果となった。

図表 54 当該歯科医療機関を知った方法（年齢階級別）



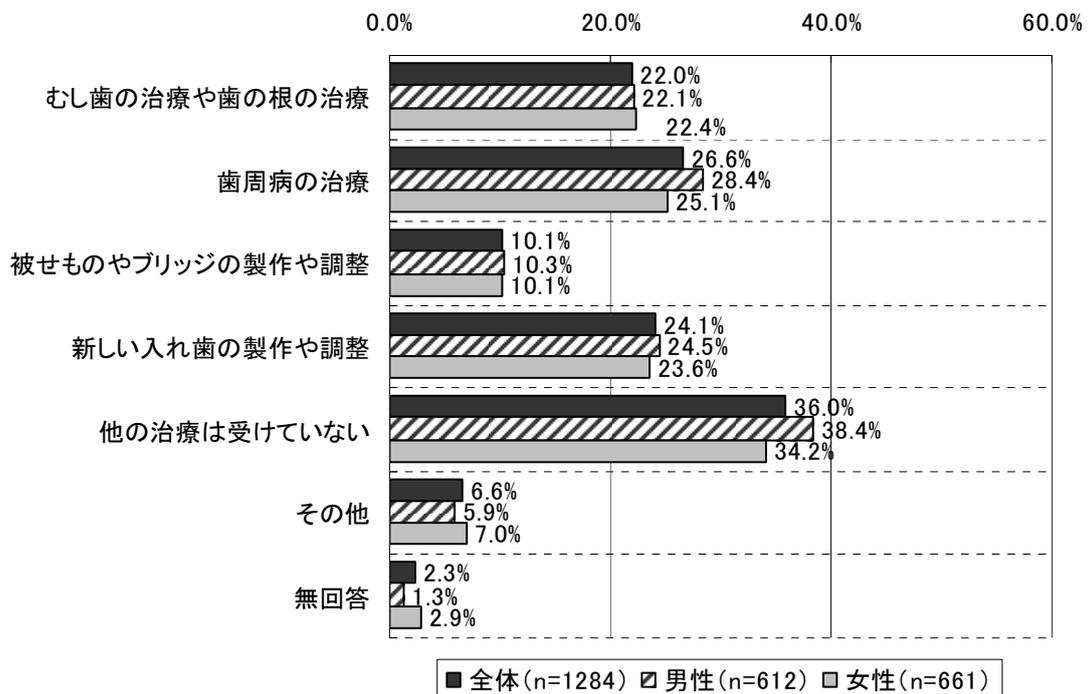
(注)「全体」には、「年齢」について無回答の10人が含まれる。

## ② 歯科診療の状況

### 1) 入れ歯の修理以外の治療内容

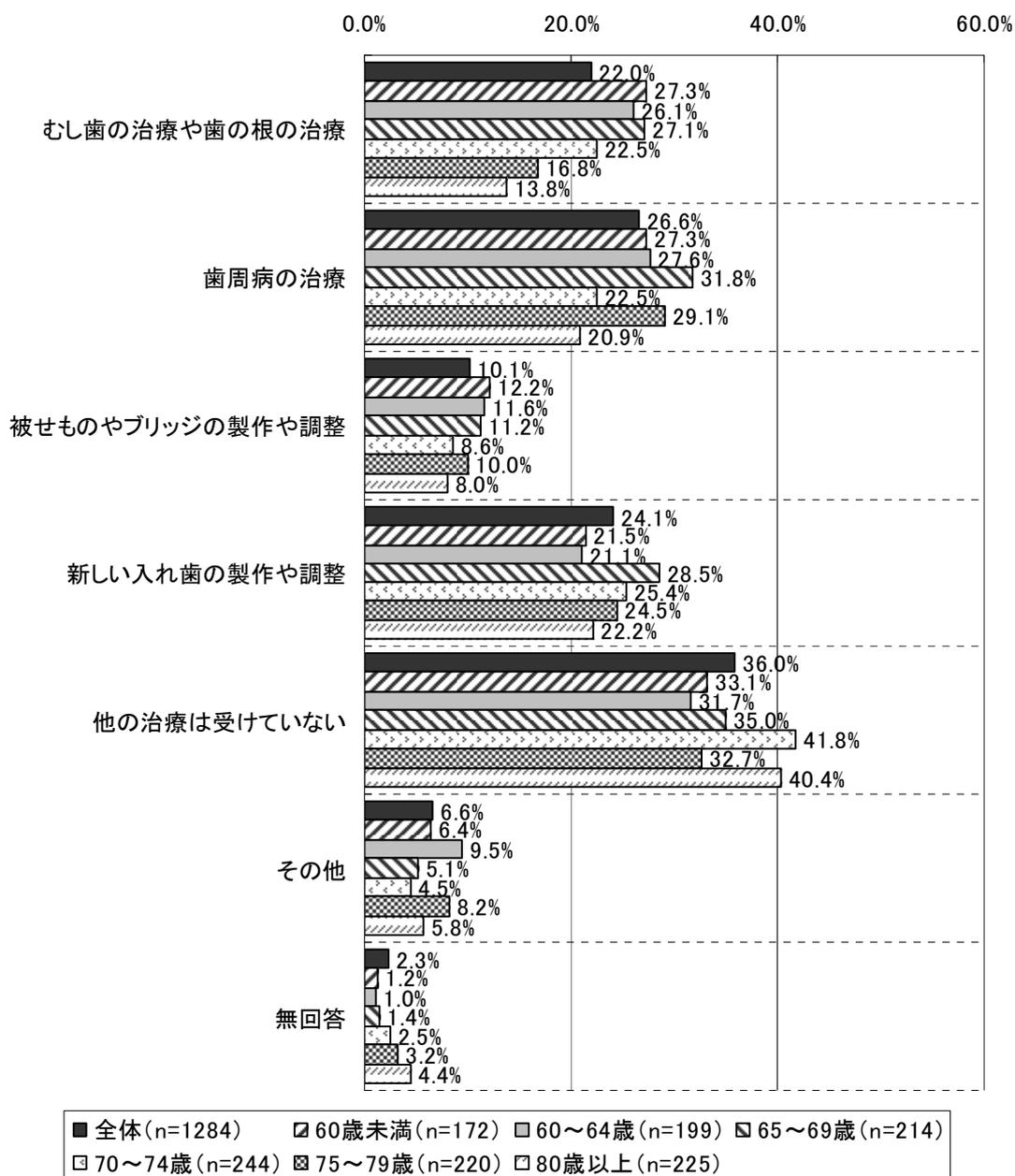
入れ歯の修理以外の治療内容についてみると、男性では、「他の治療は受けていない」が38.4%で最も多く、次いで「歯周病の治療」(28.4%)、「新しい入れ歯の製作や調整」(24.5%)、「むし歯の治療や歯の根の治療」(22.1%)の順であった。女性では、「他の治療は受けていない」が34.2%と最も多く、次いで「歯周病の治療」(25.1%)、「新しい入れ歯の製作や調整」(23.6%)、「むし歯の治療や歯の根の治療」(22.4%)であった。

図表 55 入れ歯の修理以外の治療内容（男女別、複数回答）



(注) 「全体」には、「性別」について無回答の11人が含まれる。

図表 56 入れ歯の修理以外の治療内容（年齢階級別、複数回答）

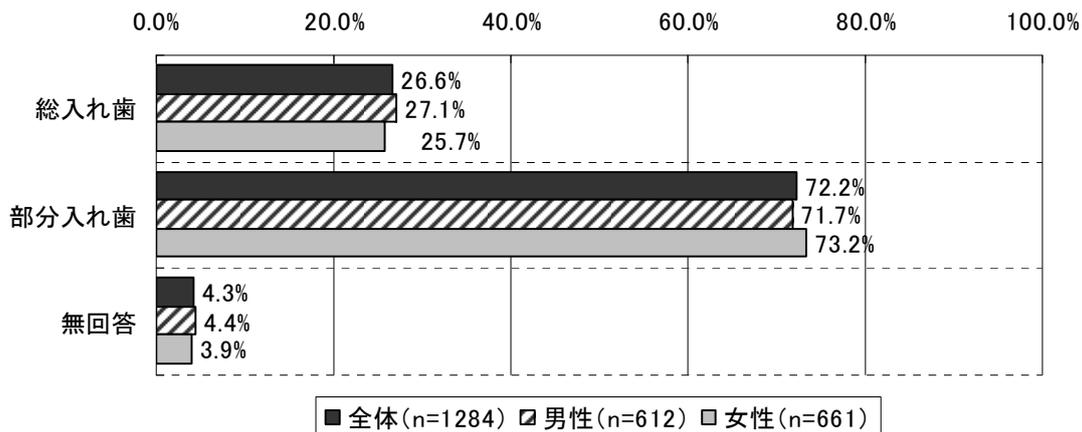


(注) 「全体」には、「年齢」について無回答の10人が含まれる。

## 2) 修理から戻った入れ歯の種類

修理から戻った入れ歯の種類をみると、男性では「総入れ歯」が 27.1%、「部分入れ歯」が 71.7%であった。女性では「総入れ歯」が 25.7%、「部分入れ歯」が 73.2%であった。男女による大きな差異はみられなかった。

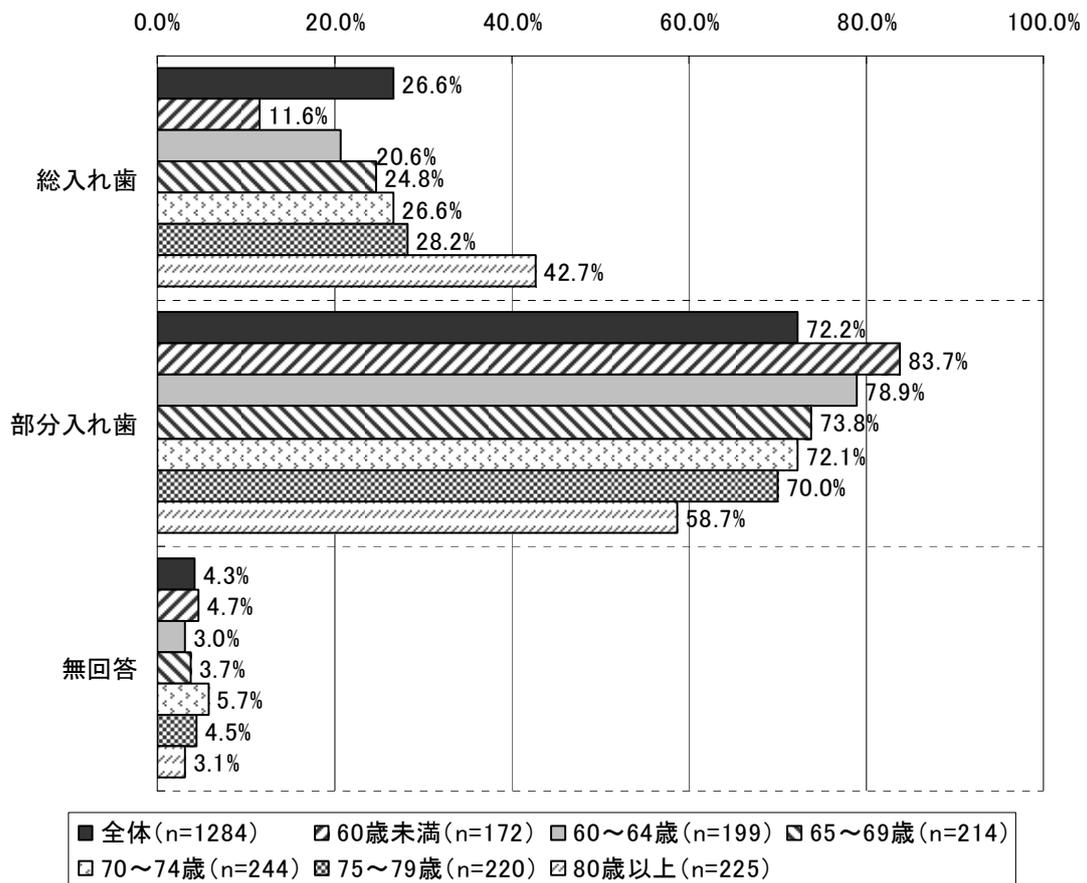
図表 57 修理から戻った入れ歯の種類（男女別、複数回答）



(注)「全体」には、「性別」について無回答の 11 人が含まれる。

修理から戻った入れ歯の種類を年齢階級別にみると、年齢が高くなるのに伴い「総入れ歯」と回答する割合が高くなっている。

図表 58 修理から戻った入れ歯の種類（年齢階級別、複数回答）



(注) 「全体」には、「年齢」について無回答の10人が含まれる。

### 3) 修理から戻った入れ歯の個数

修理から戻った入れ歯の個数の平均について、総入れ歯をみると、男女とも 1.1 個であった。年齢別にみると、「75～79 歳」が 1.2 個、「60～64 歳」「80 歳以上」が 1.1 個、「60 歳未満」「65～69 歳」「70～74 歳」が 1.0 個であった。

部分入れ歯をみると、男女ともに、また全ての年齢において平均 1.1 個であった。

図表 59 修理から戻った入れ歯の個数：総入れ歯

		件数	合計	平均	最大値	最小値	中央値
全体		320	346	1.1	2	1	1
男女別	男性	155	169	1.1	2	1	1
	女性	160	172	1.1	2	1	1
年齢階級別	60 歳未満	19	19	1.0	1	1	1
	60～64 歳	38	41	1.1	2	1	1
	65～69 歳	52	52	1.0	1	1	1
	70～74 歳	60	62	1.0	2	1	1
	75～79 歳	59	68	1.2	2	1	1
	80 歳以上	89	101	1.1	2	1	1

(注)「全体」には、「性別」について無回答の 5 人、「年齢」について無回答の 3 人が含まれる。

図表 60 修理から戻った入れ歯の個数：部分入れ歯

		件数	合計	平均	最大値	最小値	中央値
全体		844	941	1.1	3	1	1
男女別	男性	396	449	1.1	3	1	1
	女性	444	488	1.1	3	1	1
年齢階級別	60 歳未満	138	152	1.1	3	1	1
	60～64 歳	144	165	1.1	2	1	1
	65～69 歳	140	157	1.1	3	1	1
	70～74 歳	159	176	1.1	2	1	1
	75～79 歳	137	153	1.1	3	1	1
	80 歳以上	121	132	1.1	2	1	1

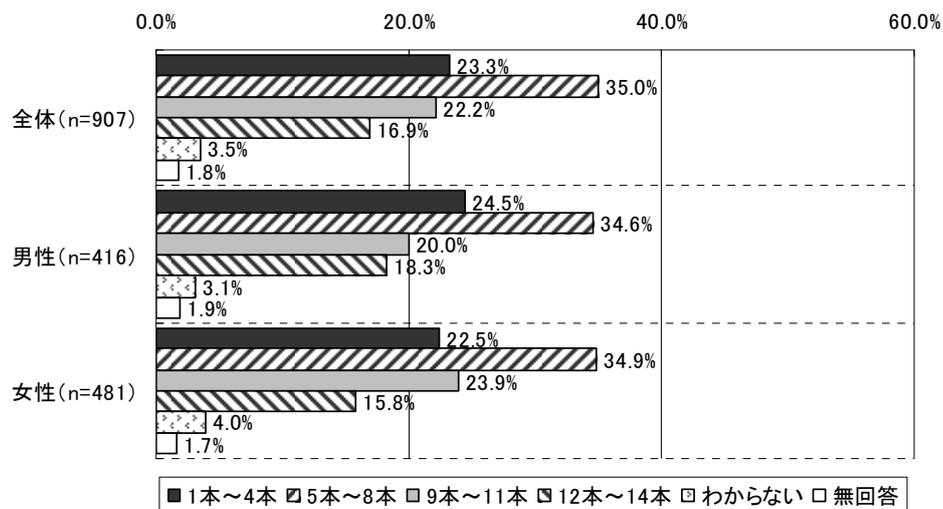
(注)「全体」には、「性別」について無回答の 4 人、「年齢」について無回答の 5 人が含まれる。

#### 4) 修理から戻った部分入れ歯の歯の本数

修理から戻った部分入れ歯の歯の本数をみると、男性では、「5本～8本」(34.6%)が最も多く、次いで「1本～4本」(24.5%)、「9本～11本」(20.0%)となった。女性では「5本～8本」(34.9%)が最も多く、次いで「9本～11本」(23.9%)、「1本～4本」(22.5%)、となった。

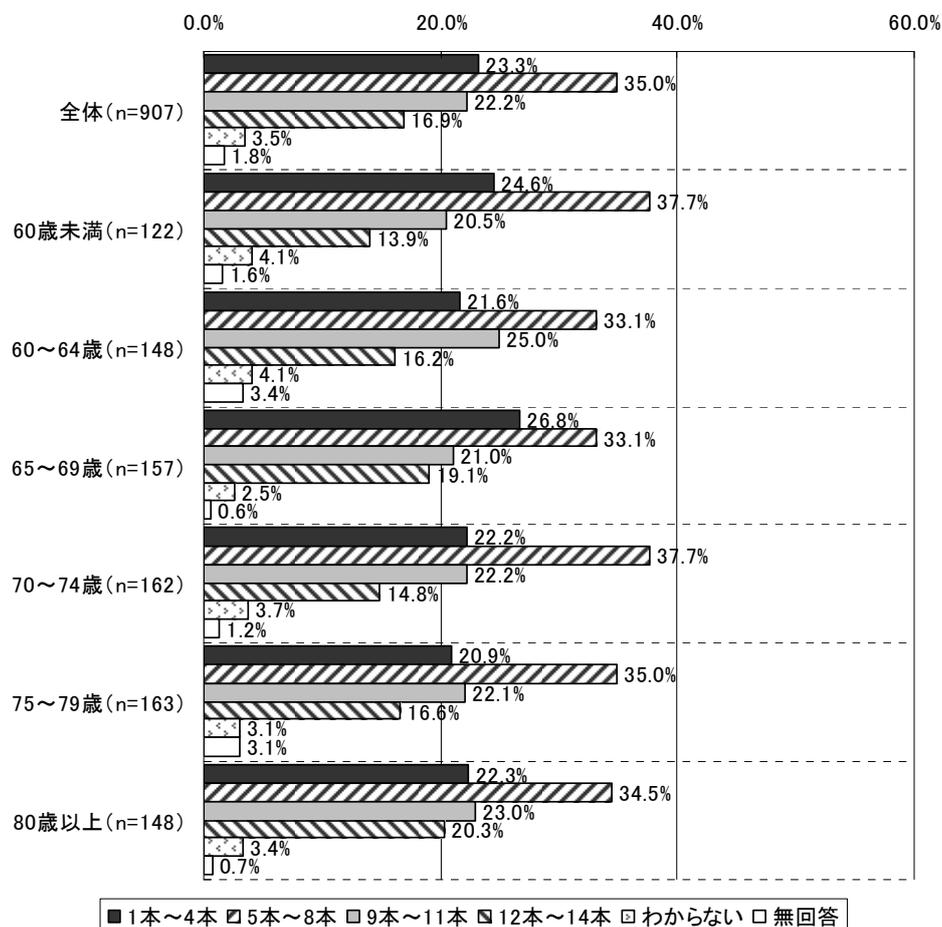
年齢階級別にみると、全ての年齢階級において、「5本～8本」(37.7%)が最も多かった。

図表 61 修理から戻った部分入れ歯の歯の本数（性別）



(注)「全体」には、「性別」について無回答の10人が含まれる。

図表 62 修理から戻った部分入れ歯の歯の本数（年齢階級別）

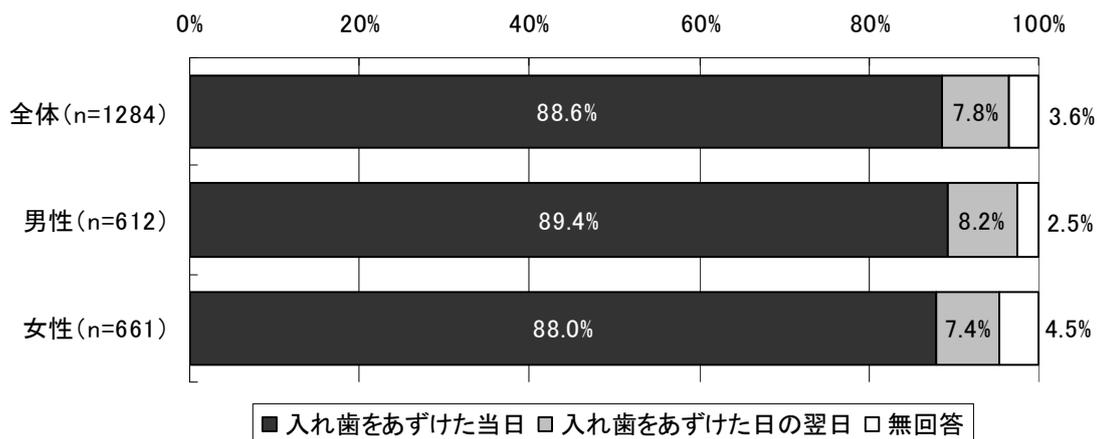


(注) 「全体」には、「年齢」について無回答の7人が含まれる。

### 5) 入れ歯が戻ってきた時期

入れ歯が戻ってきた時期をみると、男性は「入れ歯をあずけた当日」が 89.4%、「入れ歯をあずけた日の翌日」が 8.2%であった。女性は「入れ歯をあずけた当日」が 88.0%、「入れ歯をあずけた日の翌日」が 7.4%であった。男女による大きな差異はみられなかった。

図表 63 入れ歯が戻ってきた時期（男女別）

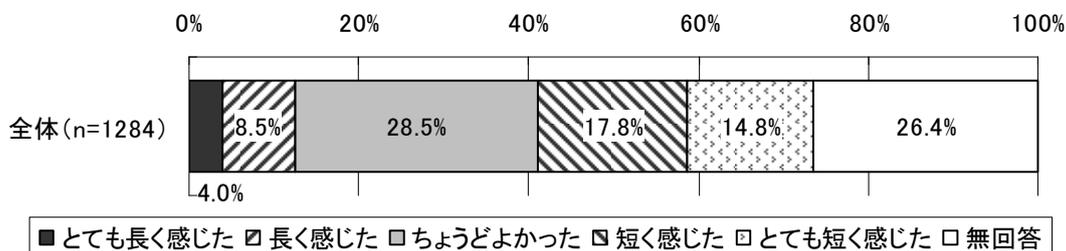


(注)「全体」には、「性別」について無回答の 11 人が含まれる。

### 6) 修理した入れ歯が戻ってくるまでの期間についての評価

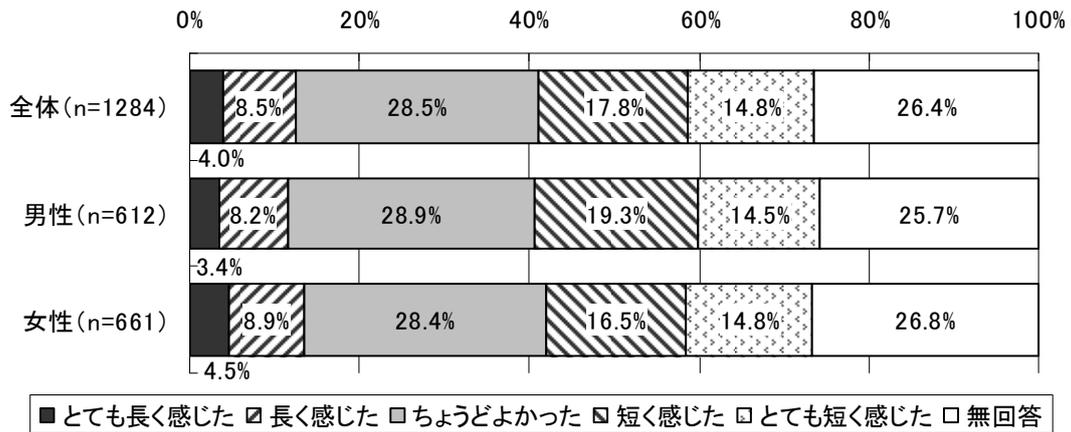
修理した入れ歯が戻ってくるまでの期間についての評価をみると、「ちょうどよかった」が 28.5%と最も多く、次いで「短く感じた」(17.8%)、「とても短く感じた」が 14.8%であった。

図表 64 修理した入れ歯が戻ってくるまでの期間についての評価



修理した入れ歯が戻ってくるまでの期間についての評価を男女別にみると、男性では「ちょうどよかった」が28.9%と最も多く、次いで「短く感じた」(19.3%)、「とても短く感じた」(14.5%)であった。女性では「ちょうどよかった」が28.4%と最も多く、次いで「短く感じた」(16.5%)、「とても短く感じた」(14.8%)であった。

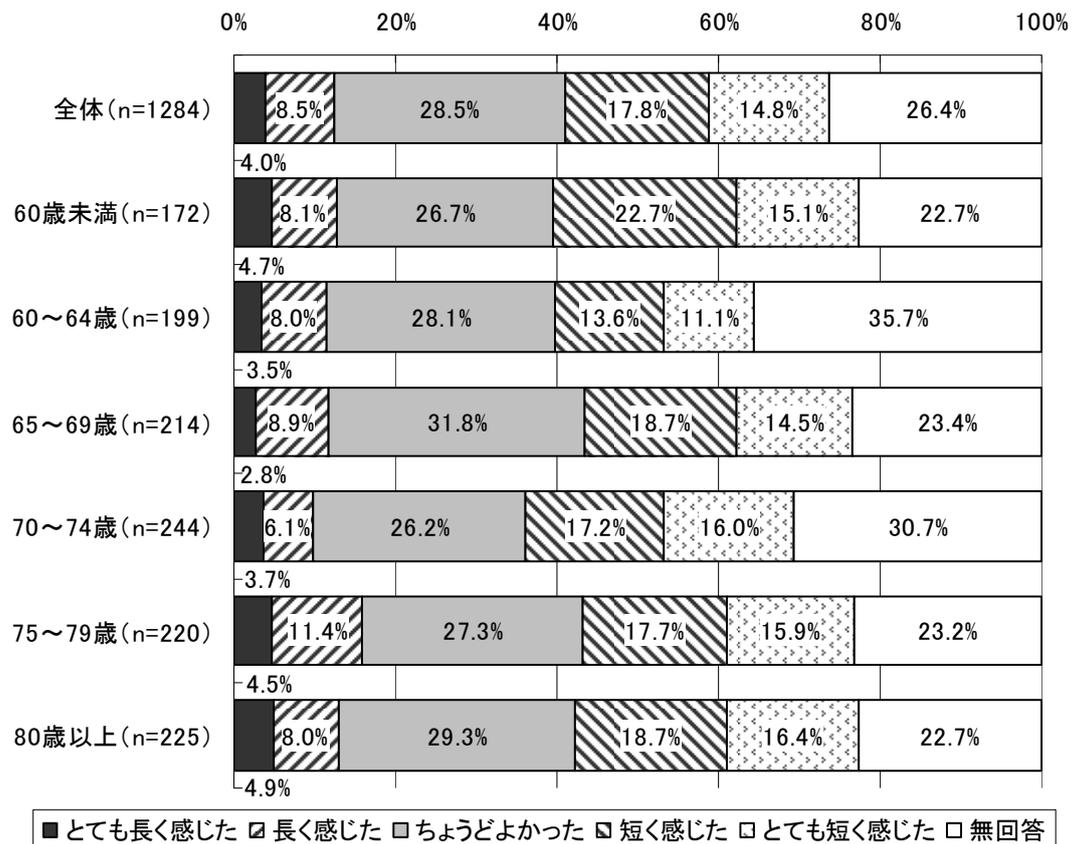
図表 65 修理した入れ歯が戻ってくるまでの期間についての評価（男女別）



(注) 「全体」には、「性別」について無回答の11人が含まれる。

修理した入れ歯が戻ってくるまでの期間についての評価を年齢階級別にみると、いずれの年齢階級でも「ちょうど良かった」が最も多くなっている。また、「60歳未満」で「短く感じた」と回答した割合が他の年齢階級と比較して高くなっている。

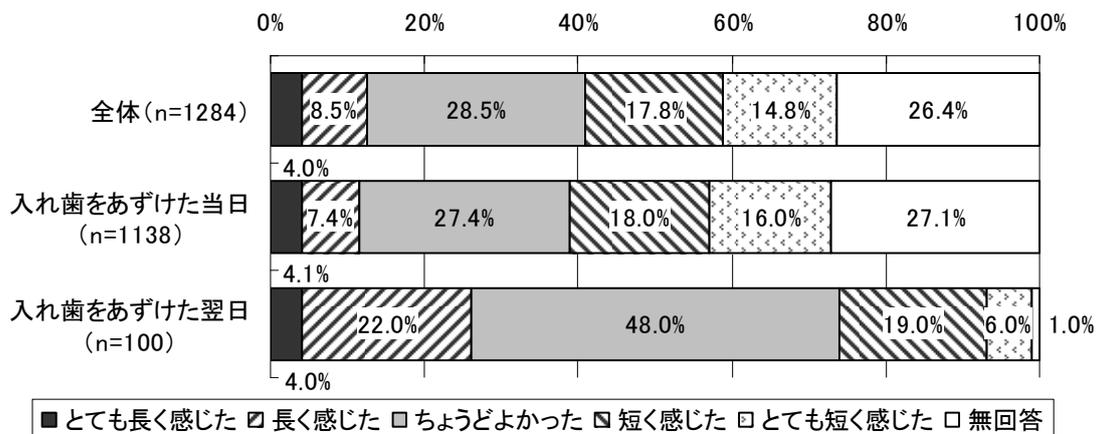
図表 66 修理した入れ歯が戻ってくるまでの期間についての評価（年齢階級別）



(注) 「全体」には、「年齢」について無回答の10人が含まれる。

修理した入れ歯が戻ってくるまでの期間についての評価を入れ歯が戻ってきた時期別にみると、入れ歯をあずけた当日に入れ歯が戻ってきた人は「ちょうどよかった」が27.4%と最も多く、次いで「短く感じた」(18.0%)、「とても短く感じた」(16.0%)であった。入れ歯をあずけた翌日に入れ歯が戻ってきた人は「ちょうどよかった」が48.0%と最も多く、次いで「長く感じた」(22.0%)、「短く感じた」(19.0%)となった。

図表 67 修理した入れ歯が戻ってくるまでの期間についての評価  
(入れ歯が戻ってきた時期別)

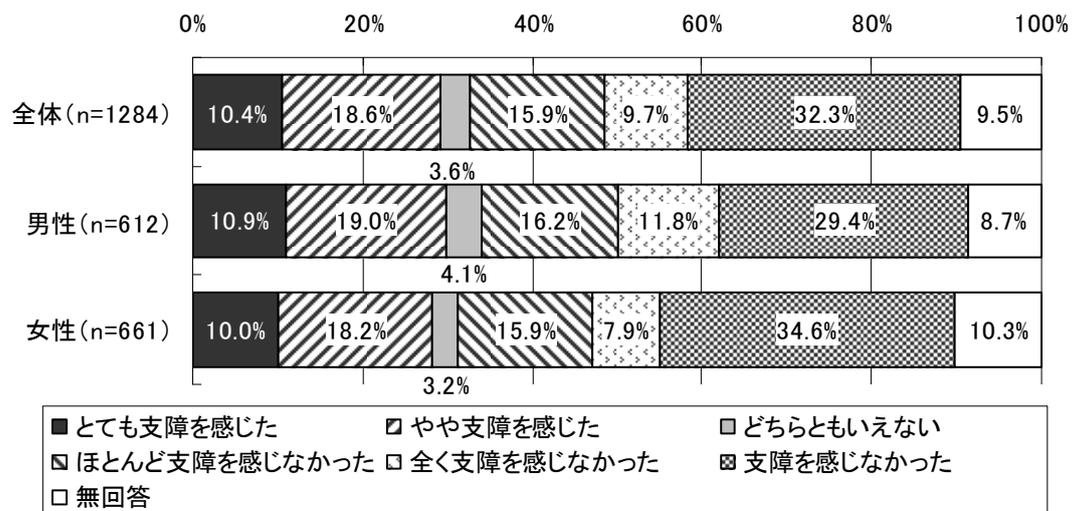


(注)「全体」には、「入れ歯が戻ってきた時期」について無回答の46人が含まれる。

## 7) 修理期間中に感じた支障

修理期間中に感じた支障についてみると、男性では、「支障を感じなかった」が 29.4%と最も多く、次いで「やや支障を感じた」(19.0%)、「ほとんど支障を感じなかった」(16.2%)の順であった。女性では、「支障を感じなかった」が 34.6%と最も多く、次いで「やや支障を感じた」(18.2%)、「ほとんど支障を感じなかった」(15.9%)の順であった。

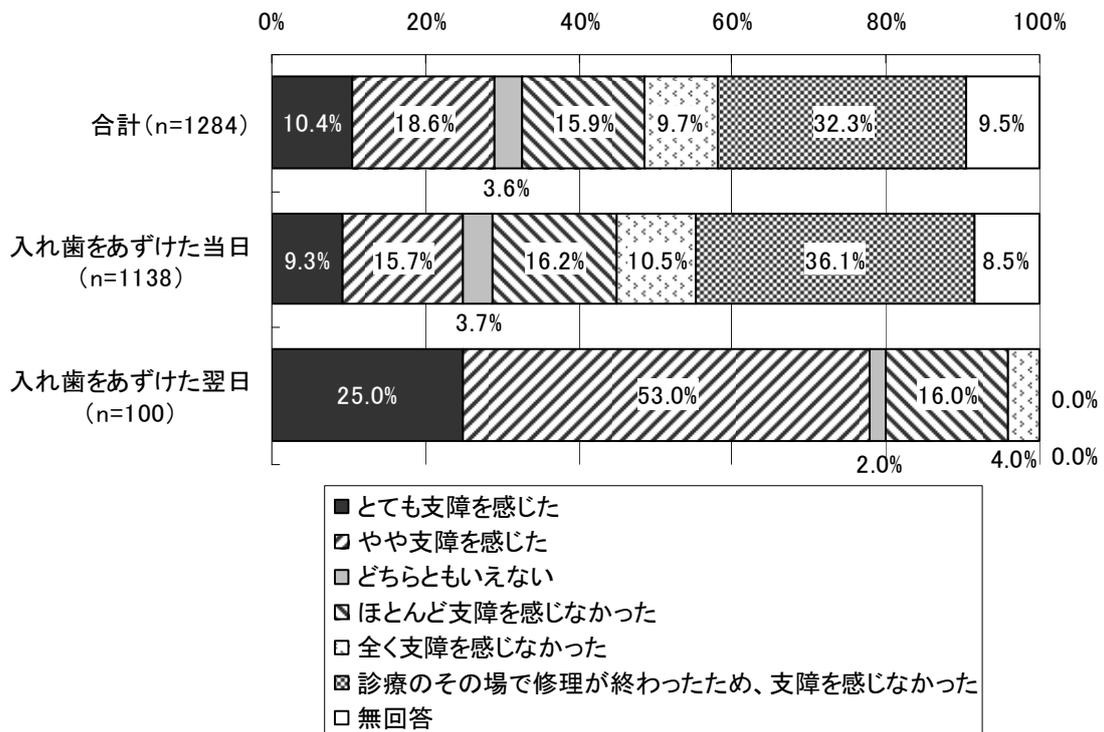
図表 68 修理期間中に感じた支障（男女別）



(注)「全体」には、「性別」について無回答の11人が含まれる。

修理期間中に感じた支障を入れ歯が戻ってきた時期別にみると、「入れ歯をあずけた当日」では、「診療のその場で修理が終わったため、支障を感じなかった」が 36.1%と最も多く、次いで「ほとんど支障を感じなかった」(16.2%)、「やや支障を感じた」(15.7%)の順であった。「入れ歯をあずけた翌日」では「やや支障を感じた」が 53.0%と約半数を占め、次いで「とても支障を感じた」が 25.0%、「ほとんど支障を感じなかった」が 16.0%であった。

図表 69 修理期間中に感じた支障（入れ歯が戻ってきた時期別）

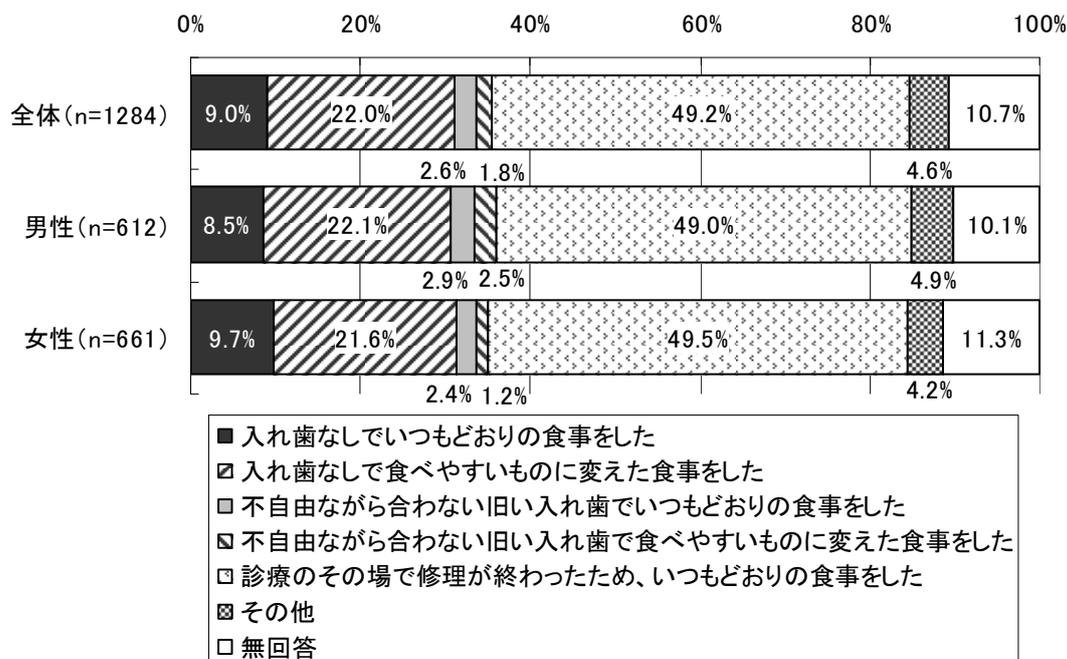


(注)「全体」には、「入れ歯が戻ってきた時期」について無回答の 46 人が含まれる。

### 8) 修理期間中における食事方法

修理期間中における食事方法をみると、男女とも「診療のその場で修理が終わったため、いつもどおりの食事をした」が約半数を占める結果となった。

図表 70 修理期間中における食事方法（男女別）

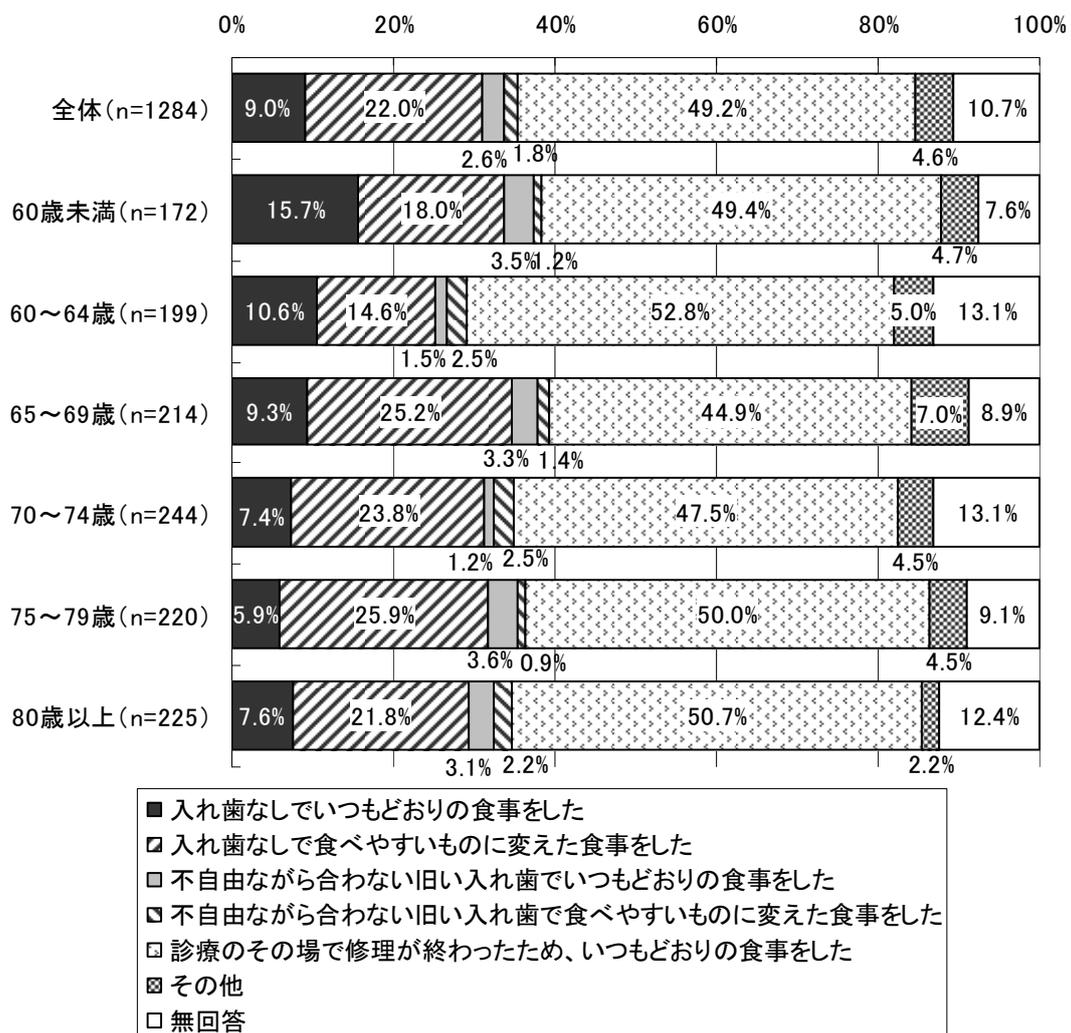


(注)「全体」には、「性別」について無回答の11人が含まれる。

修理期間中における食事方法を年齢階級別にみると、いずれの年齢階級においても「診療のその場で修理が終わったため、いつもどおりの食事をした」が5割近くを占め、最も多くなっている。特に、「60～64歳」「75～79歳」「80歳以上」では50%を超える結果となった。

また、「60歳未満」では、「入れ歯なしでいつもどおりの食事をした」と回答した割合が他の年齢階級に比べ相対的に高い結果となった。

図表 71 修理期間中における食事方法（年齢階級別）

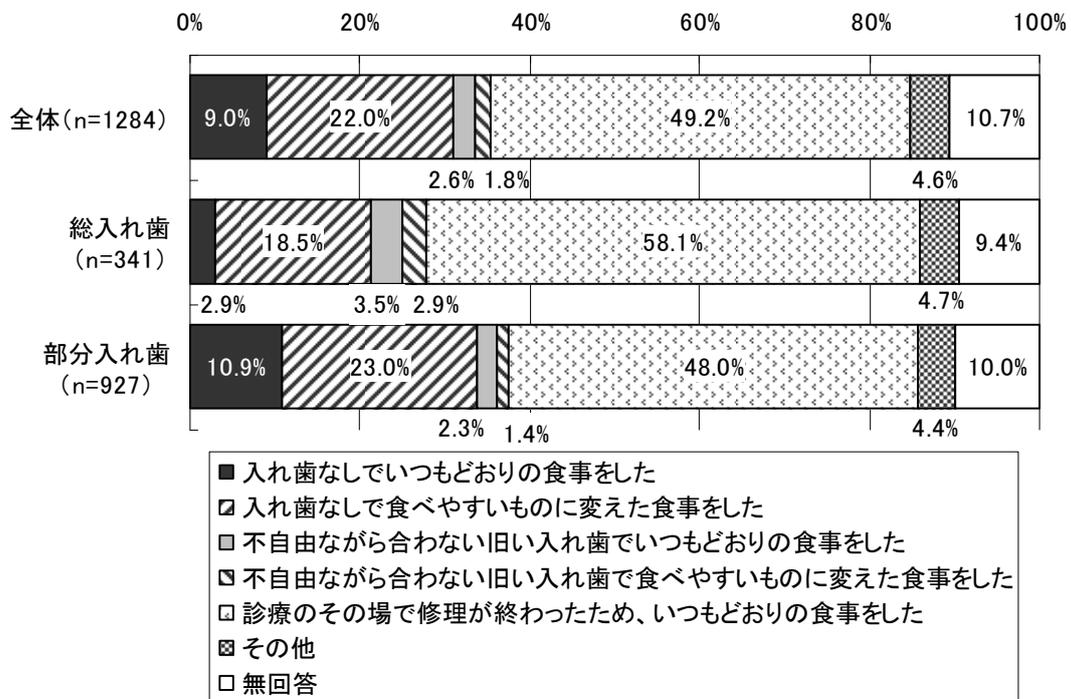


(注) 「全体」には、「年齢」について無回答の10人が含まれる。

修理期間中における食事方法を修理から戻った入れ歯の種類別にみると、総入れ歯では、「診療のその場で修理が終わったため、いつもどおりの食事をした」が 58.1%と最も多く、次いで「入れ歯なしで食べやすいものに変えた食事をした」(18.5%)であった。部分入れ歯では、「診療のその場で修理が終わったため、いつもどおりの食事をした」が 48.0%と最も多く、次いで「入れ歯なしで食べやすいものに変えた食事をした」(23.0%)、「入れ歯なしでいつもどおりの食事をした」(10.9%)の順となった。

総入れ歯と部分入れ歯とを比較すると、総入れ歯では「診療のその場で修理が終わったため、いつもどおりの食事をした」が部分入れ歯と比較して 10ポイント近く高い結果となった。

図表 72 修理期間中における食事方法（修理から戻った入れ歯の種類別）

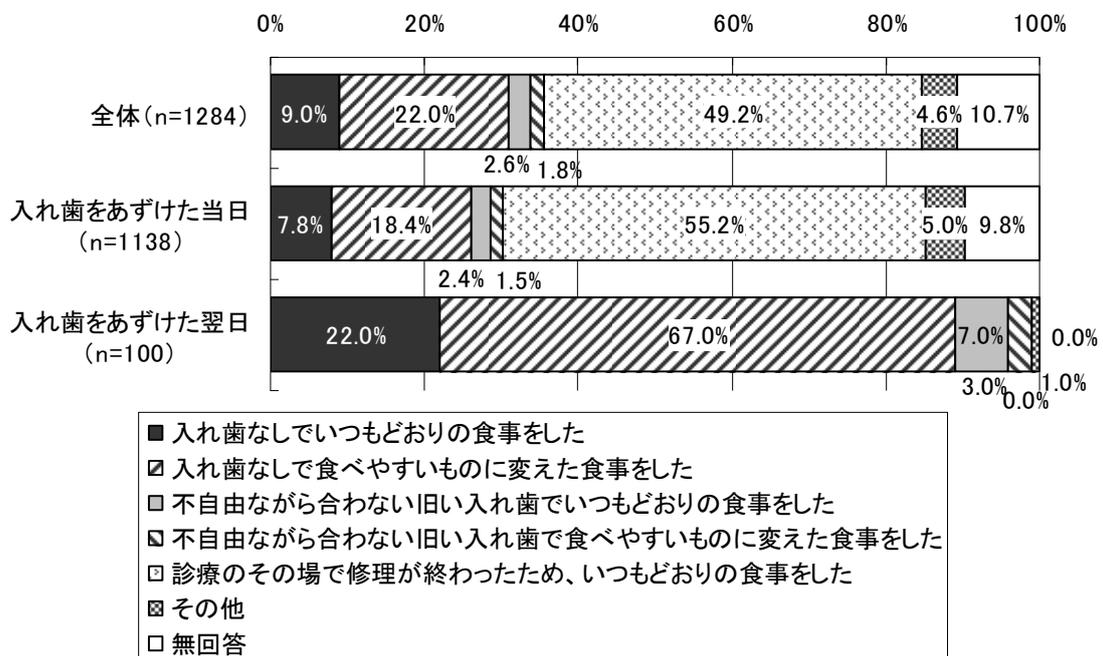


(注)「全体」には、「修理から戻った入れ歯の種類」について無回答の 55 人が含まれる。

修理期間中における食事方法を入れ歯が戻ってきた時期別にみると、入れ歯をあずけた当日では、「診療のその場で修理が終わったため、いつもどおりの食事をした」が 55.2%と最も多く、次いで、「入れ歯なしで食べやすいものに変えた食事をした」(18.4%)、「入れ歯なしでいつもどおりの食事をした」(7.8%)であった。

入れ歯をあずけた翌日では、「入れ歯なしで食べやすいものに変えた食事をした」が 67.0%と最も多く、次いで「入れ歯なしでいつもどおりの食事をした」(22.0%)、「不自由ながら合わない旧い入れ歯でいつもどおりの食事をした」(7.0%)であった。

図表 73 修理期間中における食事方法（入れ歯が戻ってきた時期別）



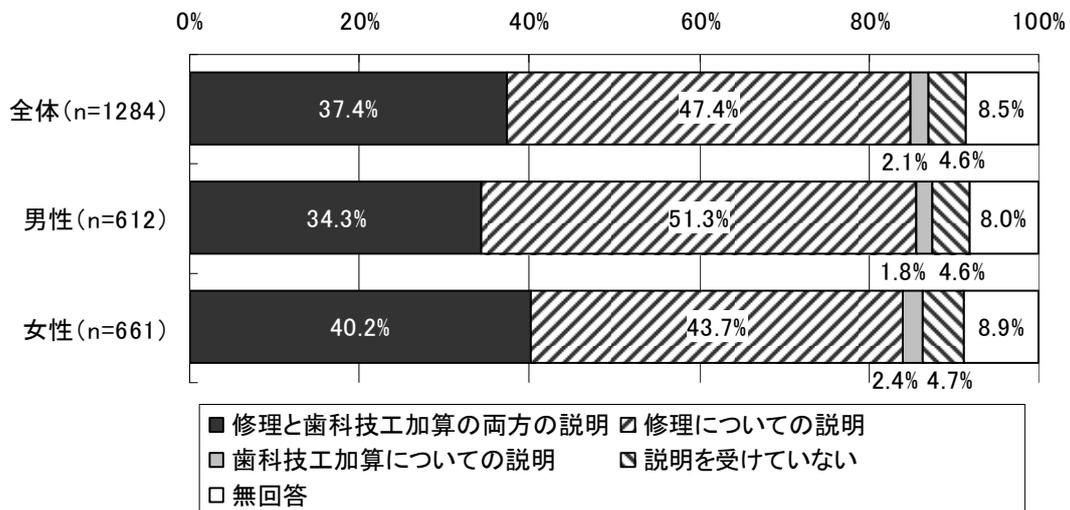
(注)「全体」には、「入れ歯が戻ってきた時期」について無回答の 55 人が含まれる。

#### ④ 歯科技工加算について

##### 1) 入れ歯修理に関する説明の有無

入れ歯修理に関する説明の有無をみると、男性では、「修理と歯科技工加算の両方の説明」が34.3%、「修理についての説明」が51.3%、「歯科技工加算についての説明」が1.8%、「説明を受けていない」が4.6%であった。女性では、「修理と歯科技工加算の両方の説明」が40.2%、「修理についての説明」が43.7%、「歯科技工加算についての説明」が2.4%、「説明を受けていない」が4.7%であった。女性は男性と比較すると、「修理と歯科技工加算の両方の説明」が5.9ポイント高く、男性は「修理についての説明」が7.6ポイント高かった。

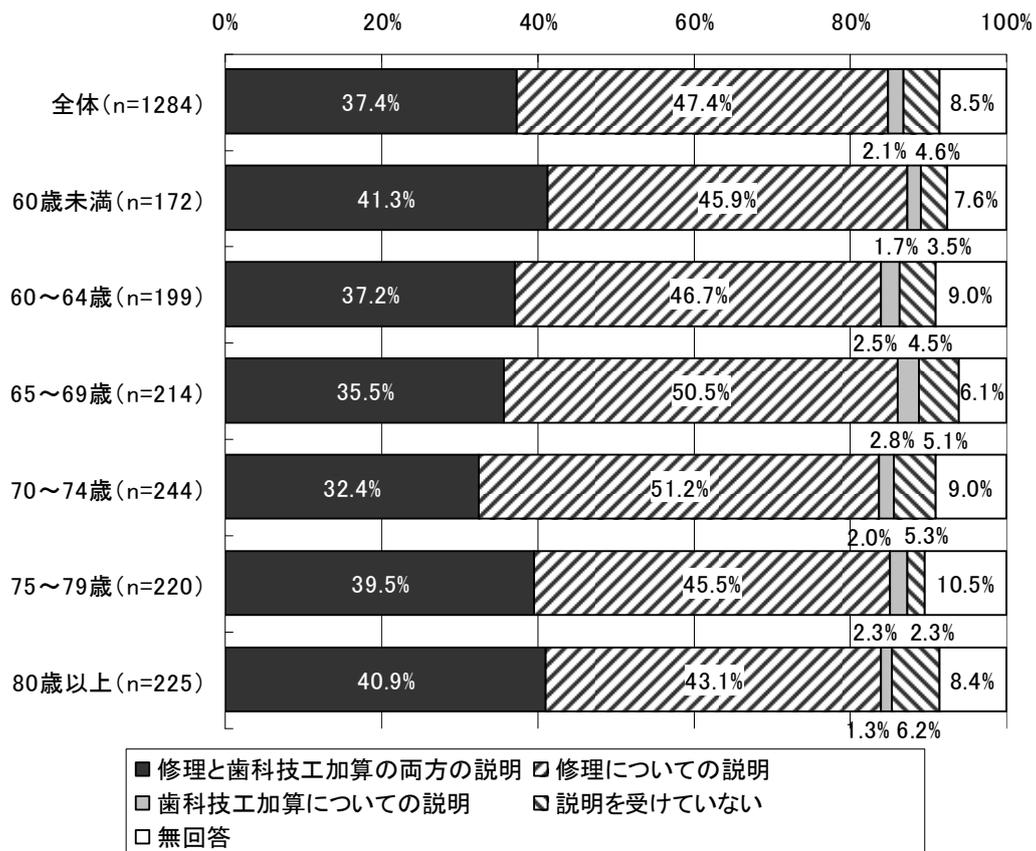
図表 74 入れ歯修理に関する説明の有無（男女別）



(注)「全体」には、「性別」について無回答の11人が含まれる。

入れ歯修理に関する説明の有無を年齢階級別にみると、いずれの年齢階級においても「修理についての説明」が「修理と歯科技工加算の両方の説明」よりも大きくなっている。特に「70～74歳」において「修理についての説明」が他の年齢階級に比べ高い回答となった。また、「80歳以上」では、「説明を受けていない」と回答した割合が他の年齢階級に比べ高くなっている。

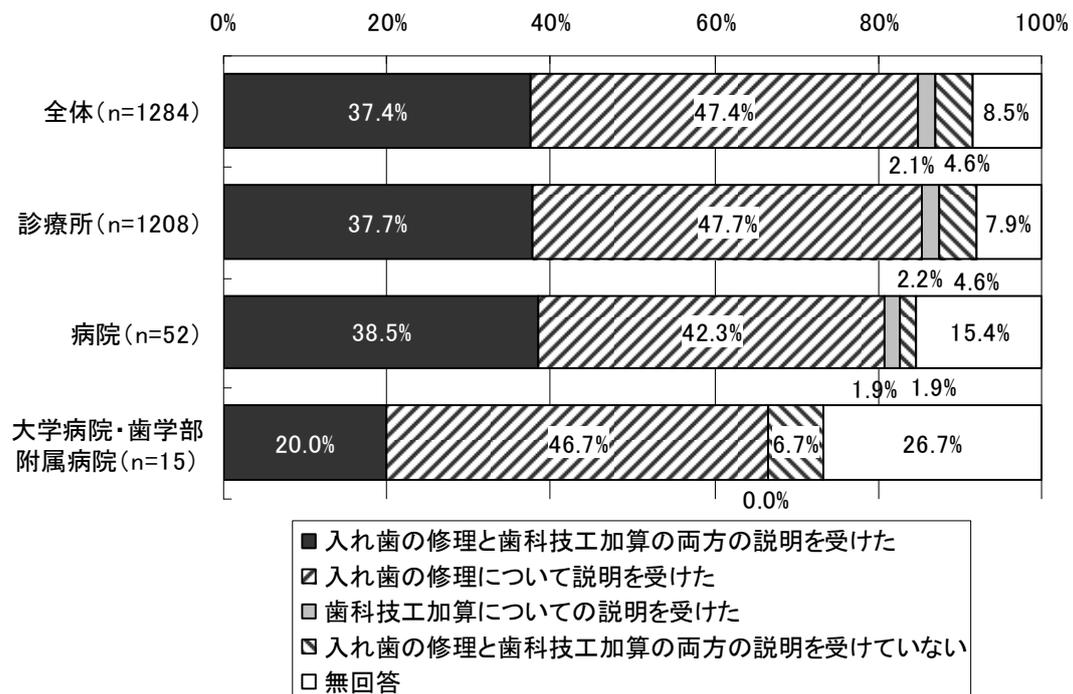
図表 75 入れ歯修理に関する説明の有無（年齢階級別）



(注)「全体」には、「年齢」について無回答の10人が含まれる。

入れ歯修理に関する説明の有無を受診した施設別にみると、診療所では「入れ歯の修理と歯科技工加算の両方の説明を受けた」が37.7%、「入れ歯の修理について説明を受けた」が47.7%であった。病院では「入れ歯の修理と歯科技工加算の両方の説明を受けた」が38.5%、「入れ歯の修理について説明を受けた」が42.3%であった。大学病院・歯学部附属病院では「入れ歯の修理と歯科技工加算の両方の説明を受けた」が20.0%、「入れ歯の修理について説明を受けた」が46.7%であった。

図表 76 入れ歯修理に関する説明の有無（受診した施設別）

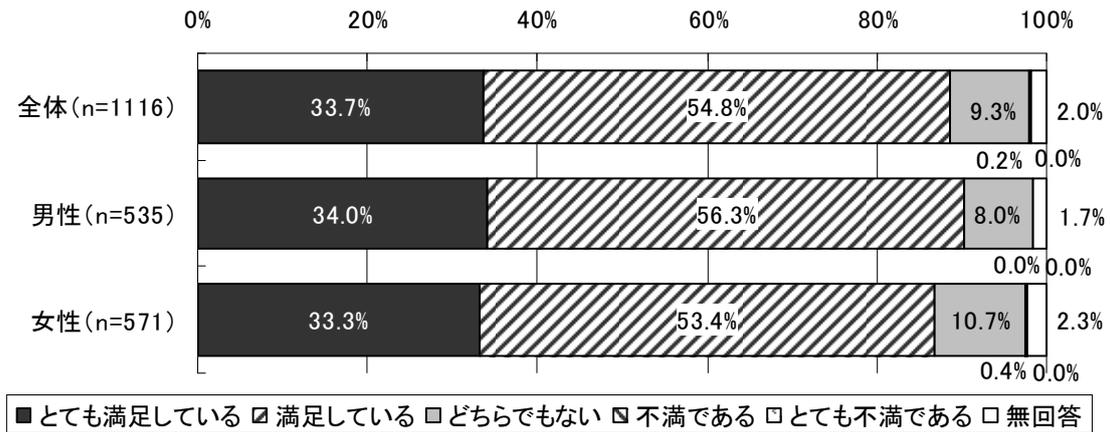


(注) 「全体」には、「受診した施設」について無回答の9人が含まれる。

## 2) 受けた説明に対する満足度

受けた説明に対する満足度をみると、男性では、「満足している（「とても満足している」と「満足している」の合計。以下同様）」が90.3%であった。女性では、「満足している」が86.7%であった。

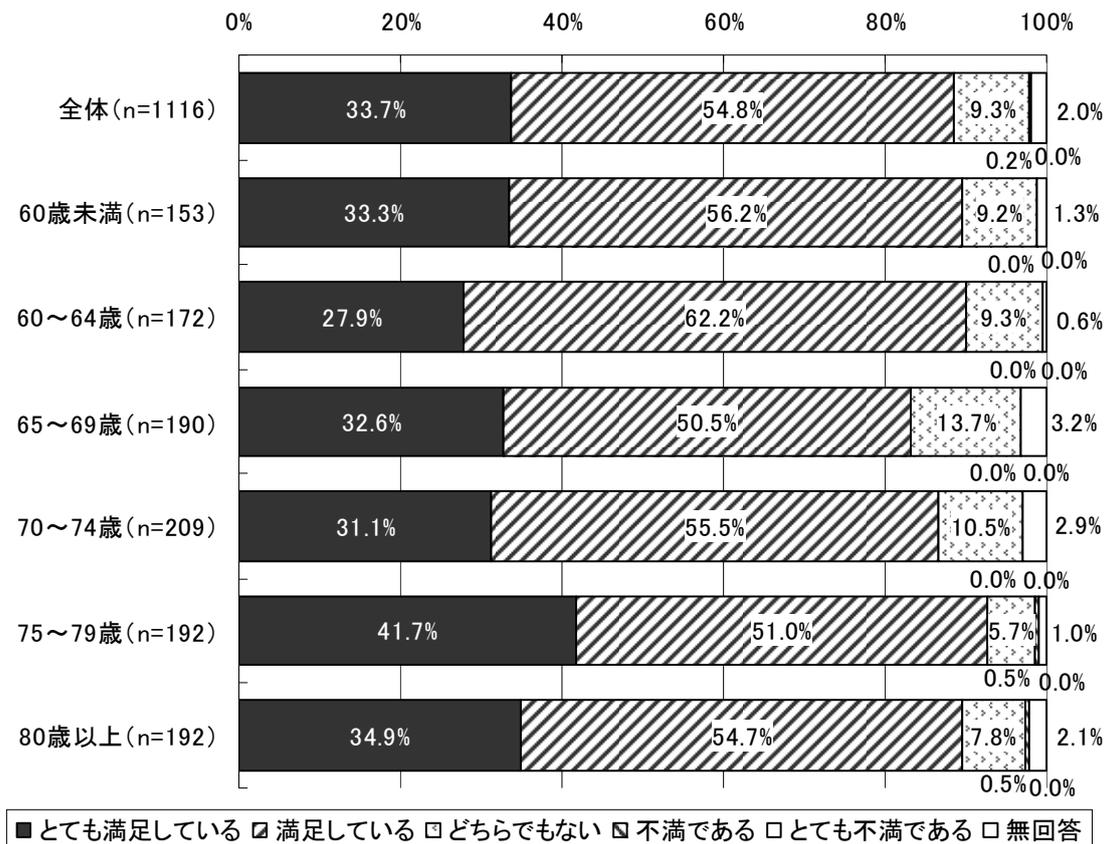
図表 77 受けた説明に対する満足度（男女別）



(注) 「全体」には、「性別」について無回答の10人が含まれる。

受けた説明に対する満足度を年齢階級別にみると、いずれの年齢階級においても「満足している」が80%以上を占める結果となった。特に、「60～64歳」「75～79歳」で「満足している」の回答割合が90%を超える結果となった。

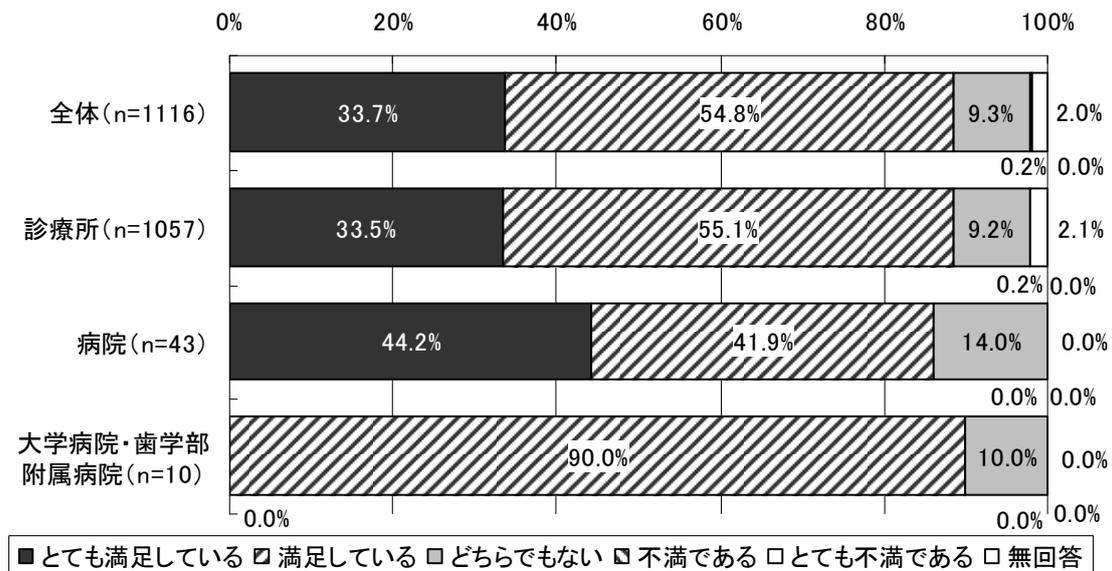
図表 78 受けた説明に対する満足度（年齢階級別）



(注) 「全体」には、「年齢」について無回答の8人が含まれる。

受けた説明に対する満足度を受診した施設別にみると、いずれの施設をみても「満足している」の回答が 80%以上を占める結果となった。特に病院では「とても満足している」が4割を超え、他の施設よりも高かった。

図表 79 受けた説明に対する満足度（受診した施設別）

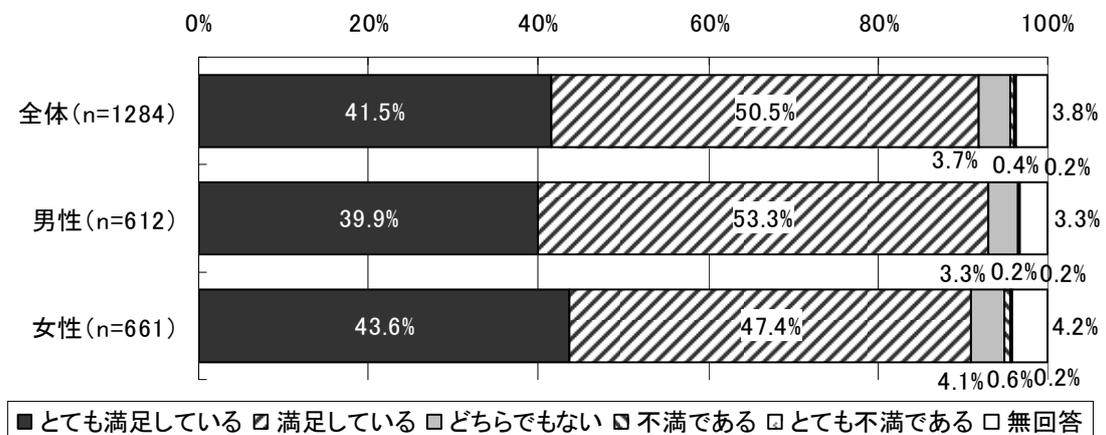


(注)「全体」には、「受診した施設」について無回答の6人が含まれる。

### 3) 修理が終わった入れ歯の満足度

修理が終わった入れ歯の満足度をみると、男性では、「満足している（「とても満足している」と「満足している」の合計。以下同様）」が93.2%、女性では91.0%であった。

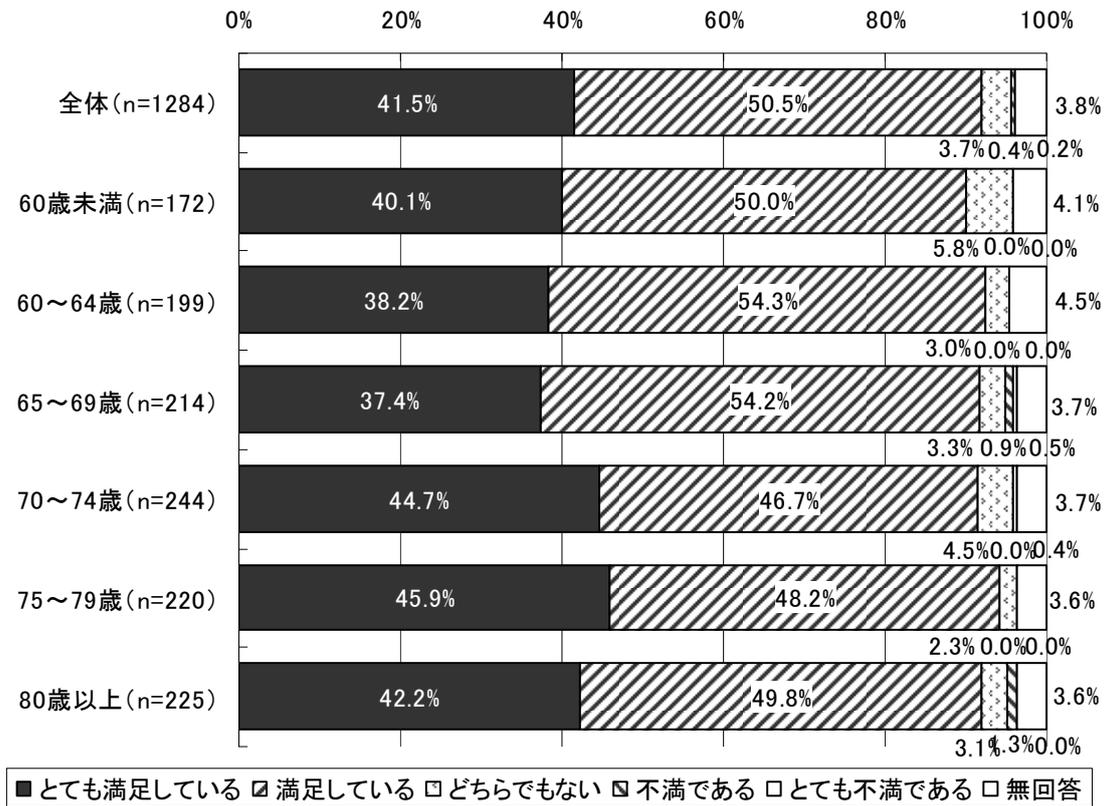
図表 80 修理が終わった入れ歯の満足度（男女別）



(注)「全体」には、「性別」について無回答の11人が含まれる。

修理が終わった入れ歯の満足度を年齢階級別にみると、いずれの年齢階級においても「満足している」が9割を超える結果となった。特に70歳以上では「とても満足している」が4割を超えた。

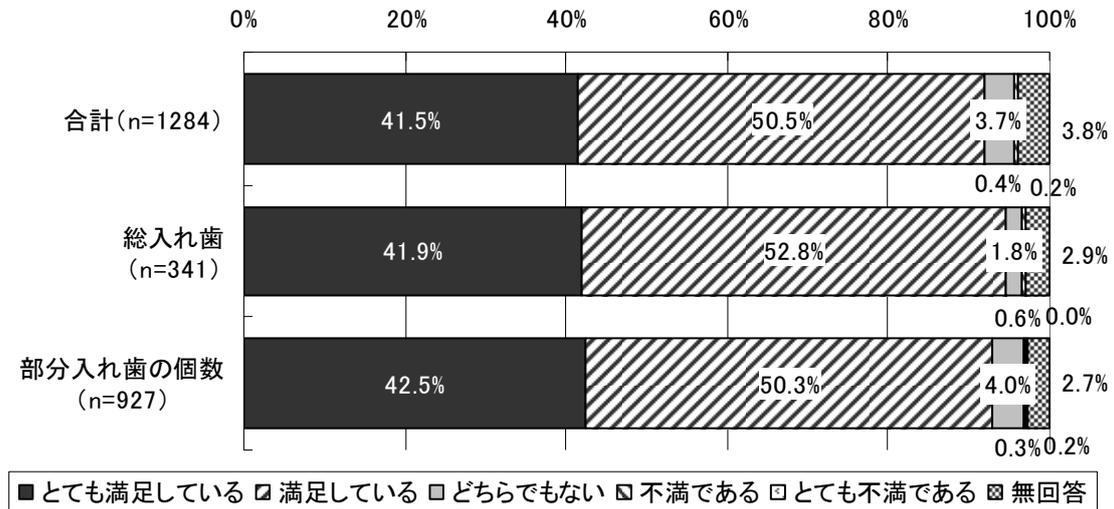
図表 81 修理が終わった入れ歯の満足度（年齢階級別）



(注) 「全体」には、「年齢」について無回答の10人が含まれる。

修理が終わった入れ歯の満足度を入れ歯の種類別にみると、総入れ歯では、「満足している」が94.7%、部分入れ歯では、92.8%であった。

図表 82 修理が終わった入れ歯の満足度（入れ歯の種類別）

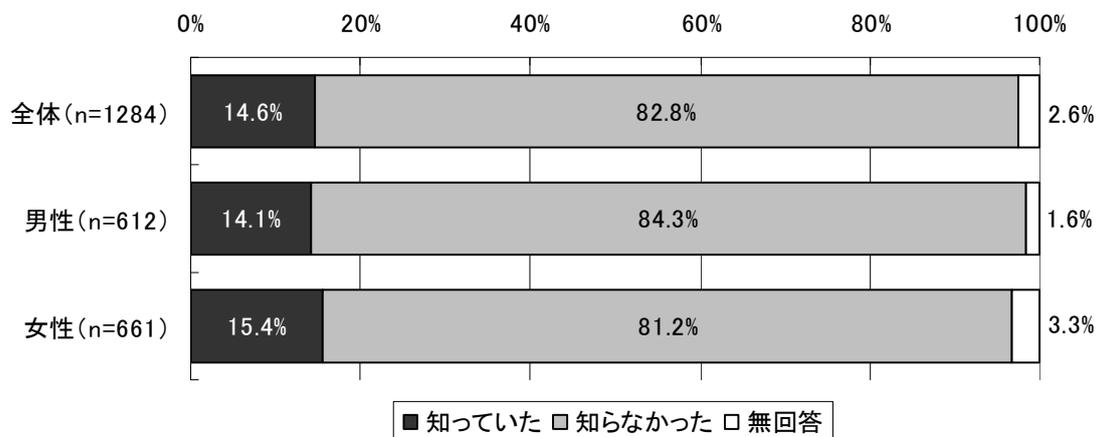


(注)「全体」には、「入れ歯の種類」について無回答の11人が含まれる。

#### 4) 歯科技工加算の認知度

歯科技工加算の認知度をみると、男性では、「知っていた」が14.1%、「知らなかった」が84.3%であった。女性では、「知っていた」が15.4%、「知らなかった」が81.2%であった。

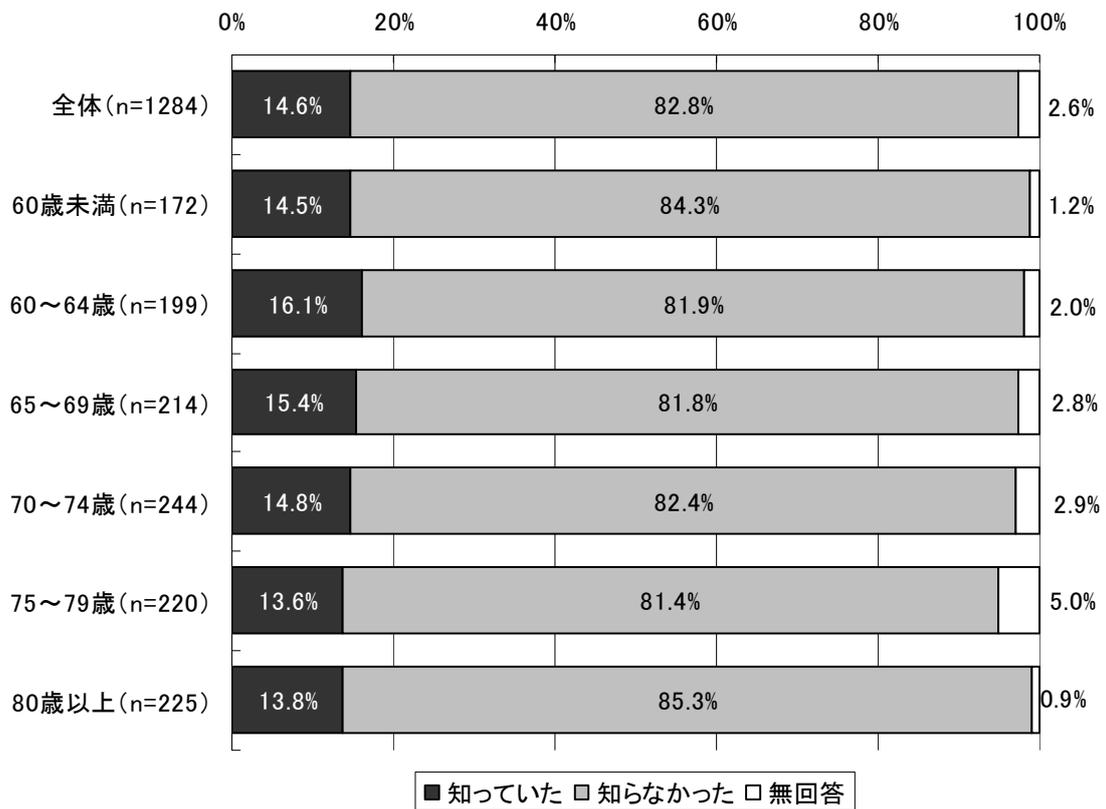
図表 83 歯科技工加算の認知度（男女別）



(注)「全体」には、「性別」について無回答の11人が含まれる。

歯科技工加算の認知度を年齢階級別にみると、「知っていた」という回答割合は「60～64歳」で16.1%と他の年齢階級よりもやや高かったが、すべての年齢階級で10%台半ばの数値となった。

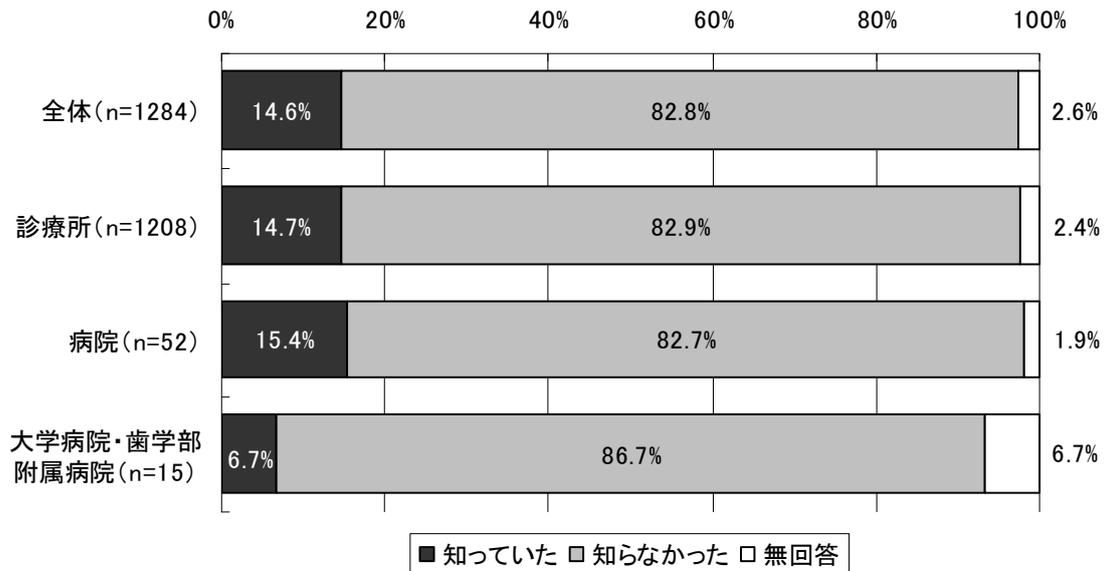
図表 84 歯科技工加算の認知度（年齢階級別）



(注) 「全体」には、「年齢」について無回答の10人が含まれる。

歯科技工加算の認知度を受診した施設別にみると、診療所では「知っていた」が14.7%、「知らなかった」が82.9%であった。病院では「知っていた」が15.4%、「知らなかった」が82.7%であった。大学病院・歯学部附属病院では「知っていた」が6.7%、「知らなかった」が86.7%であった。

図表 85 歯科技工加算の認知度（受診した施設別）

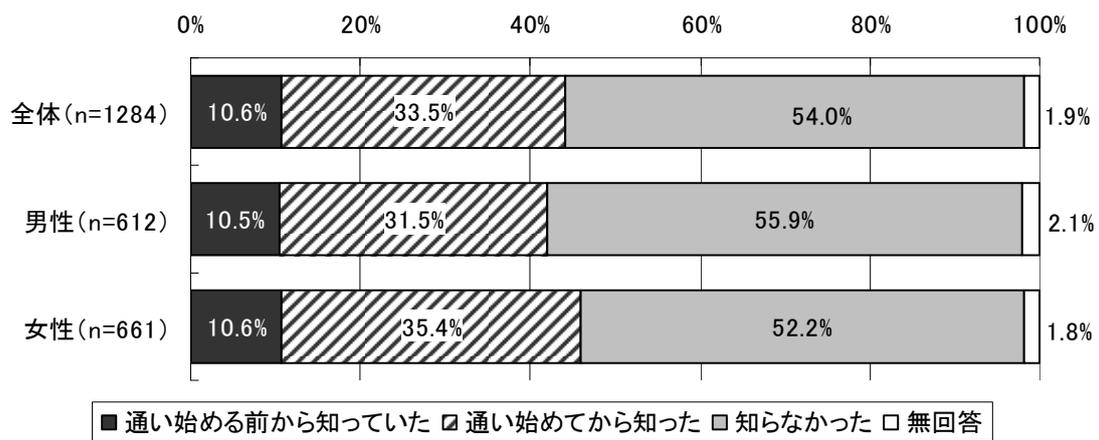


(注) 「全体」には、「受診した施設」について無回答の9人が含まれる。

### 5) 歯科技工加算の施設基準を満たしていることの事前認知の有無

歯科技工加算の施設基準を満たしていることの事前認知の有無をみると、男性では「通い始める前から知っていた」が10.5%、「通い始めてから知った」が31.5%、「知らなかった」が55.9%であった。女性では「通い始める前から知っていた」が10.6%、「通い始めてから知った」が35.4%、「知らなかった」が52.2%であった。

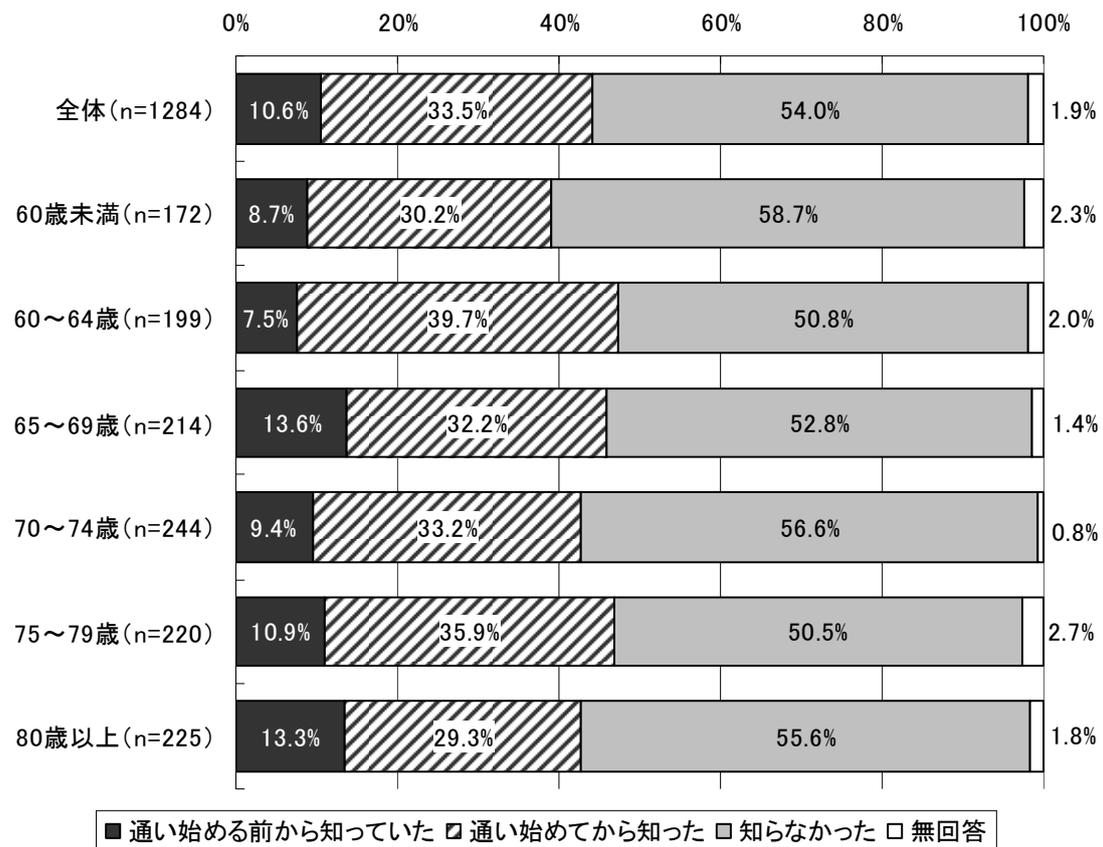
図表 86 歯科技工加算の施設基準を満たしていることの事前認知の有無（男女別）



(注) 「全体」には、「性別」について無回答の11人が含まれる。

歯科技工加算の施設基準を満たしていることの事前認知の有無を年齢階級別にみると、「65～69歳」「80歳以上」で「通い始める前から知っていた」の回答が全体と比べ高い結果となった。一方、「60歳未満」では「知らなかった」が58.7%と全体と比べ高い結果となった。

図表 87 歯科技工加算の施設基準を満たしていることの事前認知の有無（年齢階級別）

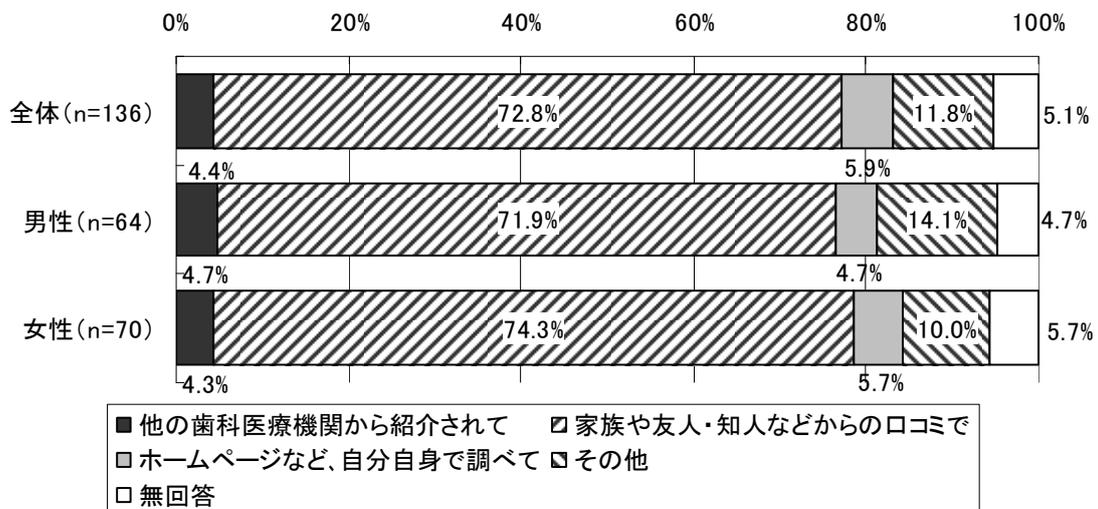


(注)「全体」には、「年齢」について無回答の10人が含まれる。

### 6) 歯科技工加算の施設基準を満たしていることの事前認知方法

歯科技工加算の施設基準を満たしていることの事前認知方法をみると、男性では「他の歯科医療機関から紹介されて」が4.7%、「家族や友人・知人などから口コミで」が71.9%、「ホームページなど、自分自身で調べて」が4.7%であった。女性では「他の歯科医療機関から紹介されて」が4.3%、「家族や友人・知人などから口コミで」が74.3%、「ホームページなど、自分自身で調べて」が5.7%であった。

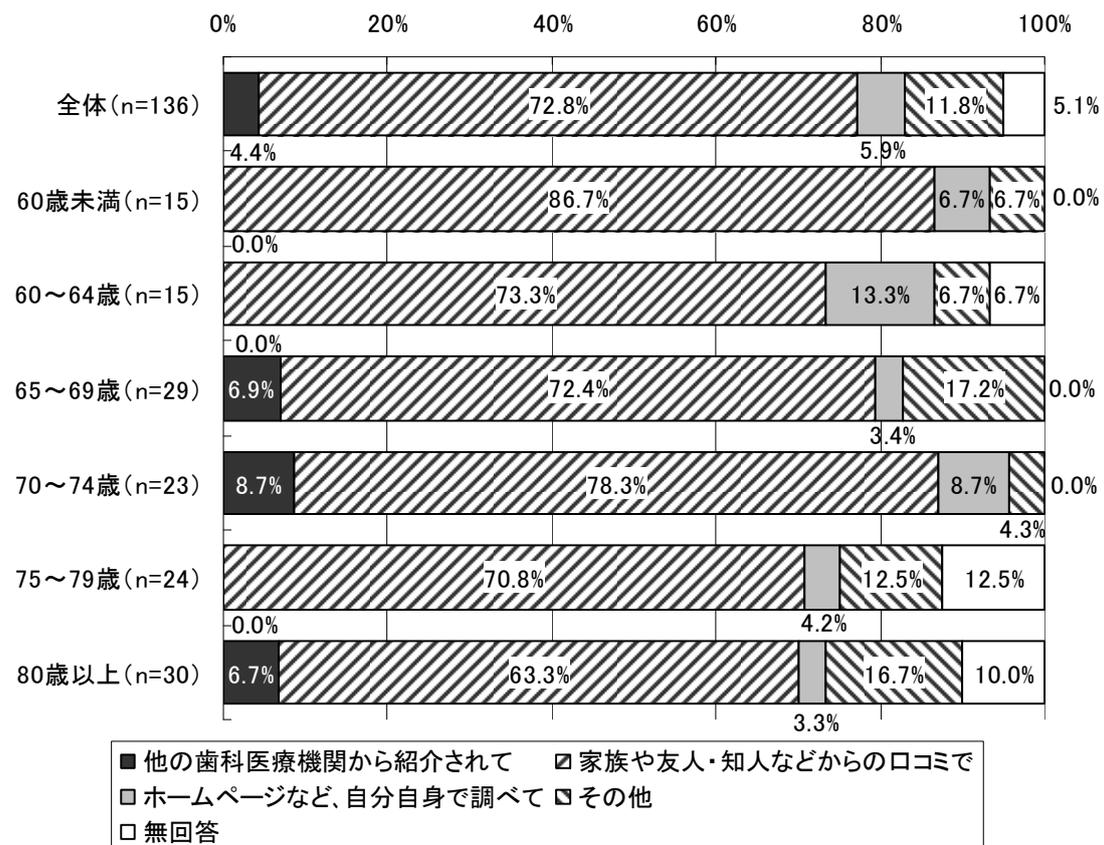
図表 88 歯科技工加算の施設基準を満たしていることの事前認知方法（男女別）



(注)「全体」には、「性別」について無回答の2人が含まれる。

歯科技工加算の施設基準を満たしていることの事前認知方法を年齢階級別にみると、「65～69歳」「70～74歳」「80歳以上」で「他の歯科医療機関から紹介されて」と回答した割合が全体に比べ高くなっている。また、「60歳未満」「70～74歳」では「家族や友人・知人からの口コミで」の回答が、「60歳未満」「60～64歳」「70～74歳」では、「ホームページなど、自分自身で調べて」の回答が全体に比べ高くなっている。

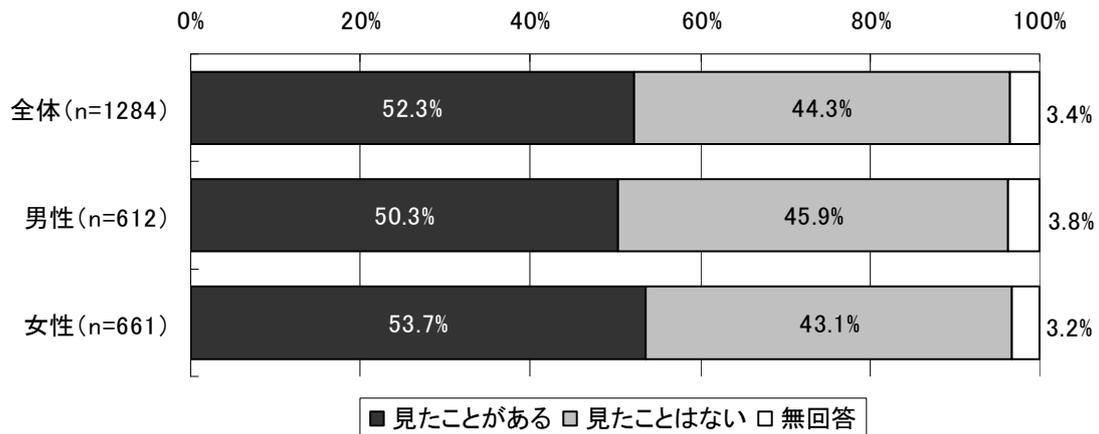
図表 89 歯科技工加算の施設基準を満たしていることの事前認知方法（年齢階級別）



## 7) ポスターの認知度

ポスターの認知度をみると、男性では、「見たことがある」が50.3%、「見たことはない」が45.9%であった。女性では、「見たことがある」が53.7%、「見たことはない」が43.1%であった。男女による大きな差異はみられなかった。

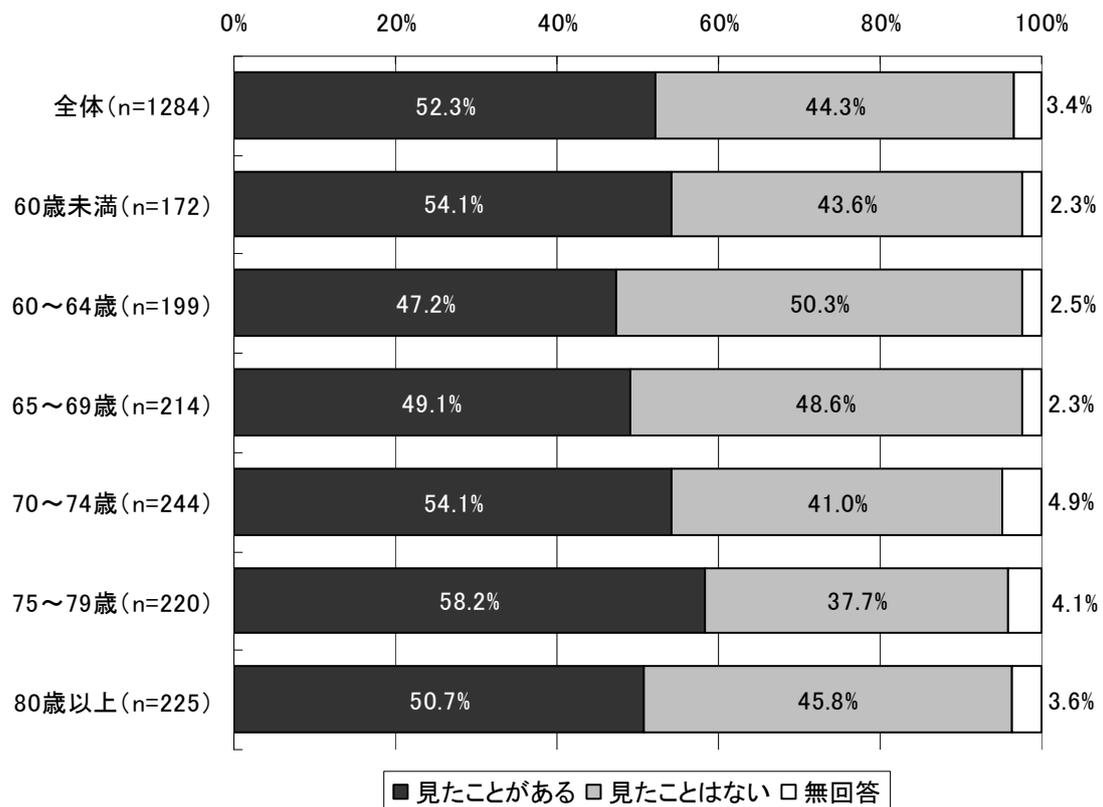
図表 90 ポスターの認知度（男女別）



(注)「全体」には、「性別」について無回答の11人が含まれる。

ポスターの認知度を年齢階級別にみると、「60～64歳」「65～69歳」で若干下がるものの「見たことがある」が5割を超える結果となった。特に「75～79歳」では「見たことがある」が58.2%と全体と比較して高い結果となった。

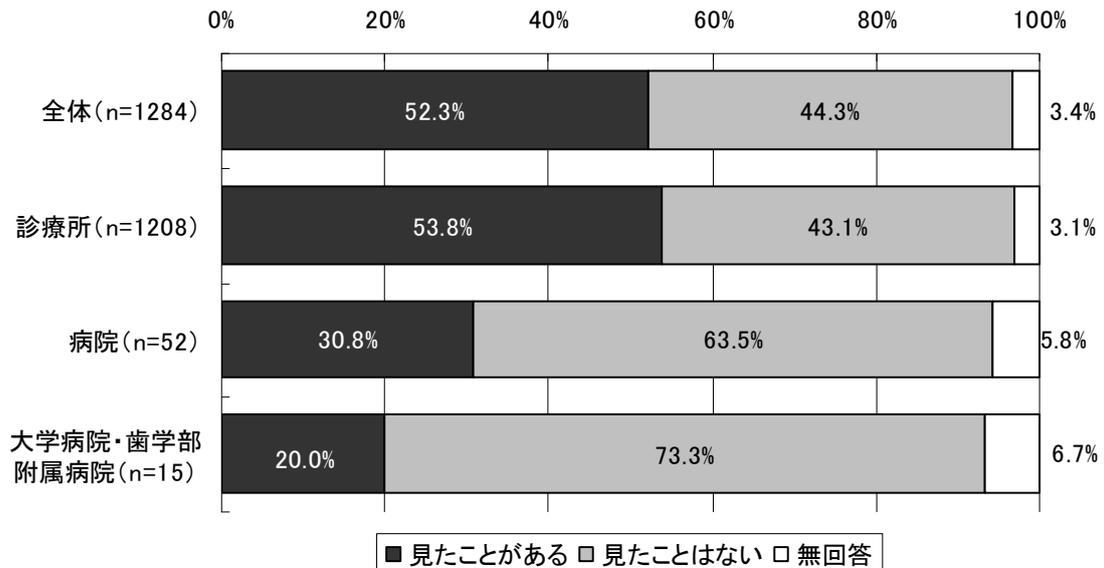
図表 91 ポスターの認知度（年齢階級別）



(注)「全体」には、「年齢」について無回答の10人が含まれる。

ポスターの認知度を受診した施設別にみると、診療所では「見たことがある」が 53.8%、「見たことはない」が 43.1%であった。病院では「見たことがある」が 30.8%、「見たことはない」が 63.5%であった。大学病院・歯学部附属病院では「見たことがある」が 20.0%、「見たことはない」が 73.3%であった。

図表 92 ポスターの認知度（受診した施設別）

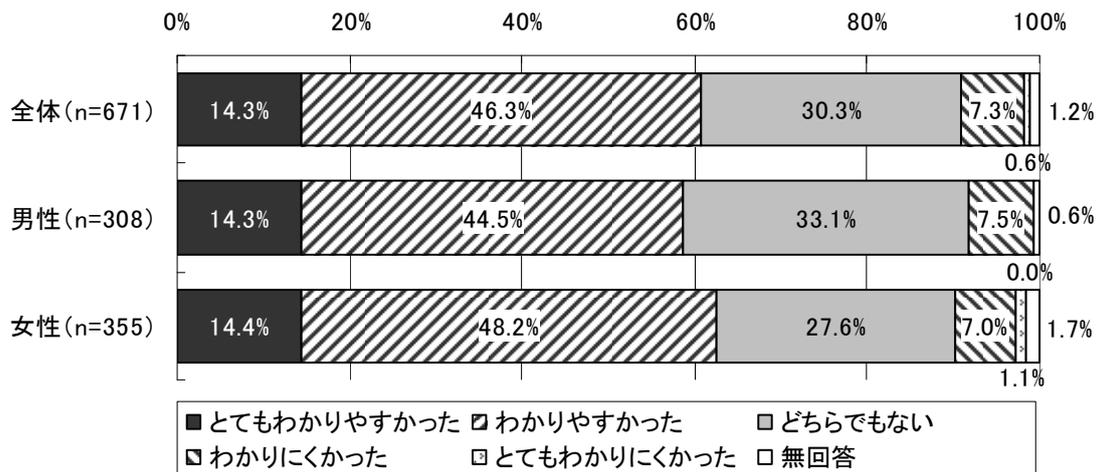


(注) 「全体」には、「受診した施設」について無回答の9人が含まれる。

## 8) ポスターのわかりやすさ

ポスターのわかりやすさをみると、男性では、「わかりやすかった（「とてもわかりやすかった」と「わかりやすかった」の合計。以下同様）」が 58.8%であった。女性では、「わかりやすかった」が 62.6%であった。

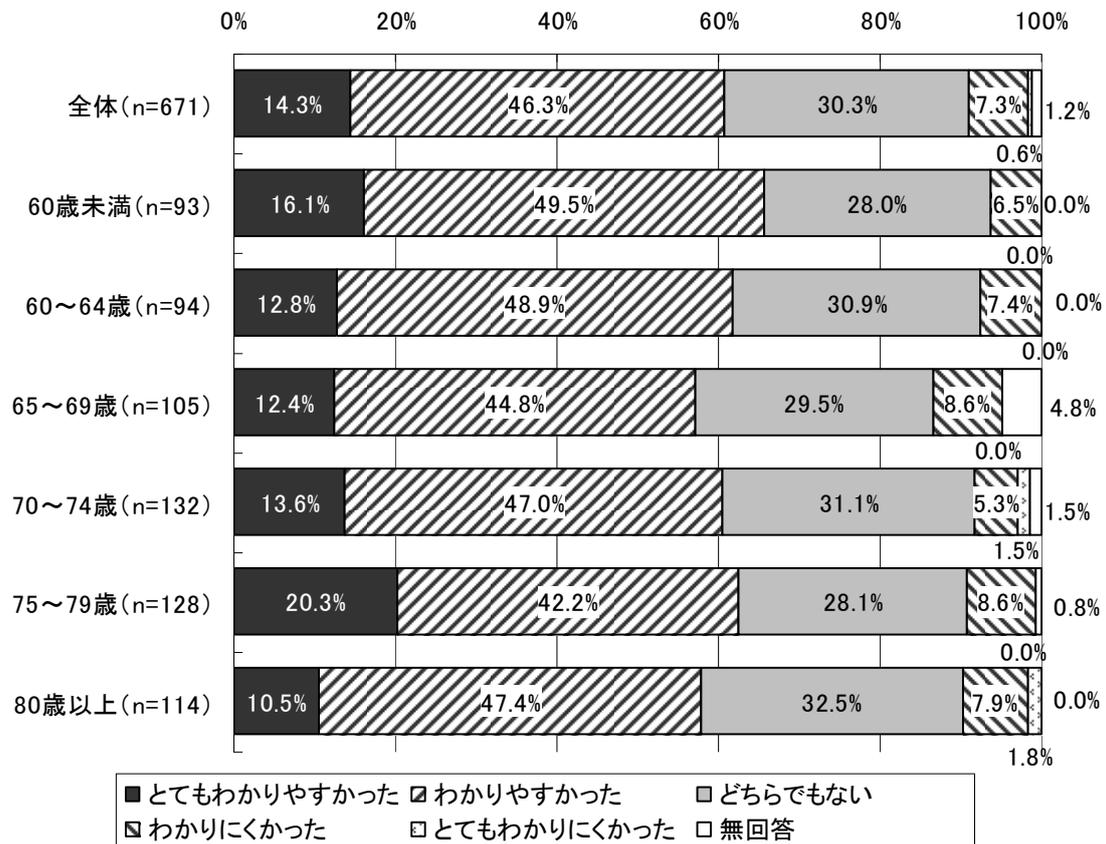
図表 93 ポスターのわかりやすさ（男女別）



(注)「全体」には、「性別」について無回答の 8 人が含まれる。

ポスターのわかりやすさを年齢階級別にみると、「65～69歳」「80歳以上」を除くいずれの年齢階級においても「わかりやすかった」が6割を超える結果となった。

図表 94 ポスターのわかりやすさ（年齢階級別）

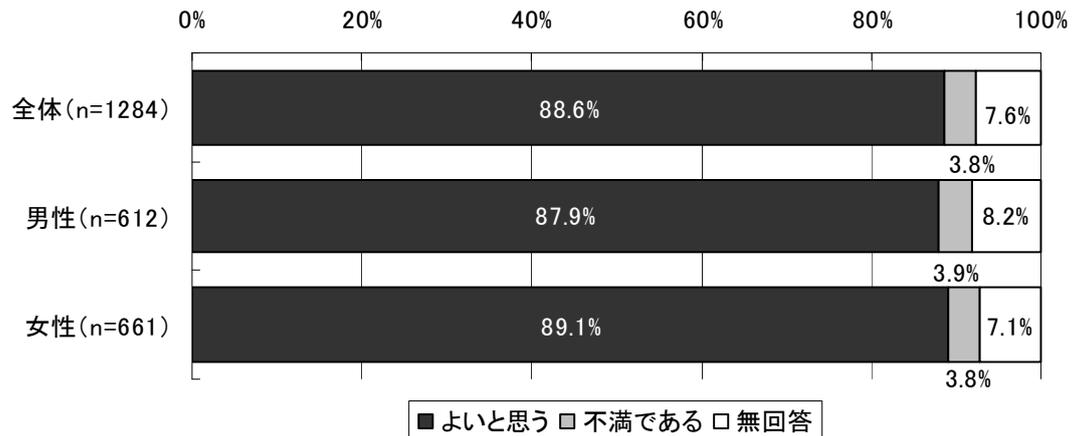


(注) 「全体」には、「年齢」について無回答の5人が含まれる。

### 9) 歯科技工加算をポスターで知らせることについて

歯科技工加算をポスターで知らせることについてみると、男性では、「よいと思う」が87.9%、「不満である」が3.9%であった。女性では、「よいと思う」が89.1%、「不満である」が3.8%であった。男女による大きな差異はみられなかった。

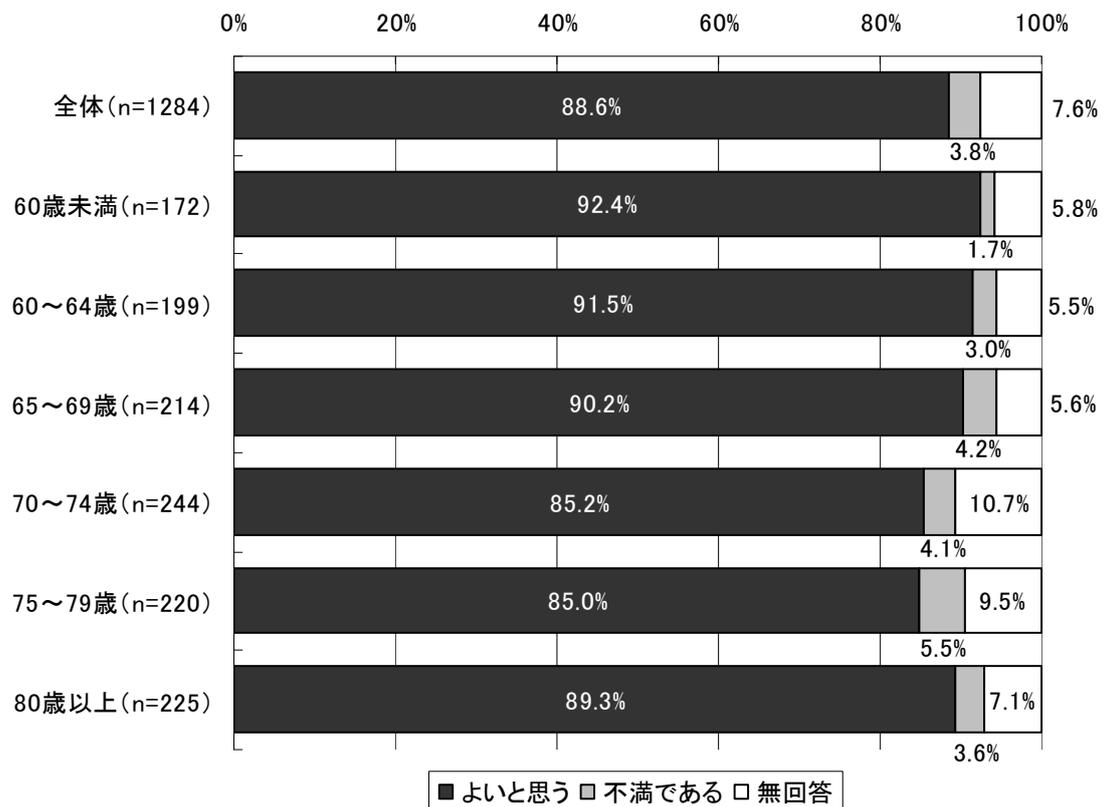
図表 95 歯科技工加算をポスターで知らせることについて（男女別）



(注)「全体」には、「性別」について無回答の11人が含まれる。

歯科技工加算をポスターで知らせることについて年齢階級別にみると、「60歳未満」「60～64歳」「65～69歳」では9割以上が、「70～74歳」「75～79歳」「80歳以上」では8割以上が「よいと思う」と回答している結果となった。

図表 96 歯科技工加算をポスターで知らせることについて（年齢階級別）

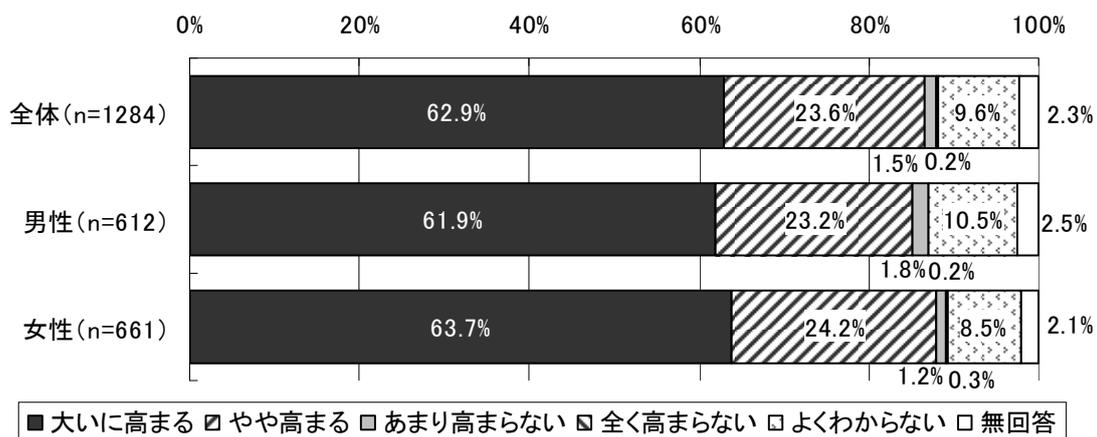


(注) 「全体」には、「年齢」について無回答の10人が含まれる。

### 10) 歯科技工室があることへの安心感

歯科技工室があることへの安心感をみると、男性では、「高まる（「大いに高まる」と「やや高まる」の合計。以下同様）」が 85.1%であった。女性では、「高まる」が 87.9%であった。

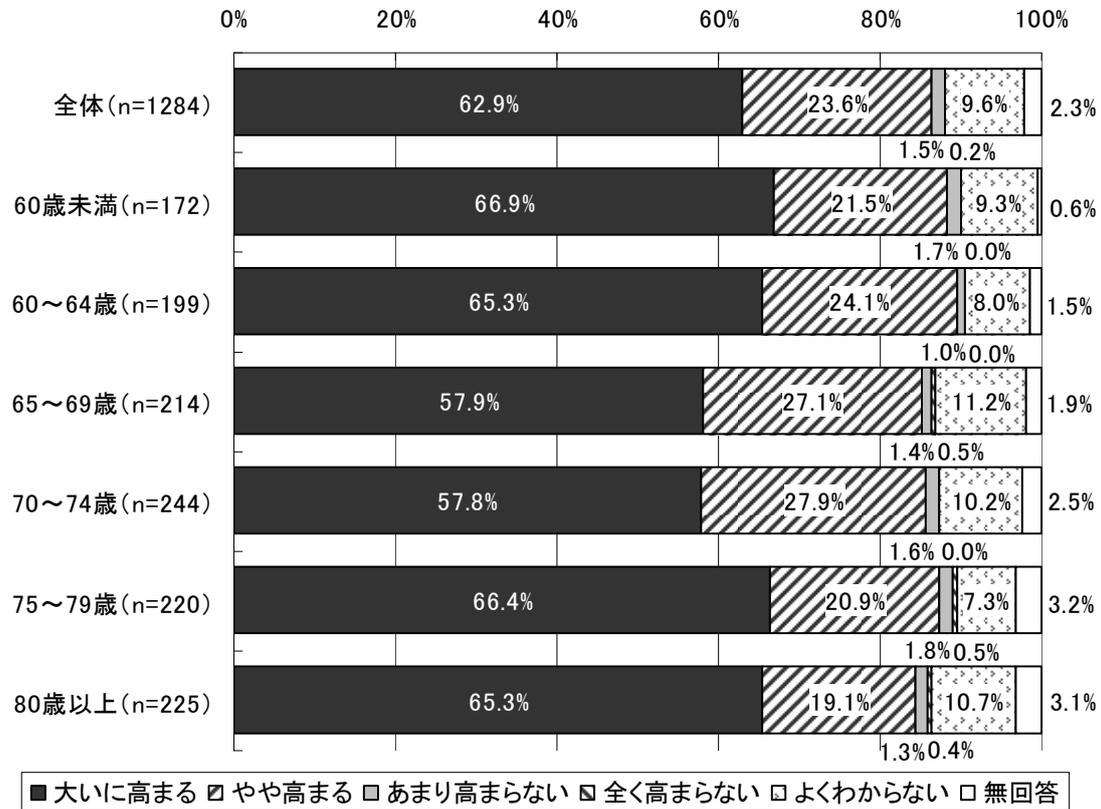
図表 97 歯科技工室があることへの安心感（男女別）



(注) 「全体」には、「性別」について無回答の 11 人が含まれる。

歯科技工室があることへの安心感を年齢階級別にみると、いずれの年齢階級においても8割以上が「高まる」と回答している結果となった。

図表 98 歯科技工室があることへの安心感（年齢階級別）

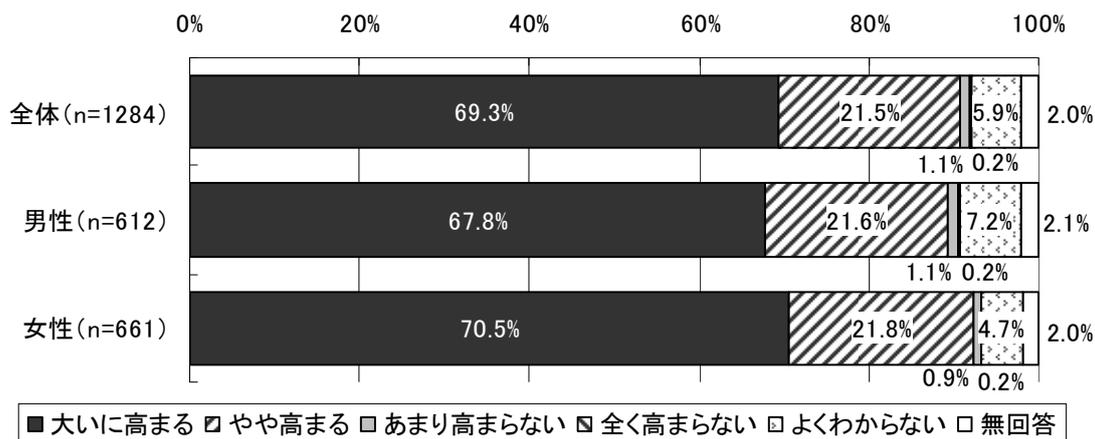


(注)「全体」には、「年齢」について無回答の10人が含まれる。

### 11) 常勤の歯科技工士がいることへの安心感

常勤の歯科技工士がいることへの安心感をみると、男性では「高まる（「大いに高まる」と「やや高まる」の合計。以下同様）」が 89.4%であった。女性では、「高まる」が 92.3%であった。

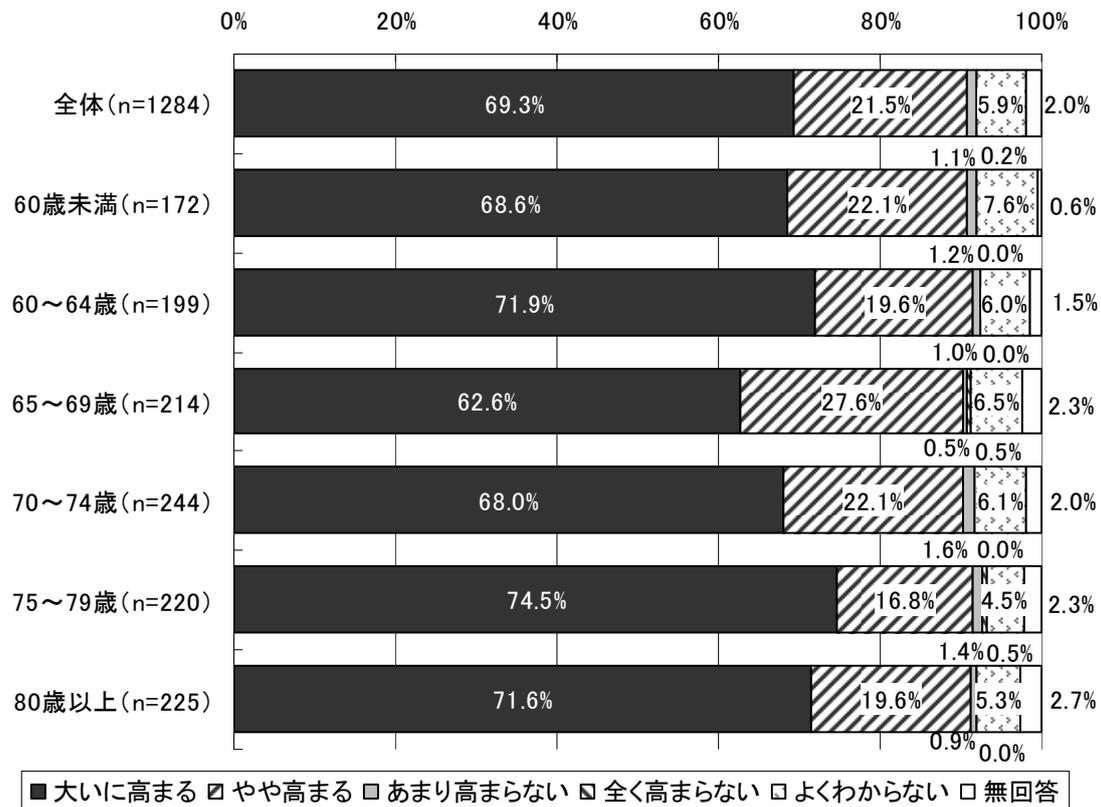
図表 99 常勤の歯科技工士がいることへの安心感（男女別）



(注) 「全体」には、「性別」について無回答の 11 人が含まれる。

常勤歯科技工士がいることへの安心感を年齢階級別にみると、いずれの年齢階級をみても「高まる」が9割を超える結果となった。

図表 100 常勤の歯科技工士がいることへの安心感（年齢階級別）



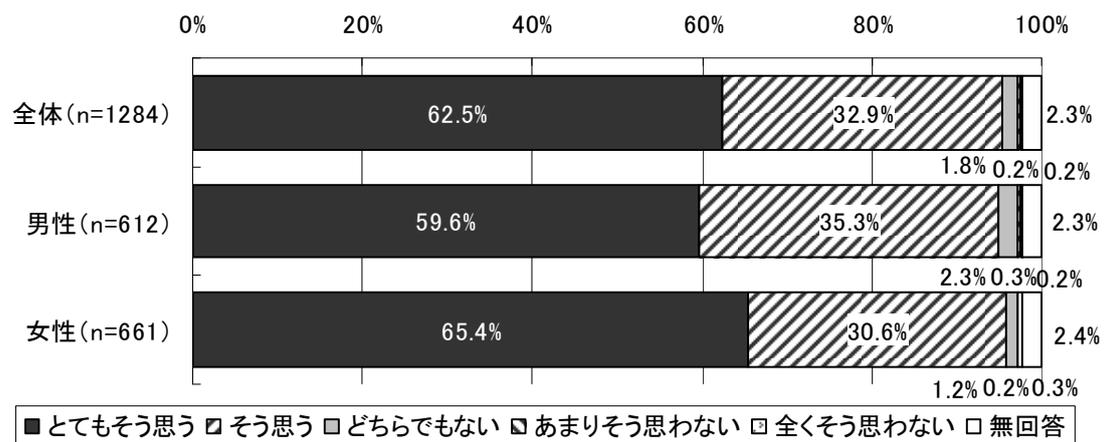
(注) 「全体」には、「年齢」について無回答の10人が含まれる。

⑤入れ歯治療に対する今後の意識等

1) 入れ歯修理がすぐできる体制が整えられた歯科医療機関の利用の希望

入れ歯修理がすぐできる体制が整えられた歯科医療機関の利用希望をみると、男性では「そう思う（「とてもそう思う」と「そう思う」の合計。以下同様）」が94.9%であった。女性では「そう思う」が96.0%であった。

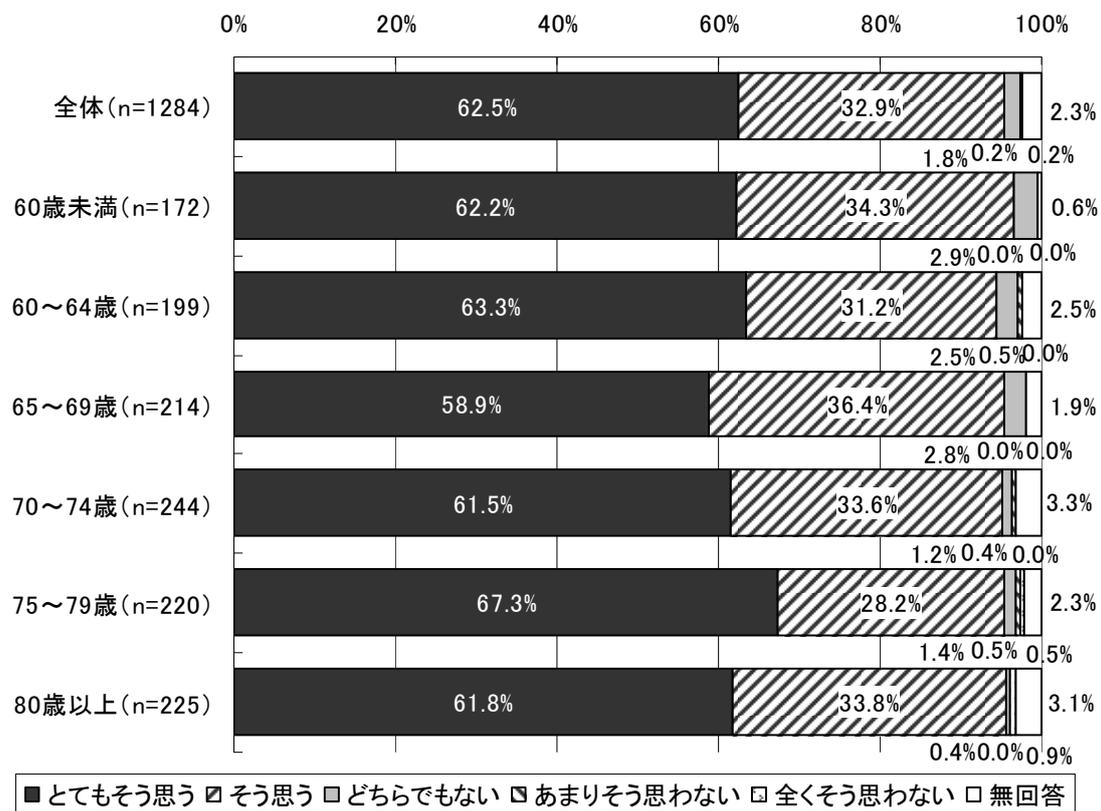
図表 101 入れ歯修理がすぐできる体制が整えられた歯科医療機関の利用の希望（男女別）



(注) 「全体」には、「性別」について無回答の11人が含まれる。

入れ歯修理がすぐできる体制が整えられた歯科医療機関の利用の希望を年齢階級別にみると、いずれの年齢階級でも「そう思う」が9割以上となった。

図表 102 入れ歯修理がすぐできる体制が整えられた歯科医療機関の利用の希望  
(年齢階級別)

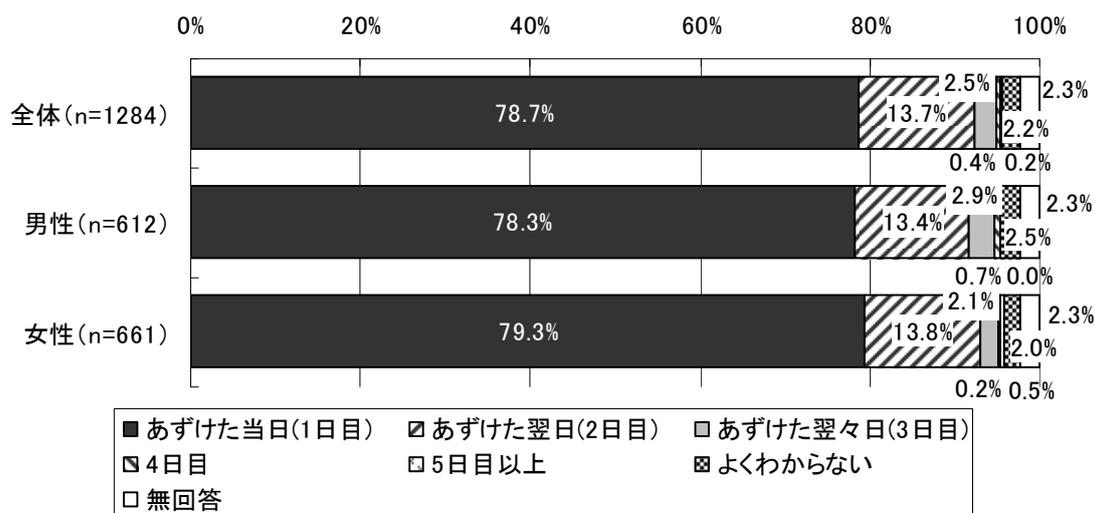


(注) 「全体」には、「年齢」について無回答の10人が含まれる。

## 2) 理想とする入れ歯修理期間

理想とする入れ歯修理期間をみると、男性では、「あずけた当日（1日目）」が78.3%、「あずけた翌日（2日目）」が13.4%となった。女性では、「あずけた当日（1日目）」が79.3%、「あずけた翌日（2日目）」が13.8%となった。男女とも「あずけた当日（1日目）」と「あずけた翌日（2日目）」の回答の合計が9割以上を占める結果となった。

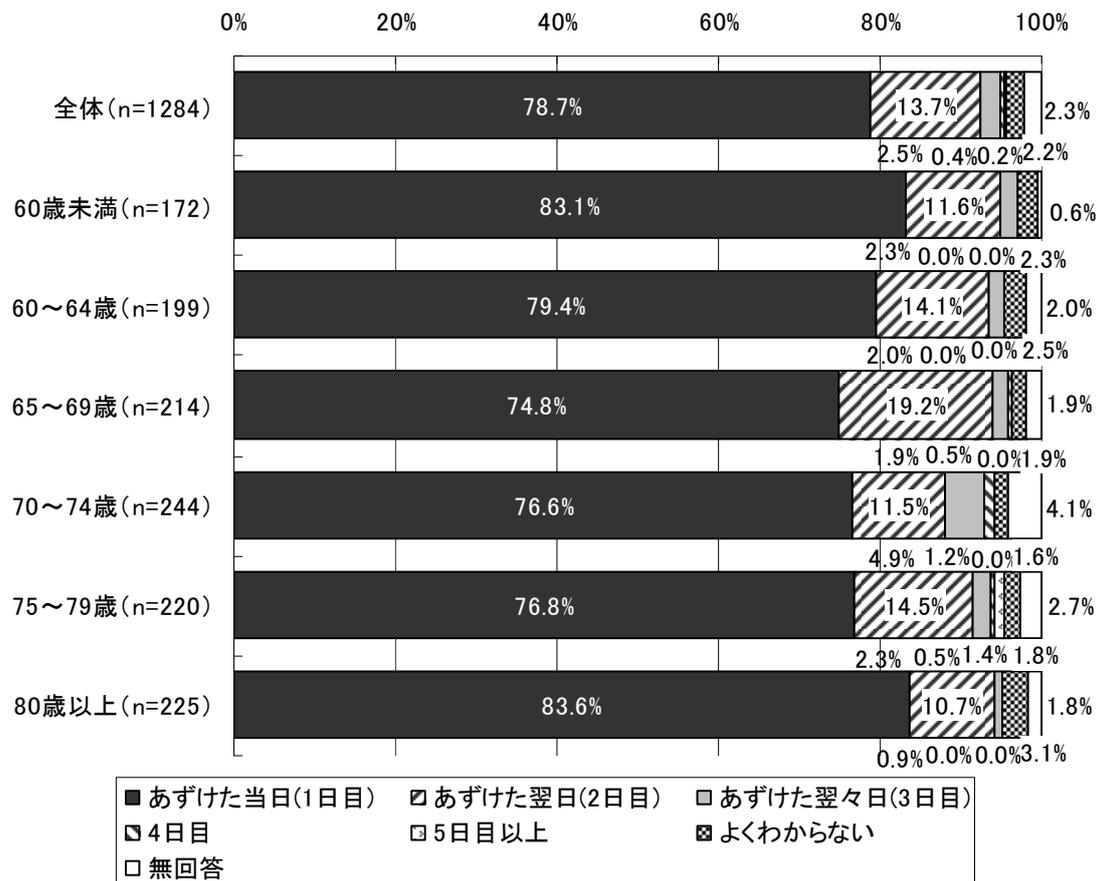
図表 103 理想とする入れ歯修理期間（男女別）



(注)「全体」には、「性別」について無回答の11人が含まれる。

理想とする入れ歯修理期間を年齢階級別に見ると、「70～74 歳」を除き、「あずけた当日（1 日目）」と「あずけた翌日（2 日目）」の回答の合計が 9 割以上を占める結果となった。

図表 104 理想とする入れ歯修理期間（年齢階級別）

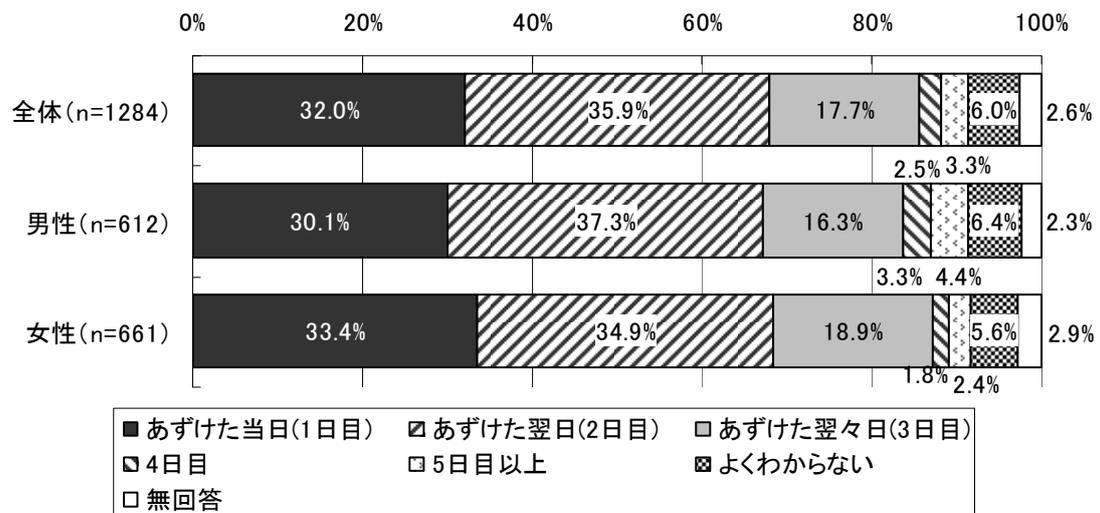


(注)「全体」には、「年齢」について無回答の 10 人が含まれる。

### 3) 日常生活に強い支障が出ないと思われる修理期間

日常生活に強い支障が出ないと思われる修理期間についてみると、男性では「あずけた当日（1日目）」が30.1%、「あずけた翌日（2日目）」が37.3%であった。女性では「あずけた当日（1日目）」が33.4%、「あずけた翌日（2日目）」が34.9%であった。男女とも「あずけた当日（1日目）」と「あずけた翌日（2日目）」の回答の合計が約7割を占める結果となった。

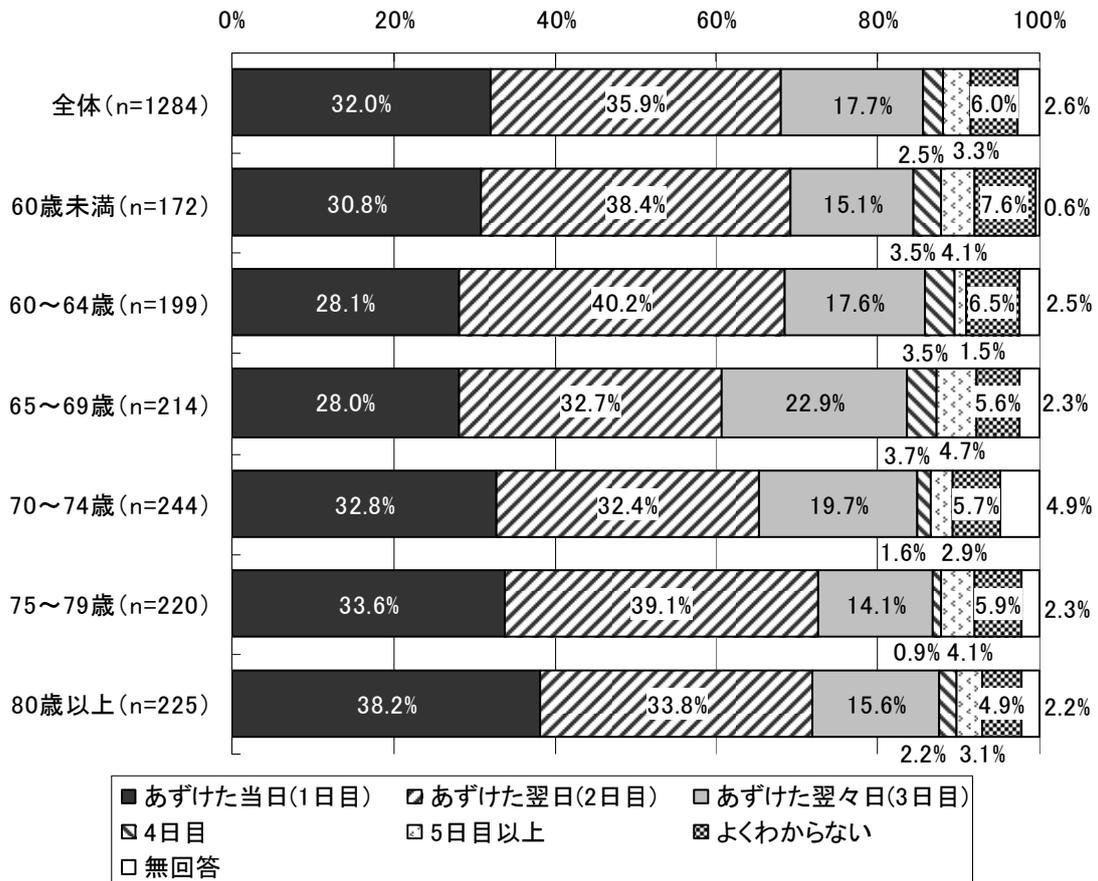
図表 105 日常生活に強い支障が出ないと思われる修理期間（男女別）



(注)「全体」には、「性別」について無回答の11人が含まれる。

日常生活に強い支障が出ないと思われる修理期間を年齢階級別にみると、いずれの年齢階級をみても、「あずけた当日（1日目）」と「あずけた翌日（2日目）」で6割以上を占める結果となった。

図表 106 日常生活に強い支障が出ないと思われる修理期間（年齢階級別）



(注) 「全体」には、「年齢」について無回答の10人が含まれる。

## ⑥入れ歯の修理についての意見（自由記述形式）

ここでは自由記述形式により、患者票に記載していただいた入れ歯修理についての意見の内容のとりまとめを行った。

### 1) 歯科技工加算が有ることの効果

- ・ 入れ歯が不具合の時、歯科医院に出向き、少し待ち時間はかかっても、当日にでき上がるならば、それが一番である。またそうある歯科医院を選択したい。
- ・ 当日に修理してもらえるのであれば多少の負担はしかたがない。
- ・ 当日修理してもらうのが当たり前であり、ポスターなど細かい説明は必要ない。
- ・ 技工士さんがいるので、待っている間にできるので助かる。少し高くなっても良い。

／等

### 2) 当日に修理できることの満足度

- ・ 以前からかかりつけ医院で歯科技工士が常にいるため、当日中に必ず修理ができていた。これが普通だと思っており、支障は全くない。
- ・ 老人にとって入れ歯は生活必需品なので修理が早ければ大変助かる。
- ・ 入れ歯の修理が長引くと食事の時に、食べにくいということもあるが、人と会っておしゃべりするのがもつつらいと思うため、できるだけ早く仕上げてくれることを心から願っている。
- ・ 当日に修理ができ、不自由な思いをした事がないため大変満足している。

／等

### 3) 院内技工士・院内技工室の満足度

- ・ 専用の部署があり常勤の歯科技工士を備えた医療機関が望ましい。安心できる。
- ・ 歯科医療機関内で入れ歯の修理、調整をしていただいた方が、その場で説明が受けられて、とても安心感がある。
- ・ 歯科医院に行って入れ歯の修理を専門の人（歯科技工士）に会ってお願いできるため、こわれた入れ歯を安心してあずけられる。とてもいいことだと思う。なぜ歯科医院には専用の技工士がいないのか。どんな人が修理してくれるのか心配だが、会うと安心感が違う。やはり歯科医院には専用の人がいるべきだと思う。
- ・ 今回入れ歯を修理していただいて、常勤の歯科技工士のいるクリニックの有難さがよくわかった。これから歯科医院を選ぶ時に判断基準にしたい。

／等

### 4) その他

- ・ 負担金をやすく、お金のかからないように。
- ・ 修理前にどれくらいで終了するか教えてほしい。
- ・ 修理日数より合う入れ歯になるように修理してもらった方がよい。

- 修理についてどこまで、保険適用可能なのか、よりの確な治療と、保険適用との差が、今現在見えてこない。

／等

## 6. まとめ

本調査により明らかになった点は、以下の通りである。

### (1) 施設調査

- ・ 施設の種別は、「診療所」が96.1%（1,210施設）、「病院」が3.1%（39施設）、「大学病院・歯学部附属病院」が0.8%（10施設）であった（図表2）。
- ・ 開設主体は、診療所では、「個人」（73.6%）が最も多く、次いで「医療法人」（24.5%）であった。病院では、「公的医療機関」（51.3%）が最も多く、次いで「医療法人」（33.3%）、「その他」（7.7%）であった。大学病院・歯学部附属病院では、「学校法人」（40.0%）が最も多く、次いで「国立」（30.0%）であった（図表3）。
- ・ 開設時期は、診療所では、「1980年～1984年」（20.0%）が最も多く、次いで「1970年代」（18.5%）、「1985年～1989年」（15.0%）であった。病院では、「1960年代以前」（41.0%）が最も多く、次いで「2005年以降」（17.9%）であった。大学病院・歯学部附属病院では「1960年代以前」（30.0%）が最も多く、次いで「1970年代」「2005年以降」（それぞれ20.0%）であった（図表4）。
- ・ 標榜診療科は、診療所では、「歯科」が98.9%、「矯正歯科」が29.6%、「小児歯科」が45.5%、「歯科口腔外科」が22.1%であった。病院では、「歯科」が59.0%、「矯正歯科」が7.7%、「小児歯科」が12.8%、「歯科口腔外科」が66.7%であった。大学病院・歯学部附属病院では「歯科」が60.0%、「矯正歯科」が70.0%、「小児歯科」が60.0%、「歯科口腔外科」が100.0%であった（図表5）。
- ・ 1施設あたりの歯科ユニット台数は、診療所が4.3台、病院が5.1台、大学病院・歯学部附属病院が97.8台となった（図表6）。
- ・ 平成22年10月における1施設あたりの常勤職員数（実人数）の平均は、診療所の「歯科医師」は1.5人、「歯科技工士」は1.2人、「歯科衛生士」は1.9人であった。病院の「歯科医師」は2.6人、「歯科技工士」は1.3人、「歯科衛生士」は2.9人であった。大学病院・歯学部附属病院の「歯科医師」は107.5人、「歯科技工士」は6.2人、「歯科衛生士」は16.1人であった（図表8）。
- ・ 平成22年10月における1施設あたりの非常勤職員数（実人数）の平均は、診療所の「歯科医師」は0.5人、「歯科技工士」は0.1人、「歯科衛生士」は0.8人であった。病院の「歯科医師」は0.9人、「歯科技工士」は0.0人、「歯科衛生士」は0.7人であった。大学病院・歯学部附属病院の「歯科医師」は38.4人、「歯科技工士」は0.3人、「歯科衛生士」は2.2人であった（図表9）。
- ・ 「歯科技工加算」の施設基準届出受理時期は、診療所では「4月」（87.4%）と最も多く、次いで「5月」（4.9%）となった。病院では「4月」（94.9%）が最も多く、次いで「5月」（5.1%）となった。大学病院・歯学部附属病院では、「4月」（10施設、100.0%）であった（図表10）。
- ・ 常勤歯科技工士の配置時期は、診療所では、「2009年12月以前」が97.5%、「2010年以降」が1.4%であった。病院では、「2009年12月以前」が94.9%、「2010年以降」が2.6%

であった。大学病院・歯学部附属病院では、回答があったすべての施設が「2009年12月以前」が100.0%であった（図表11）。

- ・ 2010年以降の常勤歯科技工士配置月は、診療所では、「2月」が1施設、「4月」が10施設、「6月」が4施設、「11月」が1施設であった。病院では、回答のあった1施設は「4月」であった（図表12）。
- ・ 常勤歯科技工士の増員の有無は、診療所では、「増員していない」が94.0%、「増員した」が0.7%であった。病院では「増員していない」が97.4%、「増員した」が2.6%であった。大学病院・歯学部附属病院では全て「増員していない」（10施設、100.0%）であった（図表13）。
- ・ 非常勤歯科技工士の増員の有無は、診療所では、「増員していない」が98.9%、「増員した」が0.2%であった。病院、大学病院・歯学部附属病院では、全て「増員していない」（10施設、100.0%）であった（図表15）。
- ・ 歯科技工室及び機器の整備時期は、診療所では、「1980年～1984年」（19.1%）が最も多く、次いで「1970年代」（17.0%）、「1985年～1989年」（14.3%）であった。病院では、「1960年代以前」（23.1%）が最も多く、次いで「2005年以降」（17.9%）、「1980年～1984年」「1990年～1994年」（それぞれ12.8%）であった。大学病院・歯学部附属病院では「1970年代」「1995年～1999年」（それぞれ20.0%）が最も多くなっている（図表17）。
- ・ 患者への周知方法は、診療所では、「診察室や待合室、支払い窓口などの施設内にポスターを貼っている」が82.8%、「リーフレット等を来院患者に配布している」が1.7%、「歯科医師が直接説明している」が51.8%であった。病院では、「診察室や待合室、支払い窓口などの施設内にポスターを貼っている」が74.4%、「歯科医師が直接説明している」が48.7%であった。大学病院・歯学部附属病院では、「診察室や待合室、支払い窓口などの施設内にポスターを貼っている」が90.0%、「歯科医師が直接説明している」が40.0%であった（図表18）。
- ・ 院内掲示の内容は診療所では、「施設内に常勤の歯科技工士を配置していること」が81.2%で最も多く、次いで「有床義歯を迅速に修理する体制を整備していること」（68.8%）、「施設内に歯科技工室があること」（56.3%）、「『歯科技工加算』の施設基準を満たしている施設であること」（51.8%）の順となった。病院では「施設内に常勤の歯科技工士を配置していること」（82.1%）が最も多く、次いで「有床義歯を迅速に修理する体制を整備していること」（76.9%）、「『歯科技工加算』の施設基準を満たしている施設であること」（48.7%）、「施設内に歯科技工室があること」（41.0%）の順となった。大学病院・歯学部附属病院は、「有床義歯を迅速に修理する体制を整備していること」が100.0%と最も多く、次いで「施設内に常勤の歯科技工士を配置していること」（70.0%）、「『歯科技工加算』の施設基準を満たしている施設であること」（60.0%）、「施設内に歯科技工室があること」（50.0%）の順であった（図表19）。
- ・ 患者への周知方法としての院内掲示の効果は、診療所では「効果的である」が23.6%、「効果的でない」が28.3%であった。病院では、「効果的である」が38.5%、「効果的でない」が15.4%であった。大学病院・歯学部附属病院では、「効果的である」が70.0%、

「効果的でない」が10.0%となった（図表20）。

- ・ 4月から9月の歯科技工加算算定率の推移をみると、2.4%から2.6%と0.2ポイントの増加であった。施設別にみると、診療所では、0.2ポイント（3.0%から3.2%）の増加、病院では、0.3ポイント（1.1%から1.4%）の増加、大学病院・歯学部附属病院では0.1%（0.3%から0.2%）の減少であった（図表21、図表22）。
- ・ 有床義歯の修理延べ床数の変化は、診療所、病院、大学病院・歯学部附属病院のいずれも「今までと変わらない」（それぞれ、94.9%、82.1%、80.0%）がほとんどを占める結果となった（図表23）。
- ・ 歯科技工加算を算定できない場合の有無は診療所では「ない」が58.0%、「ある」が36.6%であった。病院では「ない」が48.7%、「ある」が51.3%であった。大学病院・歯学部附属病院では「ない」が60.0%、「ない」が40.0%であった（図表24）。
- ・ 歯科技工加算を算定できない場合があると回答した施設に歯科技工加算を算定できない理由を尋ねたところ、診療所では、「休診日をはさんでいたため」(54.2%)が最も多く、次いで「患者が予約日に来院しなかったため」(40.4%)、「その他」(35.4%)の順となった。病院では「患者が予約日に来院しなかったため」(40.0%)、「患者が急いでいなかったため」(35.0%)となった。大学病院・歯学部附属病院では「その他」(50.0%)が最も多く、次いで「患者が急いでいなかったため」「患者が予約日に来院しなかったため」(それぞれ、25.0%)であった（図表25）。
- ・ 有床義歯の修理の際における施設外歯科技工所活用の有無は、診療所では「ない」が71.7%、「ある」が25.1%であった。病院では「ない」が69.2%、「ある」が30.8%であった。大学病院・歯学部附属病院では「ない」が60.0%、「ない」が40.0%であった（図表26）。
- ・ 有床義歯の修理の際における施設外歯科技工所活用があると回答した施設に施設外歯科技工所を活用するケースを尋ねたところ、診療所では、「施設内の歯科技工室では対応できない特殊な技法が必要なとき」(82.9%)が最も多く、次いで「保険適用外するとき」(39.5%)、「施設内で修理できる有床義歯数の個数を超えたとき」(18.1%)の順となった。病院では、「施設内の歯科技工室では対応できない特殊な技法が必要なとき」(75.0%)と最も多く、次いで「保険適用外するとき」「歯科技工加算を算定できないとき」(それぞれ16.7%)となった。大学病院・歯学部附属病院では「施設内の歯科技工室では対応できない特殊な技法が必要なとき」(100.0%)と最も多く、次いで「保険適用外の時」(25.0%)の順であった（図表27）。
- ・ 修理期間別に有床義歯の修理状況について、少数歯欠損でみると、施設内では「当日（1日）」(88.9%)、施設外では「6日以上」(67.1%)が最も多くなっている。多数歯欠損をみると、施設内では「当日（1日）」(90.0%)、施設外では「6日以上」(46.1%)が最も多くなっている。最後に、総義歯をみると、施設内では「当日（1日）」(94.6%)、施設外では「2日」(40.5%)が最も多くなっている（図表30、図表31、図表32）。
- ・ 施設内歯科技工士の活用による効果は、診療所では、「有床義歯等の修理に対する患者の安心感が増したように感じる」が59.1%であった以外、全ての選択肢において「あて

はまる」と回答した施設が7割を超える結果となった。病院では、診療所と同様に、「有床義歯等の修理に対する患者の安心感が増したように感じる」が61.6%であった以外、全ての項目において「あてはまる」と回答した施設が7割を超える結果となった。大学病院・歯学部附属病院では、「困難な有床義歯の修理にも対応できるようになる」が60.0%、「有床義歯等の修理に対する患者の安心感が増したように感じる」が40.0%であった以外、全ての項目において8割を超える結果となった（図表45）。

## （2）患者調査

- ・ 回答者の性別は、男性が47.7%（612人）、女性が51.5%（661人）であった（図表46）。また、平均年齢は、男性が69.5歳、女性が70.4歳であった（図表48）。
- ・ 調査日に回答者が受診した歯科医療機関の種類は、男性では、「診療所」が93.6%、「病院」が4.7%、「大学病院・歯学部附属病院」が1.1%であった。女性では、「診療所」が94.6%、「病院」が3.3%、「大学病院・歯学部附属病院」が1.2%であった（図表49）。
- ・ 受診した歯科医療機関との関係は、男性では、「かかりつけの歯科医療機関である」が97.9%、「かかりつけの歯科医療機関ではない」が2.1%であった。女性では、「かかりつけの歯科医療機関である」が96.2%、「かかりつけの歯科医療機関ではない」が3.5%であった。また、全ての年齢階級で「かかりつけの歯科医療機関である」が9割以上であった（図表51、図表52）。
- ・ 当該歯科医療機関を知った方法は、男性では「家族や友人・知人などからの口コミ」が75.5%と最も多く、次いで「ホームページなど、自分自身で探した」（6.4%）、「他の歯科医療機関からの紹介」（3.3%）の順であった。女性では、「家族や友人・知人などからの口コミ」が80.0%で最も多く、次いで「ホームページなど、自分自身で探した」（5.9%）、「他の歯科医療機関からの紹介」（3.2%）の順であった。年齢階級別では、いずれの年齢階級別にみても「家族や友人・知人などからの口コミ」が7割以上を占める結果となった（図表53、図表54）。
- ・ 入れ歯の修理以外の治療内容は、男性では「他の治療は受けていない」が38.4%で最も多く、次いで「歯周病の治療」（28.4%）、「新しい入れ歯の製作や調整」（24.5%）、「むし歯の治療や歯の根の治療」（22.1%）の順であった。女性では「他の治療は受けていない」が34.2%と最も多く、次いで「歯周病の治療」（25.1%）、「新しい入れ歯の製作や調整」（23.6%）、「むし歯の治療や歯の根の治療」（22.4%）であった（図表55）。
- ・ 修理から戻った入れ歯の種類は、男性では「総入れ歯」が27.1%、「部分入れ歯」が71.7%であった。女性では「総入れ歯」が25.7%、「部分入れ歯」が73.2%であった。年齢階級別では、年齢が高くなるのに伴い「総入れ歯」と回答する割合が高くなっている（図表57、図表58）。
- ・ 修理から戻った入れ歯の個数の平均は、総入れ歯では、男女とも1.1個であった。年齢別にみると、「75～79歳」が1.2個、「60～64歳」「80歳以上」が1.1個、「60歳未満」「65～69歳」「70～74歳」が1.0個であった。部分入れ歯では、男女別、年齢別ともに1.1個であった（図表59、図表60）。

- ・ 修理から戻った部分入れ歯の歯の本数は、男性では、「5本～8本」(34.6%)が最も多く、次いで「1本～4本」(24.5%)、「9本～11本」(20.0%)となった。女性では「5本～8本」(34.9%)が最も多く、次いで「9本～11本」(23.9%)、「1本～4本」(22.5%)となった。年齢階級別では、「60歳未満」では、「1本～4本」(24.6%)、「5本～8本」(37.7%)が、全体に比べ高い割合となっている。同様に、「60～64歳」では「9本～11本」(25.0%)、「65～69歳」では「1本～4本」(26.8%)、「12本～14本」(19.1%)、「70～74歳」では「5本～8本」(37.7%)、「80歳以上」では「12本～14本」(20.3%)が全体に比べ高い割合となった(図表 61、図表 62)。
- ・ 入れ歯が戻ってきた時期は、男性は「入れ歯をあずけた当日」が 89.4%、「入れ歯をあずけた日の翌日」が 8.2%であった。女性は「入れ歯をあずけた当日」が 88.0%、「入れ歯をあずけた日の翌日」が 7.4%であった(図表 63)。
- ・ 修理した入れ歯が戻ってくるまでの期間についての評価は、「ちょうどよかった」が 28.5%と最も多く、次いで「短く感じた」(17.8%)、「とても短く感じた」が 14.8%であった。男女別では、男性は「ちょうどよかった」が 28.9%と最も多く、次いで「短く感じた」(19.3%)、「とても短く感じた」(14.5%)であった。女性は「ちょうどよかった」が 28.4%と最も多く、次いで「短く感じた」(16.5%)、「とても短く感じた」(14.8%)であった。年齢階級別では、いずれの年齢階級でみても「ちょうど良かった」が最も多くなっている。また、「60歳未満」で「短く感じた」と回答した割合が高くなっている。入れ歯が戻ってきた時期別では、入れ歯をあずけた当日に入れ歯が戻ってきた人は「ちょうどよかった」が 27.4%と最も多く、次いで「短く感じた」(18.0%)、「とても短くなった」(16.0%)であった。入れ歯をあずけた翌日に入れ歯が戻ってきた人は「ちょうどよかった」が 48.0%と最も多く、次いで「長く感じた」(22.0%)、「短く感じた」(19.0%)となった(図表 64、図表 65、図表 66、図表 67)。
- ・ 修理期間中に感じた支障は、男性では、「支障を感じなかった」が 29.4%と最も多く、次いで「やや支障を感じた」(19.0%)、「ほとんど支障を感じなかった」(16.2%)の順であった。女性では「診療のその場で修理が終わったため、支障を感じなかった」が 34.6%と最も多く、次いで「やや支障を感じた」(18.2%)、「ほとんど支障を感じなかった」(15.9%)の順であった。時期別では、入れ歯をあずけた当日では、「診療のその場で修理が終わったため、支障を感じなかった」が 36.1%と最も多く、次いで「ほとんど支障を感じなかった」(16.2%)、「やや支障を感じた」(15.7%)の順であった。入れ歯をあずけた翌日では「やや支障を感じた」が 53.0%と約半数を占め、次いで、「とても支障を感じた」が 25.0%、「ほとんど支障を感じなかった」が 16.0%であった(図表 68、図表 69)。
- ・ 修理期間中における食事方法は、男女とも「診療のその場で修理が終わったため、いつもどおりの食事をした」が約半数を占める結果となった。年齢階級別では、いずれの年齢階級においても「診療のその場で修理が終わったため、いつもどおりの食事をした」が最も多くなっている。特に、「60～64歳」「75～79歳」「80歳以上」では 50%を超える結果となった。また、「60歳未満」では、「入れ歯なしでいつも通りの食事を

した」と回答した割合が他の年齢階級に比べ相対的に高い結果となった。修理から戻った入れ歯の種類別では、総入れ歯では、「診療のその場で修理が終わったため、いつもどおりの食事をした」が58.1%と最も多く、次いで「入れ歯なしで食べやすいものに変えた食事をした」(18.5%)であった。部分入れ歯では、「診療のその場で修理が終わったため、いつもどおりの食事をした」が48.0%と最も多く、次いで「入れ歯なしで食べやすいものに変えた食事をした」(23.0%)、「入れ歯なしでいつもどおりの食事をした」(10.9%)の順となった。入れ歯が戻ってきた時期別では、入れ歯をあずけた当日では、「診療のその場で修理が終わったため、いつもどおりの食事をした」が55.2%と最も多く、次いで、「入れ歯なしで食べやすいものに変えた食事をした」(18.4%)、「入れ歯なしでいつもどおりの食事をした」(7.8%)であった。入れ歯をあずけた翌日では、「入れ歯なしで食べやすいものに変えた食事をした」が67.0%と最も多く、次いで「入れ歯なしでいつもどおりの食事をした」(22.0%)、「不自由ながら合わない旧い入れ歯でいつもどおりの食事をした」(7.0%)であった(図表70、図表71、図表72、図表73)。

- ・ 入れ歯修理に関する説明の有無は、男性では、「修理と歯科技工加算の両方の説明」が34.3%、「修理についての説明」が51.3%、「歯科技工加算についての説明」が1.8%、「説明を受けていない」が4.6%であった。女性では、「修理と歯科技工加算の両方の説明」が40.2%、「修理についての説明」が43.7%、「歯科技工加算についての説明」が2.4%、「説明を受けていない」が4.7%であった。年齢階級別では、いずれの年齢階級においても「修理についての説明」が「修理と歯科技工加算の両方の説明」よりも大きくなっている。特に「70～74歳」において「修理についての説明」が他の年齢階級に比べ高い回答となった。また、「80歳以上」では、「説明を受けていない」と回答した割合が他の年齢階級に比べ高くなっている。施設別では、診療所では「入れ歯の修理と歯科技工加算の両方の説明を受けた」が37.4%、「入れ歯の修理について説明を受けた」が37.7%であった。病院では「入れ歯の修理と歯科技工加算の両方の説明を受けた」が38.5%、「入れ歯の修理について説明を受けた」が47.7%であった。大学病院・歯学部附属病院では「入れ歯の修理と歯科技工加算の両方の説明を受けた」が20.0%、「入れ歯の修理について説明を受けた」が46.7%であった(図表74、図表75、図表76)。
- ・ 受けた説明に対する満足度は、男性では、「満足している(「とても満足している」と「満足している」の合計。以下同様)」が90.3%であった。女性では、「満足している」が86.7%であった。年齢階級別では、いずれに年齢階級においても「満足している」が80%以上を占める結果となった。特に、「60～64歳」「75～79歳」で「満足している」の回答割合が90%を超える結果となった。受診した施設別では、いずれの施設をみても「満足している」の回答が80%以上を占める結果となった(図表77、図表78、図表79)。
- ・ 修理が終わった入れ歯の満足度は、男性では、「満足している(「とても満足している」と「満足している」の合計。以下同様)」が93.2%、女性では91.0%であった。年齢階級別では、いずれの年齢階級においても「満足している」が9割を超える結果となった。入れ歯の種類別では、総入れ歯では、「満足している」が94.7%、部分入れ歯では、92.8%

であった（図表 80、図表 81、図表 82）。

- ・ 歯科技工加算の認知度は、男性では「知っていた」が 14.1%、「知らなかった」が 84.3%であった。女性では、「知っていた」が 15.4%、「知らなかった」が 81.2%であった。年齢階級別では、「60～64 歳」をピークに年齢が高くなるのにも伴い「知っていた」という回答割合が下がる結果となった。受診した施設別では、診療所では「知っていた」が 14.7%、「知らなかった」が 82.9%であった。病院では「知っていた」が 15.4%、「知らなかった」が 82.7%であった。大学病院・歯学部附属病院では「知っていた」が 6.7%、「知らなかった」が 86.7%であった（図表 83、図表 84、図表 85）。
- ・ 歯科技工加算の施設基準を満たしていることの事前認知の有無は、男性では「通い始める前から知っていた」が 10.5%、「通い始めてから知った」が 31.5%、「知らなかった」が 55.9%であった。女性では「通い始める前から知っていた」が 10.6%、「通い始めてから知った」が 35.4%、「知らなかった」が 52.2%であった。年齢階級別では、「65～69 歳」「80 歳以上」で「通い始める前から知っていた」の回答が全体に比べ高い結果となった（図表 86、図表 87）。
- ・ 歯科技工加算の施設基準を満たしていることの事前認知方法は、男性では「他の歯科医療機関から紹介されて」が 4.7%、「家族や友人・知人などから口コミで」が 71.9%、「ホームページなど、自分自身で調べて」が 4.7%であった。女性では「他の歯科医療機関から紹介されて」が 4.3%、「家族や友人・知人などから口コミで」が 74.3%、「ホームページなど、自分自身で調べて」が 5.7%であった。年齢階級別では、「65～69 歳」「70～74 歳」「80 歳以上」で「他の歯科医療機関から紹介されて」と回答した割合が全体に比べ高くなっている。また、「60 歳未満」「70～74 歳」では「家族や友人・知人からの口コミで」の回答が、「60 歳未満」「60～64 歳」「70～74 歳」では、「ホームページなど、自分自身で調べて」の回答が全体に比べ高くなっている（図表 88、図表 89）。
- ・ ポスターの認知度は、男性では、「見たことがある」が 50.3%、「見たことはない」が 45.9%であった。女性では、「見たことがある」が 53.7%、「見たことはない」が 43.1%であった。年齢階級別では、「60～64 歳」「65～69 歳」で若干さがるものの「見たことがある」が 5 割を超える結果となった。受診した施設別では、診療所では「見たことがある」が 53.8%、「見たことはない」が 43.1%であった。病院では、「見たことがある」が 30.8%、「見たことはない」が 63.5%であった。大学病院・歯学部附属病院では「見たことがある」が 20.0%、「見たことはない」が 73.3%であった（図表 90、図表 91、図表 92）。
- ・ ポスターのわかりやすさは、男性では、「わかりやすかった（「とてもわかりやすかった」と「わかりやすかった」の合計。以下同様）」が 58.8%であった。女性では、「わかりやすかった」が 62.6%であった。年齢階級別では、「65～69 歳」「80 歳以上」をのぞいていずれの年齢階級においても「わかりやすかった」が 6 割を超える結果となった（図表 93、図表 94）。
- ・ 歯科技工加算をポスターで知らせることは、男性では、「よいと思う」が 87.9%、「不満である」が 3.9%であった。女性では、「よいと思う」が 89.1%、「不満である」が 3.8%

であった。年齢階級別では、「60歳未満」「60～64歳」「65～69歳」では9割以上が、「70～74歳」「75～79歳」「80歳以上」では8割以上が「よいと思う」と回答している結果となった（図表95、図表96）。

- ・ 歯科技工室があることへの安心感は、男性では、「高まる（「大いに高まる」と「やや高まる」の合計。以下同様）」が85.1%であった。女性では、「高まる」が87.9%であった。年齢階級別では、いずれの年齢階級においても8割以上が「高まる」と回答している結果となった（図表97、図表98）。
- ・ 常勤の歯科技工士がいることへの安心感は、男性では「高まる（「大いに高まる」と「やや高まる」の合計。以下同様）」が89.4%であった。女性では、「高まる」が92.3%であった。年齢階級別では、いずれの年齢階級をみても「高まる」が9割を超える結果となった（図表99、図表100）。
- ・ 入れ歯修理がすぐできる体制が整えられた歯科医療機関の利用希望は、男性では「そう思う（「とてもそう思う」と「そう思う」の合計。以下同様）」が94.9%であった。女性では「そう思う」が96.0%であった。年齢階級別では、いずれの年齢階級でも「そう思う」が9割以上となった（図表101、図表102）。
- ・ 理想とする入れ歯修理期間は、男性では、「あずけた当日（1日目）」が78.3%、「あずけた翌日（2日目）」が13.4%となった。女性では、「あずけた当日（1日目）」が79.3%、「あずけた翌日（2日目）」が13.8%となった。男女とも「あずけた当日（1日目）」と「あずけた翌日（2日目）」の回答の合計が9割以上を占める結果となった。年齢階級別では、「70～74歳」を除き、「あずけた当日（1日目）」と「あずけた翌日（2日目）」の回答の合計が9割以上を占める結果となった（図表103、図表104）。
- ・ 日常生活に強い支障が出ないと思われる修理期間は、男性では「あずけた当日（1日目）」が30.1%、「あずけた翌日（2日目）」が37.3%であった。女性では「あずけた当日（1日目）」が33.4%、「あずけた翌日（2日目）」が34.9%であった。男女とも「あずけた当日」と「あずけた翌日（2日目）」の回答の合計が約7割を占める結果となった。年齢階級別では、いずれの年齢階級をみても、「あずけた当日（1日目）」と「あずけた翌日（2日目）」で6割以上を占める結果となった（図表105、図表106）。



②常勤の歯科技工士の配置時期はいつですか。注) 1または2のいずれかに○をつけ、2に○をつけた場合は、配置した月をご記入ください。

1. 2009年12月以前                      2. 2010年以降→(                      )月頃

③「歯科技工加算」の届出にあたって、**常勤**の歯科技工士を増員しましたか。※○は1つだけ

1. 増員していない                      2. 増員した

↓

③-1 どのような形態で何名増員しましたか。※あてはまるものすべてに○、人数も記入

1. 新規採用した→(                      )人                      2. 非常勤から常勤にした→(                      )人

④「歯科技工加算」の届出にあたって、**非常勤**の歯科技工士を増員しましたか。※○は1つだけ

1. 増員していない

2. 増員した →④-1 増員した人数:(                      )人

⑤歯科技工室および必要な機器を整備した時期をご記入ください。                      西暦(                      )年(                      )月頃

⑥有床義歯を迅速に修理する体制を整備していることについて、患者にどのように周知していますか。  
※あてはまるものすべてに○

1. 診察室や待合室、支払窓口などの施設内にポスターを貼っている

2. リーフレット等を来院患者に配付している

3. 歯科医師が直接説明している

4. その他(具体的に                      )

⑦歯科技工加算について、どのような内容の院内掲示をしていますか。※あてはまるものすべてに○

1. 施設内に歯科技工室があること

2. 施設内に常勤の歯科技工士を配置していること

3. 有床義歯を迅速に修理する体制を整備していること

4. 「歯科技工加算」の施設基準を満たしている施設であること

5. 迅速な修理をした場合、追加の患者負担(費用)が発生すること

6. その他(具体的に                      )

⑧歯科技工加算についての院内掲示をすることは、患者に当該加算を周知するのに効果的ですか。  
※○は1つだけ

1. とても効果的である                      2. 効果的である                      3. どちらでもない

4. あまり効果的でない                      5. 全く効果的でない

3. 貴施設における有床義歯修理の状況についてお伺いします。

①2010年(平成22年)4月から9月における各月の**歯科外来患者総数(当月の初診患者と再診患者の総数)**をご記入ください。注) 該当なしは「0(ゼロ)」、わからない場合は「-」をご記入ください。

4月	5月	6月	7月	8月	9月
(                      )人					

②2010年(平成22年)4月から9月における各月の**「歯科技工加算」の算定患者総数**をご記入ください。  
注) 該当なしは「0(ゼロ)」、わからない場合は「-」をご記入ください。

4月	5月	6月	7月	8月	9月
(                      )人					

③「歯科技工加算」の届出以降、貴施設内で修理する有床義歯の延べ床数はどのように変化しましたか。  
※○は1つだけ

1. とても増えた(2割増以上)                      2. 増えた                      3. 今までと変わらない

4. 減った                      5. とても減った(2割減以下)



## 4. 施設内の歯科技工士の活用による効果についてお伺いします。

①貴施設内の歯科技工士の活用によって、どのような効果があると考えられますか。 ※「大いにあてはまる」を「5」、「全くあてはまらない」を「1」として5段階で評価し、あてはまる番号にそれぞれ1つだけ○をつけてください。					
	大いにあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
1) 有床義歯を修理して患者に戻すまでの時間が短くなる	5	4	3	2	1
2) 有床義歯の修理中に、歯科医師が同一患者の他の治療や他の患者の処置をできるようになる	5	4	3	2	1
3) 困難な有床義歯の修理にも対応できるようになる	5	4	3	2	1
4) 歯科技工士に対してよりの確に指示ができるようになる	5	4	3	2	1
5) 有床義歯等の修理に対する患者の安心感が増したように感じる	5	4	3	2	1

## 5. 歯科技工加算の問題点・課題等について、ご意見・ご要望などがありましたらご記入ください。

ご協力いただきまして、ありがとうございました。



② 本日、修理からもどってきた入れ歯の種類と個数をお答えください。

※「1.総入れ歯」または「2.部分入れ歯」を選んだあと、( ) 内に修理した**入れ歯の個数**をご記入ください。

- |          |   |                      |         |
|----------|---|----------------------|---------|
| 1. 総入れ歯  | → | <b>入れ歯の個数</b> ：( ) 個 | →質問③へ   |
| 2. 部分入れ歯 | → | <b>入れ歯の個数</b> ：( ) 個 | →質問②-1へ |

②-1 上記②の部分入れ歯の**歯の本数**は何本ですか。(ご自身の残っている歯の本数ではありません。)

※修理して戻ってきた部分入れ歯が2個以上ある場合は、それぞれの歯の本数について、あてはまる番号に○をつけてください。部分入れ歯が1個の場合は、○は1つだけ。

- |            |          |           |
|------------|----------|-----------|
| 1. 1本～4本   | 2. 5本～8本 | 3. 9本～11本 |
| 4. 12本～14本 | 5. わからない |           |

③ 修理のために歯科医療機関にあずけた入れ歯が、あなたにもどってきたのはいつですか。  
※○は1つ

- |               |                 |
|---------------|-----------------|
| 1. 入れ歯をあずけた当日 | 2. 入れ歯をあずけた日の翌日 |
|---------------|-----------------|

④ 修理のために歯科医療機関にあずけた入れ歯が、あずけた日の翌日までにあなたにもどってくることに、どのように感じましたか。※○は1つ

- |             |             |             |
|-------------|-------------|-------------|
| 1. とても長く感じた | 2. 長く感じた    | 3. ちょうどよかった |
| 4. 短く感じた    | 5. とても短く感じた |             |

⑤ 修理のために入れ歯をあずけていた間、お食事や会話、見た目などにどのくらい支障を感じましたか。※○は1つ

- |                               |                  |
|-------------------------------|------------------|
| 1. とても支障を感じた                  | 2. やや支障を感じた      |
| 3. どちらともいえない                  | 4. ほとんど支障を感じなかった |
| 5. 全く支障を感じなかった                |                  |
| 6. 診療のその場で修理が終わったため、支障を感じなかった |                  |

⑥ 修理のために入れ歯をあずけていた間、お食事はどのようにしていましたか。※○は1つ

- |                                     |
|-------------------------------------|
| 1. 入れ歯なしでいつもどおりの食事をした               |
| 2. 入れ歯なしで食べやすいものに変えた食事をした           |
| 3. 不自由ながら合わない旧い入れ歯でいつもどおりの食事をした     |
| 4. 不自由ながら合わない旧い入れ歯で食べやすいものに変えた食事をした |
| 5. 診療のその場で修理が終わったため、いつもどおりの食事をした    |
| 6. その他 (具体的に )                      |

## 4. 歯科技工加算について、おたずねします。

## 歯科技工加算とは・・・

本日あなたが受診した歯科医療機関は、「歯科技工加算」の施設基準を満たしています。この基準を満たしている歯科医療機関は、こわれた入れ歯を迅速に修理して患者にわたした場合、入れ歯の修理の費用として「200円」（自己負担はこのうち、例えば3割負担の患者の場合は、60円となります）を通常の入れ歯の修理の費用に上乗せして請求できるようになっています。また、施設内には、入れ歯などの修理がすぐできるように専用の部屋や機器があり、常勤の歯科技工士（歯科医師の指示により、入れ歯などの製作や修理などを行う者）が必ず1名以上います。このような施設の特徴をポスターなどでお知らせしています。

## ① 本日の診療で、取り外しのできる入れ歯について、どのような説明を受けましたか。 ※〇は1つ

1. 入れ歯の修理と歯科技工加算の両方の説明を受けた →質問①-1へ
2. 入れ歯の修理についての説明を受けた →質問①-1へ
3. 歯科技工加算についての説明を受けた →質問①-1へ
4. 入れ歯の修理と歯科技工加算の両方の説明を受けていない →質問②へ

## ①-1 受けた説明の内容はいかがでしたか。 ※〇は1つ

1. とても満足している
2. 満足している
3. どちらでもない
4. 不満である
5. とても不満である

## ② 本日、修理が終わった入れ歯の具合はいかがですか。 ※〇は1つ

1. とても満足している
2. 満足している
3. どちらでもない
4. 不満である
5. とても不満である

## ③ あなたは「歯科技工加算」を知っていましたか。 ※〇は1つ

1. 知っていた
2. 知らなかった

## ④ あなたは、本日受診した歯科医療機関が歯科技工加算の施設基準を満たしている施設であることを知っていましたか。 ※〇は1つ

1. 通い始める前から知っていた →質問④-1へ
2. 通い始めてから知った →質問⑤へ
3. 知らなかった →質問⑤へ

→ ④-1 そのことをどのように知りましたか。※○は1つ

1. 他の歯科医療機関から紹介されて
2. 家族や友人・知人などからの口コミで
3. ホームページなど、自分自身で調べて
4. その他（具体的に \_\_\_\_\_）

⑤ あなたは、本日受診した歯科医療機関で、入れ歯の修理が早くできる体制が整えられているといった内容のポスターなどを見たことがありますか。※○は1つ

1. ある
2. ない →質問⑥へ

→ ⑤-1 そのポスターはわかりやすかったですか。※○は1つ

1. とてもわかりやすかった
2. わかりやすかった
3. どちらでもない
4. わかりにくかった
5. とてもわかりにくかった

⑥ 「歯科技工加算」をポスターなどでお知らせすることをどのように思いますか。※○は1つ

1. よいと思う
2. 不満である →⑥-1 不満な理由をお書きください。

⑦ 歯科医療機関内に入れ歯の修理に必要な機器や専用の部屋（歯科技工室）があることにより、入れ歯の修理に対するあなたの安心感はどうなりますか。※○は1つ

1. 大いに高まる
2. やや高まる
3. あまり高まらない
4. 全く高まらない
5. よくわからない

⑧ 歯科医療機関内に歯科技工士が必ずいることにより、入れ歯の修理に対するあなたの安心感はどうなりますか。※○は1つ

1. 大いに高まる
2. やや高まる
3. あまり高まらない
4. 全く高まらない
5. よくわからない

5. 入れ歯治療についてのあなたの今後のご意向をおたずねします。

歯科保険診療の向上のためには、質問4. に示された歯科技工加算のように、歯科診療報酬の改定を行うとともに、これにより患者の自己負担や保険財源からの負担を求めることが必要となる場合があります。質問5. は、歯科技工加算に対する患者の意識等についておたずねするものです。

- ① 今後、入れ歯の修理がすぐできる体制が整えられた歯科医療機関を利用したいと思いませんか。※○は1つ

- |              |             |            |
|--------------|-------------|------------|
| 1. とてもそう思う   | 2. そう思う     | 3. どちらでもない |
| 4. あまりそう思わない | 5. 全くそう思わない |            |

【上記①で「4. あまりそう思わない」「5. 全くそう思わない」と回答した方におたずねします。】

→ ①-1 利用したいと思わない理由をお書きください。

- ② あなたは、入れ歯の修理を歯科医療機関にあずけてから何日目以内に終えてほしいと思いませんか。※○は1つ

注) 歯科医療機関にあずけた当日は「1日目」、あずけた日の翌日は「2日目」となります。

- |                  |                 |
|------------------|-----------------|
| 1. あずけた当日 (1日目)  | 2. あずけた翌日 (2日目) |
| 3. あずけた翌々日 (3日目) | 4. 4日目          |
| 5. 5日目以上         | 6. よくわからない      |

- ③ あなたは、歯科医療機関に入れ歯をあずけてからもどってくるまでの日何日目を超えると、日常生活に強い支障が出ると思いませんか。※○は1つ

注) 歯科医療機関にあずけた当日は「1日目」、あずけた日の翌日は「2日目」となります。

- |                  |                 |
|------------------|-----------------|
| 1. あずけた当日 (1日目)  | 2. あずけた翌日 (2日目) |
| 3. あずけた翌々日 (3日目) | 4. 4日目          |
| 5. 5日目以上         | 6. よくわからない      |

6. 入れ歯の修理について、ご意見がございましたらお書きください。

ご協力いただき、ありがとうございました。調査専用の返信用封筒（切手は不要です）にアンケートを入れて、お近くのポストに11月18日（木）までに投函してください。